

# 外国語の授業づくりの手引き

Ver.1

令和6（2024）年度

教員養成機関等との連携による専門人材育成・確保事業  
(グローバル化に対応した外国語教育推進事業)

慶應義塾大学

令和7年2月

## 目次

はじめに.....	2
1. 導入.....	3
1.1 複数の外国語を学ぶ意義.....	4
1.2 資質・能力論.....	9
2. 単元指導案様式.....	14
2.1 単元指導案様式の書き方.....	15
2.2 単元指導案様式.....	27
3. 授業づくりの方法論.....	31
3.1 逆向き設計.....	32
3.2 パフォーマンス課題.....	36
3-3 観点別学習状況評価.....	51
4. 単元指導案事例.....	64
カリタス女子中学高等学校.....	65
東京都立第五商業高等学校.....	69
横浜市立みなと総合高等学校（1）.....	75
横浜市立みなと総合高等学校（2）.....	81
都立青梅総合高等学校.....	86
神奈川県立藤沢総合高等学校（1）.....	90
神奈川県立藤沢総合高等学校（2）.....	94
東京都立北園高等学校.....	99
神奈川県立深沢高等学校.....	104
埼玉県立坂戸高等学校.....	108
獨協高等学校.....	114
岡山商科大学附属高等学校.....	119
大阪府立門真なみはや高等学校.....	124
新潟市立石山中学校.....	129
メンバー一覧.....	134

# はじめに

慶應義塾大学では、外国語教育研究センター研究推進委員会を受け皿として、平成 29（2017）年度から令和 6（2024）年度まで（センター独自事業として実施した 2020 年度を除く）文部科学省の委託を受け、高等学校における多様な外国語教育について研究を行ってきました。

この間の研究テーマは一貫して、平成 30 年度に改訂された新しい高等学校学習指導要領で説かれた内容を、外国語教育の現場にどのように落とし込み、効果的な授業を実施するかというものでした。特に令和 5 年度からは、文部科学省の事業名が「専門機関等との連携による専門人財育成・確保事業」となり、多様な外国語教育を担う教師の指導力向上を支援する取り組みに重点が置かれたことで、それまでの研究成果を土台として、『外国語の授業づくりの手引き』の作成を中心にプロジェクトを展開してきました。

今年度は、昨年度発行した『外国語の授業づくりの手引き（試行版）』の内容を精査し、より現場で使いやすいものにするのを心掛け、『外国語の授業づくりの手引き Ver.1』を作成しました。

本書は 4 部構成となっています。

第 1 章では、新学習指導要領やその核心である資質・能力論、複言語主義について解説するとともに、プロジェクトが独自に作成した「高校初修外国語の見方・考え方」を提案しています。

第 2 章では、本プロジェクトが開発した単元指導案様式の作成要領を具体例に沿って解説し、第 3 章では、授業づくりの方法論として、逆向き設計やパフォーマンス課題、令和 6 年度から高等学校で導入された観点別学習状況評価についてわかりやすく紹介しています。

第 4 章では、本プロジェクトのメンバーによる単元指導案（6 言語、14 編）を収録しています。

プロジェクトが主な対象としてきたのは「高校初修外国語」ですが、「英語」を担当する先生方にも使っていただけたらと考えています。本書が、高等学校で外国語教育に携わる、より多くの教員の手元に届き、外国語の授業の質の向上につながることを願っています。

2025 年 2 月

# 1. 導入

複数の外国語を学ぶ意義と、資質・能力論について紹介します。

## 1.1 複数の外国語を学ぶ意義

### (1) はじめに

本章では、まず日本の高校における英語以外の外国語教育の現状を概観し、その後に、複数の外国語を学ぶ意義を考えます。特に、英語のように実用的価値がないとされる言語をなぜ学ぶのか、またそれは今日の日本の若者にどのような意味を持つのかを、資質・能力論も踏まえて考察します。そこで焦点となるのは、日本社会と世界の多様性に対応した多角的な視点の獲得と共生のための他者理解の力です。

最後に、このプロジェクトでの議論を基に、私たちがまとめた「高校初習外国語の見方・考え方」を示します。

### (2) 日本の高校における英語以外の外国語の履修状況

現在、日本の高校で学ばれている英語以外の外国語の数は、一般社団法人日本外国語教育推進機構（以下 JACTFL とする）による 2023 年の調査「日本の高等学校等における英語以外の外国語科目の開設状況に関する調査」<sup>1</sup>によれば、31 です。その内、中国語、韓国・朝鮮語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、ロシア語、イタリア語、インドネシア語、ポルトガル語、モンゴル語、ネパール語、フィリピン（タガログ）語、タイ語、ベトナム語の 14 言語に関しては、文部科学省（以下文科省とする）も 2021 年度の統計データを 2023 年に公表しています。JACTFL では、網羅的な調査を行なっていますので、そちらの数字を採用すれば、英語以外の外国語教育実施校の数は 682 に上り<sup>2</sup>、全高等学校数の 13.3%となり、7.5 校に 1 校が開設していることとなります。

一方、実際に授業を受けている生徒の数は、文科省によれば 2021 年度で 42,324 人であり<sup>3</sup>、それを基に計算すると全高校生の 1.45%に過ぎません。英語以外の外国語が開講されていても、必修ではなく選択科目とされていることが多いからです。小学校に「外国語活動」が導入され<sup>4</sup>、2020 年度には 5 年生から「外国語」が教科化されて、事実上全ての高校生が履修している英語に比べて、非常に少ない履修者数に留まっています。これは、「1+2 言語政策」（全ての生徒が母語以外に二つの言語を学ぶという政策）を取っている EU 諸国と比較にならないのはもちろんのこと、日本の近隣諸国の現状と比べても、決して豊かな外国語教育が行われているとは言えない状況です。

---

<sup>1</sup> 「日本の高等学校等における英語以外の外国語科目の開設状況に関する調査」（JACTFL、2023 年 3 月）、[https://www.jactfl.or.jp/?page\\_id=4240](https://www.jactfl.or.jp/?page_id=4240)（2024 年 2 月 13 日閲覧）。

<sup>2</sup> 文科省の調査では 607 校となっている。

<sup>3</sup> 「高等学校等における国際交流等の状況についてお知らせします」（文部科学省、2023 年 3 月 31 日）、[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/koutou/ryugaku/koukousei/20230403-mxt\\_kouhou02-1.pdf](https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/ryugaku/koukousei/20230403-mxt_kouhou02-1.pdf)（2024 年 2 月 1 日閲覧）。

<sup>4</sup> 2011 年度に 5・6 年生を対象に導入された。5・6 年生の「外国語」教科化に伴い、「外国語活動」は 3・4 年生に下された。

### (3) 学習指導要領に見る英語と英語以外の外国語の扱いの違い

『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 外国語編 英語編』は全体で231ページありますが、その内英語以外の外国語に関する記述は2ページしかありません。

学習指導要領における英語以外の外国語に関する記述は以下のとおりです。

- 1 その他の外国語に関する科目については、第1から第6まで及び第3款に示す英語に関する各科目の目標及び内容などに準じて指導を行う<sup>5</sup>ものとする。
- 2 高等学校において英語以外の外国語を初めて履修させる場合には、生徒の学習負担等を踏まえ、適切に指導するものとする<sup>6</sup>。

この内1を読めば、英語以外の外国語は英語に「準じて指導を行う」こととなりますが、小学校から開始する英語と、高校に入ってから学び始める言語では同じように学ぶことはできませんので、どうして「準じて」教育することができるだろうかと頭を捻ってしまいます。一方、2には「生徒の学習負担等を踏まえ、適切に指導するものとする」とあり、さらにその解説には、「高等学校において英語以外の外国語を初めて履修させる場合は、基本的な言語材料を扱い、生徒の習熟の程度に応じた言語活動を行うよう適切な配慮が必要である」（下線は筆者による）とあるので、初修の外国語として、その状況に即して初歩から適宜指導を行うこと、と理解できると思います。いずれにしても、学習指導要領における英語とそれ以外の外国語の扱いにはこのような違いがあります。

### (4) 複数の外国語を学習する意義 1

英語以外の外国語は、仮に高校1年で履修を開始したとしても、その時点ですでに英語とは学習年数に5年の開きがあります。多くは選択科目であり、学習できる内容やそれによって到達可能なスキルは英語には及びません。それでもなお学習する意義はどこにあるのでしょうか。

外国語は、言うまでもなく未知の世界に開かれた窓であり、また若者が未踏の地に向かう入り口でもあります。英語を学ぶことによって開かれた窓から世界を見て、世界に飛び立つ可能性はよく言われるところです。英語という窓の重要性は万人が認めるところでしょう。しかし、窓は英語だけで良いのでしょうか。英語の窓は、知らず知らずのうちに英語を話す人たちの価値観、世界観に大きな影響を受けています。いくら英語が国際共通語であるからといって、その元になったアングロ・サクソン文化圏のもの見方に強く規定されていることは事実ではないのでしょうか。例えば、日本のテレビや新聞の報道だけでは、

---

<sup>5</sup> ここでは、一般的なケースとして、高校で初めて学ぶ外国語（初習外国語）の例を主に考えていますが、小学校からフランス語を継続的に学んで、高校で第1外国語として履修するケースもあります。

<sup>6</sup> 『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 外国語編 英語編』（文部科学省、2018）、pp. 121-122。

ウクライナ問題は理解できないと思ってBSテレビのニュースを見たとしても、BBCやCNNのニュースだけでは、やはりその母体になる国や文化の価値観や利害関係に絡め取られてしまう危険性があります。それらを批判的に見ると同時に、他の国のニュースをも批判的に見て、それらを比較しながら自分自身の見方を培うことが必要でしょう。その時に、必ずしも言語学習の成果（スキル）が直接生かされないとしても、複数の言語の学習を通して獲得した、開かれたものの見方は、世界を偏見なく理解するために不可欠のものであると思います。

山登りに例えてみましょう。岩場で安全に、一步一步登るためには4本の手足のうちの3本で体を支え、残る1本を動かすという3点確保が重要だと言われます。日本語と英語だけでは2点しか確保できず、とても不安定ですが、それにもう一つ別の言語が加わると3点になり、より安全により確実に登頂することができるようになります。世界をよく知り、他者を理解し、他者と共生していくためには、この3点確保が必要なのです。

#### **(5) 複数の外国語を学習する意義2**

現在の学習指導要領では、英語は「英語コミュニケーション」を中心として構成されています。英語が国際共通語として機能している現状では、その英語でコミュニケーションが取れるようになることには大きな意味があり、むしろ必須のことであるとも言えます。しかし、ややもすると4技能5領域のスキルを伸ばすことに過度な重点が置かれ、この学習指導要領の基盤をなす資質・能力論で伸ばすべきとされる汎用的能力（問題解決能力、論理的思考、メタ認知能力など）の育成が陰に隠れてしまう危うさを感じます。4技能5領域のスキルは狭義では「知識・技能」に相当しますが、これは「生きて働く」ものでなくてはなりませんし、学んで「理解していること・できること」は「未知の状況にも対応できる」「思考力・判断力・表現力」とならなければなりません。また、「学びを人生や社会に生かそうとする」「学びに向かう力・人間性等」も涵養されなければならないとされています<sup>7</sup>。

私たちがこのプロジェクトで扱う高校における初修外国語の学習では、「知識・技能」の獲得こそ英語に及ばないにしても、汎用的能力は、具体的な日本社会や世界のあり方に対応して、そこで生かされる力や態度として生徒が身につけることを目指しています。

上記(2)で見たように、現在高校で履修されている初習外国語には、日本にいる外国人の母語を多く含んでいます。これらの言語を学ぶことは、それを通して日本社会にはさまざまな言語・文化の背景を持つ人々が数多く生活していること、そして彼らが日本社会のメンバーであり私たちの隣人であるという事実を知ることにつながります。この学びを通して多様な価値観に触れ、それらを少しでも理解しようとし、彼らと共に生きるという意欲を養うこと、これがこの教科の本質のひとつであると考えられます。自分が中国語を学んでうまく自己表現ができない、スペイン語でゴミ分別のルールをうまく説明できない、

---

<sup>7</sup> 奈須正裕『「資質・能力」と学びのメカニズム』（東洋館出版社、2017）、pp. 40-41。

などというもどかしい体験をすることは、日本で日本語を学びながら生活する人々の困難に思いを馳せるきっかけになるでしょう。異文化・異言語の人の「異なり」や「多様性」を言語運用を通して身をもって知ることは、物事を均質化してしまう傾向のある英語だけの学習ではできない、初習外国語学習の持つ特質であると考えます。それは、日本社会における共生のための言語学習とも言えるでしょう。

このプロジェクトでは、こうしたことを考究してきました。その結果、英語以外の外国語は、高校で初修であることが一般的なので、本書では、「高校初修外国語」を一つの教科と位置づけ、「高校初修外国語の見方・考え方」を以下に提案します。

「各教科等の見方・考え方」とは、学びの「深まり」の鍵となるものとして、学習指導要領において、全ての教科で整理されています<sup>8</sup>。教科外国語においては「外国語のコミュニケーションの見方・考え方」として、「外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、目的・場面・状況等に応じて、情報や自分の考えなどを形成、整理、再構築すること」となっています。

本プロジェクトでは、これを踏まえつつ、高校初修外国語の特質に応じて次のページのように整理しました。

---

<sup>8</sup> 文部科学省中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（2016年12月21日）を参照。

## 高校初修外国語の見方・考え方

①外国語、およびそれとむすびついた文化について、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、目的・場面・状況等に応じて情報や考えなどを形成・整理・再構築し、外国語で表現し伝え合うことによって、よりよい人間関係の形成、社会への参画および自己の実現をしようとする事。

### 【解説】

・外国語とむすびついた文化は単元目標に基づいた言語活動を通じてこそ理解される、という視点が大事であり、言語活動を伴わない、単なる文化紹介や文化体験プログラムにとどまるものではありません。

②手持ちの言語知識を使ったり、人の助けを借りたりすることで、コミュニケーションをはかることができることに着目して捉え、そうした手段を活用して、積極的に他者とコミュニケーションを取ろうとする態度を養成すること。

### 【解説】

・初修外国語であるためにまだあまり学力差が出ていない状況をふまえ、たとえ初歩的な表現であっても、臆せずにコミュニケーションを取ろうとすることによって他者と繋がることのできた経験を持ち、これまでの英語学習において心理的負担を感じていた生徒であっても、それを克服できる可能性がある。

③言語・文化の多様性に着目して捉え、目標言語や既習言語・自言語、およびそれとむすびついた文化について、多面的・多角的に見たり、自分で「気づき」を得たりする。

### 【解説】

・多面的・多角的に見ることは、日本語と英語という「2点」だけではなく、もう1つ別の言語を加えた「3点」を確保することによって、はじめて実現できることが多い。

④生涯にわたる豊かなことばの学びを実現する観点からことばの学びの価値や特性に着目して捉え、自らの課題を発見する力、「学び」の学びやメタ認知能力を養い、自律的学習者になること。

### 【解説】

・「学び」の学びとは、他者との協同的学習などの中で試行錯誤もしながら、自分にとって適した学習法を自分自身で学びとっていくこと。これによって学習者自身が自律的な学習者に育って行き、生涯にわたって学習を継続することが可能となる。

・メタ認知能力とは、自分の思考や行動を第三者の視点で客観的に把握し、認識すること ([https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/senseioun/mext\\_01500.html](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/senseioun/mext_01500.html))。

## 1.2 資質・能力論

単なる知識や技能ではなく、それらを活用して社会生活の中で遭遇する様々な問題に適切に対処し解決する力（これをコンピテンシー＝資質・能力と呼びます）を身につけ、より良い人生を送ることができるようにしようということが世界の教育界で目標となっています。別の言葉で言うと、教育における主要な問いは、もはや「何を知っているか」ではなく「何ができるか」に変わってきているのです。そこで求められているのは、具体的な問題を現に成し遂げる力なのです。

平成 30 年に告示された新しい高等学校学習指導要領は、まさにそうした現代的な学力のとらえ方を提示したものです。学習指導要領などと言うと、形式的なもの、と思う方もいるかも知れませんが、決してそうではありません。多くの研究者が参与し、コンピテンシーに基づく能力観へのシフトという世界的な流れも背景に、最新の教育研究の成果をもとに作られており、いま目の前にある教育課題を解決し得る、重要な内容が含まれています。

情報にアクセスするのが今のように簡単ではなかった時には、「何をいくつ知っているか」が大事でした。もちろん、知識や技能を持っていることは大切です。外国語で言えば、よく使う単語は覚えていないと何もできないでしょう。しかし今まではこの部分ばかりを重視し、単語や文法を大量に詰め込むことに熱中して、それらを実際のコミュニケーションでどのように使うのかという部分が疎かになってきたきらいがあります。また、そもそもなぜ外国語を学ぶのか、外国語を学んでどうするのかという問いに対しても、もしかしたらきちんとした答えを持ち合わせていなかったかも知れません。例えば英語は「入試で必要だから」「実用的だから」と言うとしたら、入試の先には何があるのか、また実用的であるとは何かといったことを、教員は考える必要があります。「英語以外の外国語」に至っては、入試と関係が無いことが多いですし、「実用的だから」と言う場合は、「世界は英語である、それ以外の外国語など学ぶ必要がない」と主張する人々に対し、きちんと反論できなければなりません。さらに——これは英語、英語以外の外国語を問わず——「自動翻訳の性能が上がれば、そもそも外国語を学習する必要はない」という意見に対しても、そうではないと明確に主張できる論拠を持っている必要があるでしょう。

さて、では新学習指導要領ではどのような方針がうち出されているのでしょうか。まず、第 1 章総則第 1 款には次のように書かれています。

3.2 の (1) から (3) までに掲げる事項の実現を図り、豊かな創造性を備え持続可能な社会の創り手となることが期待される生徒に、生きる力を育むことを目指すに当たっては、学校教育全体及び各教科・科目等の指導を通してどのような資質・能力の育成を目指すのかを明確にしながら、教育活動の充実を図るものとする。その際、生徒の発達の段階や特性等を踏まえつつ、次に掲げることが偏りなく実現できるようにするものとする。

(1) 知識及び技能が習得されるようにすること。

- (2) 思考力、判断力、表現力等を育成すること。
- (3) 学びに向かう力、人間性等を涵養すること。

これが、資質能力論に基づいて育成すべき三つの柱です。  
また、この部分に対する「解説」は次のように書かれています。

#### (1) 今回の改訂の基本的な考え方

①教育基本法、学校教育法などを踏まえ、これまでの我が国の学校教育の実践や蓄積を生かし、生徒が未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成することを目指す。その際、求められる資質・能力とは何かを社会と？共有し、連携する「社会に開かれた教育課程」を重視すること。

②知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成とのバランスを重視する平成21年改訂の学習指導要領の枠組みや教育内容を維持した上で、知識の理解の質を更に高め、確かな学力を育成すること。

③道徳教育の充実や体験活動の重視、体育・健康に関する指導の充実により、豊かな心や健やかな体を育成すること。

#### (2) 育成を目指す資質・能力の明確化

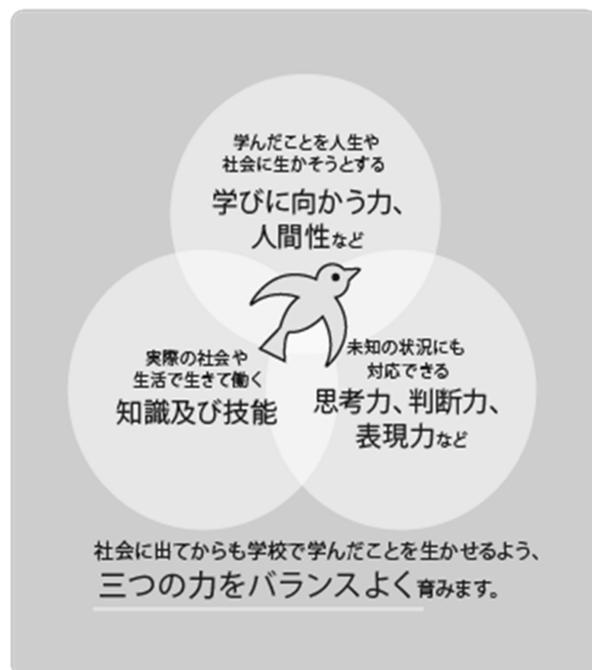
平成28年12月の中央教育審議会答申においては、予測困難な社会の変化に主体的に関わり、感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかという目的を自ら考え、自らの可能性を發揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身に付けられるようにすることが重要であること、こうした力は全く新しい力ということではなく学校教育が長年その育成を目指してきた「生きる力」であることを改めて捉え直し、学校教育がしっかりとその強みを發揮できるようにしていくことが必要とされた。また、汎用的な能力の育成を重視する世界的な潮流を踏まえつつ、知識及び技能と思考力、判断力、表現力等とをバランスよく育成してきた我が国の学校教育の蓄積を生かしていくことが重要とされた。

このため「生きる力」をより具体化し、教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力を、ア「何を理解しているか、何ができるか(生きて働く「知識・技能」の習得)」、イ「理解していること・できることをどう使うか(未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成)」、ウ「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養)」の三つの柱に整理するとともに、各教科等の目標や内容についても、この三つの柱に基づく再整理を図るよう提言がなされた。

今回の改訂では、知・徳・体にわたる「生きる力」を生徒に育むために「何のために学ぶのか」という各教科等を学ぶ意義を共有しながら、授業の創意工夫や教科書等の教材の

改善を引き出していくことができるようにするため、全ての教科等の目標や内容を「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で再整理した。

この2つの部分から、新学習指導要領の基本的な発想が解ります。最初は「(1) 知識及び技能が習得されるようにすること」です。ここだけ見ると、今までと何も変わらないように思うかも知れません。しかし解説ではこれが、生きて働く「知識・技能」の習得、と言い換えられています。知識や技能は「ともかく覚えろ」と言ってひたすら詰め込んだりするのではなく、「実際の社会や生活で生きて働く」ようにしましょうと言っているのです。そして、もしかしたら今までは知識や技能を教えて終わりだったかも知れませんが、ここではそうではなく、その次に「(2) 思考力、判断力、表現力等を育成すること」があります。また解説ではこの「思考力・判断力・表現力等」に、「未知の状況にも対応できる」という形容があります。知識や技能を習得しても、実際にそれらを使おうとした時は、教科書で出てきたのとは違う状況であることの方がむしろ普通ですよ。そのため、単に習った知識や技能を反復できるというだけではダメで、知識や技能を使って対応できる思考力、判断力、表現力を育てましょう、ということになります。さらにそこで終わりではなく、「(3) 学びに向かう力、人間性等を涵養すること」があります。また解説ではこれに「学んだことを人生や社会に生かそうとする」という形容があります。学んだことを人生や社会に生かすことが大事なので、そうしようとする人間性を養っていきましょう、と言っているのです。そしてこの(1)～(3)の「育成すべき資質・能力の三つの柱」によって、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」という「生きる力」を育てましょう、というのが新学習指導要領の骨子になります。整理すると右の図のようになります<sup>9</sup>。



ではこの「育成すべき資質・能力の三つの柱」は、外国語の授業で具体的にどう行うのでしょうか。新学習指導要領の第8節外国語・第1款目標を読んでみましょう。

<sup>9</sup> 画像は [https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/1383986.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1383986.htm) から引用（2025年2月2日閲覧）。

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。

(2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。

(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

(1) が生きて働く「知識・技能」の習得、(2) が未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成、(3) が学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養、にそれぞれ対応しています。

まず(1)ですが、単語や文法などは実際のコミュニケーションで活用できるように習得しましょう、と言っています。そのため教員側は、教科書のこの課に出てくる単語や文法事項を覚えます、というので終わるのではなく、こういうコミュニケーションのためにこういう単語や文法を習得するのだという姿勢を持つ必要があります。なおコミュニケーションと言うと、会話のことかと思ってしまうかもしれませんが、決してそれだけにとどまるわけではなく、「聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと」のすべてを含んでいることには注意してください。メールやポスターなど初修外国語で扱う素材となりうる、外国語で書かれた文章を読むのも作者、あるいはその所属する集団とのコミュニケーションとなるのです。

次に(2)ですが、例えば教科書の会話文を暗唱するだけで終わらせず、実際のコミュニケーションの目的・場面・状況に応じて自分で考え、自分で判断し、自分で表現できるようにしましょう、ということになります。例えばその時にネットを利用することもあるかも知れませんが、そうした情報を鵜呑みにするのではなく、自分の中できちんと咀嚼してからアウトプットしよう、ということにもなるわけです。またそれは同時に、どれだけ自動翻訳が発達したとしても、実際のコミュニケーションの目的・場面・状況に対応するためには、そうした思考力や判断力が必要だということも意味しています。この部分を育成するためには、教員が教室で一方的に知識を押しつけるだけではダメで、生徒側が自分で考えてアウトプットするといった仕掛けが必要になります。後の章で触れるパフォーマンス課題がこれ

にあたります。

そして(3)では、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う、ということが説かれています。この態度という部分は、授業での教員への態度、というような話ではありません。外国語でコミュニケーションを図ろうとする態度を身につけることで、その外国語を勉強しようとする意欲や学習ストラテジーを獲得すれば、自分でさらに勉強を続けていくこともできるわけです。英語の場合は、大学入試科目であるという「大きな問題」があり、場合によっては近視眼的な入試対策に進んでしまうこともありますが、教員が大切にすべきことは生徒がそうした態度を養うことです。もし受験ということを考えるのにも、そうして身につけた外国語を学ぶ意欲や学習ストラテジーが重要になります。

また、外国語の背景にある文化に対する理解、という部分も重要です。ここで言っている文化というのは、これこれの国ではこういうものを食べているとか、こういう服を着ているとか、いついつにはお祭りをするとか、ただ単にそういう話ではありません。例えば英語の *sister* は日本語では姉と妹に分かれますし、韓国語では、一般的に妹も弟も同じトンセンという単語を用います。また、英語では日本語の「お疲れ様です」に相当する表現はありませんが、それはそれぞれの言語の背景を成す文化が異なっているからで、そういう部分を理解しましょう、ということです。それは、自分とは異なる他者への配慮にも繋がってくるのです。

そして、そうした態度の獲得は、英語とそれ以外の外国語だと、自ずと方向性が異なって来ます。リングアフランカである英語以外の外国語の学習は、その言語の背景にある文化の理解という要素が非常に強く出てきますし、また英語だけ勉強していたのでは解らなかった学習ストラテジーが、それ以外の外国語を学ぶことで急に増えてくることはよくあります。英語以外の外国語は多くの場合大学受験科目ではないため、学習する意味を疑問視するむきもありますが、複数外国語を学ぶ意義については、前節で述べたとおりであり、二つめの外国語学習が、英語学習にとっても有益となるという事例も多く報告されています。さらに万が一、学習した外国語を実際に使うことがなかったとしても、そうして獲得した態度は人生の様々な分野で役に立てていくことができるのです。

## 2. 単元指導案様式

本プロジェクトで開発した単元指導案様式について紹介します。

## 2.1 単元指導案様式の書き方

本プロジェクトでは、高校初修外国語授業の現場で使える単元指導案様式の開発に取り組んできました。そのポイントは、

- 1 新学習指導要領における資質・能力の3つの柱ごとの目標を設定する。
- 2 習得した知識・技能を活用する「パフォーマンス課題」をゴールとする。
- 3 その目標の達成からバックワードして指導計画を作成するという「逆向き設計」を採用する。

これは、従前積み上げられてきた高校初修外国語教育の実践から得られた知見、成果を集大成したものと言えますが、さらに、学習指導要領の枠組みにも対応したものにすべく、『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』（中学・外国語）に示された単元指導計画の書き方を参考にしながら、この「書き方」を作成しました。

以下、プロジェクトで開発した高校初修外国語における単元指導案様式の書き方を、スペイン語の授業実践例をもとに説明していきます。

### ■授業の概要

#### 欄 1

1. 学校名：●●高等学校
2. 科目名：スペイン語
3. 単位数：2単位（50分×週2時間連続授業）、3年自由選択科目
4. 授業者：●● ●●（専任 外国語科）ALTなし
5. クラスの構成：男子1名 女子6名
6. 生徒の概況：スペイン語初修クラス。ほぼ全員が国際系の大学専門学校への進学を希望している。  
自由選択科目選択者のため学習意欲が高く、外国語への興味・関心が高い。
7. 使用教科書：●●●●●

#### 欄 1 〈書き方説明〉

授業者が、学習内容を決めて指導案を作成したり、指導案を他の授業者や関係者と共有するうえで必要な要素を記述します。

年間目標は、全体をまとめた本文（欄1）と、資質・能力の3つの柱ごと（欄2、欄3、欄4）に、作成します

## ■年間指導案

### 1. 年間目標

<p>実際の社会や生活で生きて働く 知識・技能の習得</p>	<p>未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成</p>	<p>学んだことを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養</p>
<p><b>欄1</b></p> <p>高校初修外国語の見方・考え方を働かせ、スペイン語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して簡単な情報や考えなどを理解したり状況を判断して的確に表現したり伝え合ったりするコミュニケーション能力を身に付ける。</p> <p>スペイン語圏の国々の文化や特徴などに関する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に楽しみながら スペイン語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。</p>	<p><b>欄2</b></p> <p>スペイン語の発音のしかたや語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付ける。</p> <p>スペイン語圏の各国により、語彙や発音が違うことを知る。</p>	<p><b>欄3</b></p> <p>スペイン語によるコミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて、日常的な話題や社会的な話題について、スペイン語を使って簡単な情報や考えなどを理解したり、表現したり伝え合ったりすることができる力を付ける。</p>
		<p><b>欄4</b></p> <p>スペイン語に結びついた文化とスペイン語圏の国々の特徴に関する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。</p> <p>スペイン語圏の国々の中でも文化や習慣がそれぞれ異なることを意識し、さらに自国の文化と比較対照しつつ考察し理解しようとする態度を養う。</p>

#### 欄1 〈書き方説明〉

(1) 本文は、1年間の学習活動が終わるまでに、生徒が何をできるようになり、どのように育ってほしいか、をイメージしながら、『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語編』及び「高校初修外国語の見方・考え方」（本書 p.10）を踏まえて記述します。その際、どの領域〈話す（対話）、話す（発表）、聞く、読む、書く〉を扱うのか、明記します。なお、本欄の目標は、生徒がどのような力を身に付けるのかを明確にするために設

定するものなので、以下の全ての欄では「生徒」が主語となるように記述します。授業者が生徒に何かをさせるものではないことに注意します。

～基本文例～

・「高校初修外国語の見方・考え方」を働かせ、●●語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーション能力を身につける。

・●●語の特性及び言語に結びついた文化や社会、●●語を使用する人々の考え方や価値観に関心を持ち、日本語圏、●●語圏、英語圏等の文化や社会を理解する。

(2) さらに、教師が授業運営上大事にしたいことがあれば、記述します。

以下欄2～欄4は、本文を資質能力の3つの柱別に記述します。

※「知識および技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」については、p.11を参照してください。

欄2 〈書き方説明〉

(1) 「知識」、「技能」をどのように習得するかを記述します。

(2) 「文化・社会事象 (p.20 参照)」について、新たに知見を得ようとするときは【知識】欄に記述します。その際の文末は「知る」とします。

～基本文例～

・●●語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付ける。

欄3 〈書き方説明〉

(1) 「思考力・判断力・表現力」をどのように育成するかを記述します。

※少ない学習時間であっても、簡単な情報をもとに考えて判断したり、これらを活用して表現したり、伝え合ったりすることにより、思考力・判断力・表現力の育成は十分可能です。チャレンジしてみましょう。

～基本文例～

・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、●●語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。

#### 欄4 〈書き方説明〉

(1) 「学びに向かう力・人間性」をどのように涵養するか記述します。

##### ～基本文例～

・●●語と結びついた文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に●●語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

(2) さらに、「高校初修外国語の見方・考え方」に基づき、以下の項目から選択して目標として設定することを推奨します。

- ① ●●語の特性や●●語を使用する人々の考え方、価値観に関心を持つとともに、日本および●●語圏に住む人々の文化や社会に目を向け、比較対照しつつ考察し理解しようとする態度を養う。
- ② コミュニケーションストラテジーを獲得しようとする態度を養う。
- ③ 目標言語や既習言語・自言語、およびそれとむすびついた文化について、自ら「気づき」を得たりするとともに、課題を発見したりする力、他者を尊重する態度、「学び」の学び、メタ認知能力などを養う。

## 2. 年間の単元構成

	単元の内容 欄1	パフォーマンス課題 欄2
1	○自己紹介をしてみよう ◇スペイン語のアルファベット、発音、アクセントに関する知識 ◇挨拶表現、自己紹介の表現	「自己紹介をしてみよう」
2	○他の人を紹介してみよう ◇主格の代名詞と ser 動詞 ◆スペイン語圏の国々と文化 ◆職業に関するスペイン語	「なりきり自己紹介」
3	○相手に質問してみよう ◇数字、時刻の表現 ◇疑問詞を使った表現 ◇estar と tener を使った体調の表現	「お互いにインタビューし合おう」
4	○好きなことについて話そう ◇¿Cuál es tu ~ favorito(a)?の表現	「好きなことについて話そう」
5	○外国人にインタビューしてみよう ◇¿Cuál es tu ~ favorito(a)?の表現 ◇基本的な規則動詞(-ar)動詞と用法	「外国人にインタビューしてみよう」 観光都市鎌倉で外国人観光客にインタビューしてみる。(プロフィール・好き

		な～)
6	○自己 PR に挑戦しよう ◇基本的な規則動詞(-ar -ir -er)動詞の用法	「自己 PR に挑戦しよう」 (推薦入試の面接を前提にしたパフォーマンス)
7	○スペイン語圏の国のお正月を紹介する番組に出演しよう ◇既習事項を使って発表する ◆スペイン語圏の国の魅力	「突撃○○(国名)のお正月」

### 欄 1 〈書き方説明〉

(1) おもな学習内容を記述します。○は単元名、◇は文法事項等の学習内容、◆は文化・社会事象 (p.20 参照) を表します。

### 欄 2 〈書き方説明〉

(1) 単元の目標に沿ってパフォーマンス課題を設定します。「3-2.パフォーマンス課題」を参照してください。

## ■単元指導案

この単元指導案様式は、「2. 単元構成」のなかで、パフォーマンス課題を設定した単元で使われることを想定としています。なお、一部を修正することにより、パフォーマンス課題を設定しない単元で使うこともできます。

### 1. 単元名

スペイン語圏の国のお正月を紹介する番組に出演しよう

### 2. パフォーマンス課題

(パフォーマンス課題の内容)

#### 欄 1

あなたはスペイン語圏の国に住んでいます(場面)。今回、日本のテレビ局の依頼で、あなたの国の正月のイベントを日本人に紹介する番組に出演することになりました(状況)。自己紹介を含めた3分程度の番組を制作してください(目的)。

(パフォーマンス課題で取り上げる文化・社会事象とその扱い方)

#### 欄 2

正月の過ごし方：スペイン語圏の国々の正月の過ごし方を調べ、各国の過ごし方を比較してその異同の背景を考察するとともに、日本の正月の過ごし方と比較する。それらと文化の連関について考察する。

### 欄1 〈書き方説明〉

(1) パフォーマンス課題は、授業内で学んだ知識・技能を活用して、ある場面・状況・目的において、生徒がアウトプットできるように設定し、記述します。場面・状況・目的の3つがそろってはじめてパフォーマンス課題となります。なお、詳しくは「3-2.パフォーマンス課題」を参照してください。

### 欄2 〈書き方説明〉

(1) 「高校初修外国語の見方・考え方」に基づいて、言語活動の中で、生徒が知ったり、気づいたり、比べたり、考えたりすることのできる文化・社会事象を記述します。

※「高校初修外国語の見方・考え方」（一部抜粋）（本書 p.8）

①外国語、およびそれとむすびついた文化について、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、目的・場面・状況等に応じて情報や考えなどを形成・整理・再構築し、外国語で表現し伝え合うことによって、よりよい人間関係の形成、社会への参画および自己の実現をしようとする。

#### 【解説】

- ・ここでいう文化の学びとは、単元目標に基づいた言語活動を通じてこそ理解される、という視点が大事である。
- ・また、単に文化コンテンツを紹介して終わりというものではなく、目標との関連を意識して授業活動に組み込むことが重要である。

単元目標では、年間目標のような本文は、設定（記述）しません。

### 3. 単元目標

実際の社会や生活で生きて働く 知識・技能の習得	未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成	学んだことを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養
<b>欄 1</b> <b>【知識】</b> スペイン語圏の国の正月の過ごし方を紹介する際に必要な語彙、表現、文法、言語の働きを理解する。 <b>【技能】</b> 番組を作成するのに必要な表現を正しく活用する技能を身に付ける。	<b>欄 2</b> テレビ番組（動画）によって視聴者に分かりやすく紹介するために、調査したスペイン語圏の正月の過ごし方の特徴について、考えたことや感じたことを、簡単な語句や文を用いて話すことができる。	<b>欄 3</b> 紹介の対象となるスペイン語圏の国の正月について調べ、それらをわかりやすいスペイン語で粘り強く表現しようとする。 また、正月の過ごし方がスペイン語圏の国々でも異なることを意識した上で、自国の文化とスペイン語圏の国々の文化を尊重する態度を養う。

#### 欄 1 〈書き方説明〉

(1) 単元で身に付ける【知識】と【技能】を別々に記述します。

##### ～基本的な記述方法～

- ・【知識】は、具体的な語彙・文法・表現を記述し、文末を「理解する」とします。
- ・【技能】は、一定の場面のもとで、ある知識を活用する技能を身に付けること及び、それが「5領域」のどれにあたるのかを記述し、文末は「～する技能を身に付ける」とします。

#### 欄 2 〈書き方説明〉

(1) この単元で設定したパフォーマンス課題によって、どのような思考力・判断力・表現力が身に付くのか記述します。

##### ～基本的な記述方法～

- ・【どのような目的・場面・状況\*】に応じて、【どのような話題】について（考えたことや感じたことを）、【知識・技能】を用い（るなどし）て【話す、聞く、書く、読む（いずれか一つ）】をして（理解／概要をとらえることが／表現／etc）できる、のように記述します。

\*目的・場面・状況については、上記「2. パフォーマンス課題 欄1〈書き方説明〉」および pp.36-37 を参照してください。

**欄3** 〈書き方説明〉

(1)「学びに向かう力・人間性」については、次の二つの考え方にもとづいて記述します。

①「学びに向かう力・人間性」は時間をかけて涵養され、特定の領域・単元だけではなく、年間を通じて達成されるものです。したがって、基本的には年間目標の考え方に沿って記述します。

②年間目標の中で、その単元では設定していない要素や、その単元のパフォーマンス課題（言語活動）で特に強調したい要素がある場合は、年間目標の表現をその単元に合わせて一部変更します。

逆向き設計と「指導と評価の一体化」の観点から、単元目標の達成度を評価します。

#### 4. 単元指導における評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	高校初修外国語として重視すること
⇒観点別学習状況評価（数値化＝評定化する）			⇒（数値化しない）
<b>欄1</b> <b>【知識】</b> ・スペイン語圏の国の正月の過ごし方を紹介する際に必要な語彙、表現、文法、言語の働きを理解している。 <b>【技能】</b> ・番組を作成するために必要な表現を正しく活用する技能を身に付けている。	<b>欄2</b> テレビ番組（動画）によって視聴者に分かりやすく紹介するために、調査したスペイン語圏の正月の過ごし方の特徴について調べ、考えたことや感じたことを、簡単な語句や文を用いて話している。	<b>欄3</b> 紹介の対象となるスペイン語圏の国の正月について調べ、それらをわかりやすいスペイン語で粘り強く表現しようとしている。	<b>欄4</b> ・学んだスペイン語を授業外でも積極的に活用しようとしている。 ・新年の過ごし方という事柄を自国の文化と比較するという視点を持ち、スペイン語圏との文化の違いに自ら気づきを得ている。

#### 欄1 〈書き方説明〉

(1) 評価規準については、単元目標の「理解する、知る、身に付ける」の文末を書き換えて、「理解している、知っている、身に付けている」とします。

#### ～基本文例～

・【知識】 この単元に必要な比較の表現を理解している。／この単元に必要な発音の規則や符号の規則を理解している。／この単元に必要な人称・時制による動詞の形態を理解している。／この単元に必要なさまざまな国名の語彙を理解している。／この単元に必要な数の表現を理解している。／●●語圏の祝祭日を知っている。／●●語圏の年齢の数え方を知っている。

・【技能】 この単元に必要な比較の表現を書いたり話したりする技能を身に付けている。／この単元に必要な発音の規則や符号の規則を書いたり読んだりする技能を身に付けている。／この単元に必要な人称・時制による動詞の形態を聞いたり話したりする技能を身に付けている。／この単元に必要なさまざまな国名の語彙を書く技能を身に付けている。／この単元に必要な数の表現を聞いたり話したりする技能を身に付けている。

／既習の数の表現と比較の表現をもとに、この単元で必要な年齢について聞いたり話したりする技能を身に付けている。

## 欄2 〈書き方説明〉

(1) 単元目標の「～することができる」をここでは「～している」とします。

### ～基本文例～

・スペイン語圏からの留学生に学校の教室を紹介するために、教室の使い方や特徴について、考えたことや感じたことを、簡単な語句や文を用いて話している。／中国の高校生の一日を書きまとめるために、調査した高校生の活動や行動について、時間軸に沿って、動詞・目的語構文を用いるなどして書いて表現している。／・韓国の有名人になりきってロールプレイするために、誕生日や年齢について、数詞などを用いて話したり聞いたりしてやりとりしている。／・簡単な英語で書かれた記事を理解するために、その内容について、既習の語句や文を用いて読んで概要をとらえている。

## 欄3 〈書き方説明〉

(1) 単元目標「学びに向かう力・人間性の涵養」のうち、「主体的に●●語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度」についての評価規準を記述します。そのとき文末を、「～しようとしている」に書き換えて記述します。

(2) 生徒の以下のような状況の評価します。（『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料』（中学・外国語）p.31 参照）

- ・例えば、パフォーマンス課題の遂行にあたって、仲間や教師のフィードバックを活かして、ブラッシュアップに取り組むなど、**粘り強く取り組ん**でいるか。
- ・見通しを立てたり振り返ったりして自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの**学習を調整**しようとしているか。

## 欄4 〈書き方説明〉

(1) 「高校初修外国語として重視すること」は、単元目標「学びに向かう力・人間性の涵養」のうち、数値化するのに馴染まない項目について、「高校初修外国語の見方・考え方」に基づき評価規準を記述します。

(2) 生徒自身が、教員の働きかけによって何かに気づいたり思考を深めたりするときは「深めようとしている、気づいている、親しんでいる」などのように記述します。

～基本文例～

- ・●●語圏と日本との文化・社会について比較などを通してより親しんでいる。
- ・本単元での学習活動を通し、自らの課題を発見し、今後の学習に生かそうとしている。

5. 各次の指導と評価の具体的な計画

欄1 次	欄2 学習活動	欄3 評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本単元の目標を確認する。</li> <li>・正月のイベントについて、紹介する国を決定する。</li> <li>・番組の構成を考える。</li> </ul>	<p>(記録に残す評価は行わないが、ねらいに即して生徒の活動を確認する)</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習事項のうち、番組で話す際に用いるスペイン語の表現について考える。</li> <li>・番組で話す際に用いるスペイン語について、インタビューシートを作成しクラスメイトとインタビューの練習をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「番組構成シート」の点検</li> <li>・インタビューの練習の観察</li> </ul> <p>→【思考・判断・表現】</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インタビューシートをもとに番組構成を見直し、台本を完成させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「番組構成シート」の点検</li> <li>・取組状況の観察</li> </ul> <p>→【知識・技能】</p> <p>→【思考・判断・表現】</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リハーサルを行う。</li> </ul>	<p>(記録に残す評価は行わないが、ねらいに即して生徒の活動を確認する)</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・撮影する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動画の確認(※授業者はループリックで評価)</li> </ul> <p>→【知識・技能】</p> <p>→【思考・判断・表現】</p> <p>→【主体的に学習に取り組む態度】</p>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスメイトの撮影した動画を視聴し、感想や気付いたことを記述し、動画の内容についてもっと聞きたいことを、作り手に質問する。</li> <li>・単元の振り返りを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「視聴メモ」の確認</li> </ul> <p>→【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「振り返りシート」の分析</li> </ul> <p>→【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>→【高校初修外国語として重視すること】</p>

※「5. 各次の指導と評価の具体的な計画」は「4. 単元指導における評価規準」と関連させて記述します。

#### 欄1 〈書き方説明〉

(1) 「次」とは、その授業がどのようなまとまりで行われているかを表し、その順番を示します。

#### 欄2 〈書き方説明〉

(1) 各次で行う、主な学習活動を記述します。

#### 欄3 〈書き方説明〉

(1) 「4. 単元指導における評価規準」に沿って設定した学習活動を、三観点及び「高校初修外国語として重視すること」のうちどの観点で評価するのか、具体的に記述します。

(2) その際、設定した評価規準を具体的にどのような方法（ワークシート、パフォーマンス課題等）で評価するのか記述します。

※授業内のすべての学習活動を評価するわけではありません。

※動機づけとして行う授業や、パフォーマンス課題を発表する前の練習の次など、評価の対象となるものがない場合は、「記録に残す評価は行わないが、ねらいに即して生徒の活動を確認する」等と記入します。

右は『高等学校初任者のための授業づくりガイド令和6年度版』「4章 学習評価と授業の振り返り」（神奈川県立総合教育センター）より抜粋<sup>10</sup>。

**評価方法の段階**

**観察・点検**  
行動の観察・・・学習の中で、評価規準が求めている行動の「観察」をします。  
記述の点検・・・学習の中で、机間指導などにより記述の内容を「点検」します。

**確認**  
行動の確認・・・学習の中で、行動などの内容が、評価規準を満たしているかどうかを「確認」します。  
記述の確認・・・学習の中で、記述された内容を、ノートや提出物などにより「確認」します。

**分析**  
行動の分析・・・「行動の観察」や「行動の確認」を踏まえて、その内容を「分析」的に評価します。  
記述の分析・・・「記述の点検」や「記述の確認」を踏まえて、ノートや提出物などの記述の内容を「分析」的に評価します。

「学習評価を踏まえた授業づくりの道すじ」  
(令和2年3月改訂神奈川県教育委員会)より抜粋

<sup>10</sup> [https://www.pen-kanagawa.ed.jp/edu-ctr/gakkoshien/documents/r06\\_4.pdf](https://www.pen-kanagawa.ed.jp/edu-ctr/gakkoshien/documents/r06_4.pdf)

## 2.2 単元指導案様式

### ■授業の概要

1. 学校名：
2. 科目名：
3. 単位数：
4. 授業者：
5. クラスの構成：
6. 生徒の概況：
7. 使用教科書：

### ■年間指導案

#### 1. 年間目標

実際の社会や生活で生きて働く 知識・技能	未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力等	学んだことを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性等

## 2. 年間の単元構成

	単元の内容	パフォーマンス課題

## ■単元指導案

### 1. 単元名

--

### 2. パフォーマンス課題

(パフォーマンス課題)

(パフォーマンス課題で取り上げる文化・社会事象とその扱い方)

### 3. 単元目標

実際の社会や生活で生きて働く 知識・技能	未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力等	学んだことを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性等
【知識】		
【技能】		

### 4. 単元指導における評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度	高校初修外国語として 重視すること
⇒ 観点別学習状況評価 (数値化=評定化する)			⇒ (数値化しない)
【知識】			
【技能】			

### 5. 各次の指導と評価の具体的な計画

次	学習活動	評価方法
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		

### 3. 授業づくりの方法論

プロジェクトが単元案指導案様式を開発するうえで依拠している、「逆向き設計」と「パフォーマンス課題」について紹介します。

### 3.1 逆向き設計

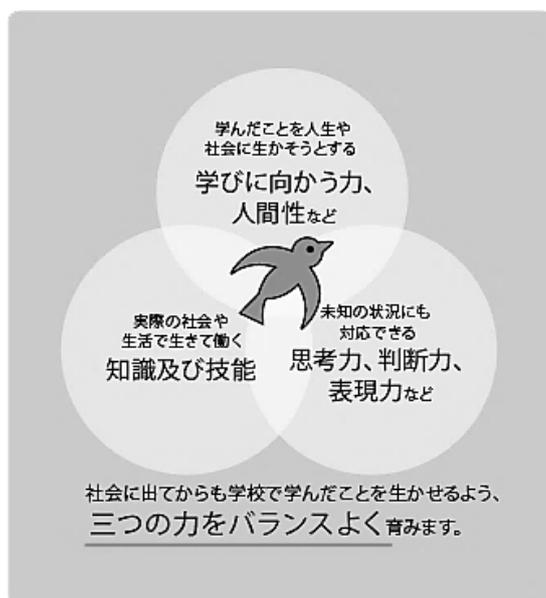
現行の学習指導要領では、すべての教科において「資質・能力の三つの柱」の育成を目標としていますので、外国語の授業もこれに沿って組み立てることになります。

これまでは、ともすれば特に目標を決めないまま教科書をこなし、結果的に「n課までしか終わらなかった」、あるいは、「中間試験や期末試験が近づくとそれまでに学習した内容から範囲を決めて出題する」、ということにもなりがちでした。

しかし現行の学習指導要領の中心となる考え方は、「資質・能力の三つの柱」に沿って、生徒の成長した姿を描き、その達成を目標としてそれぞれの単元、授業での学習内容を、逆向きで設計していこうという方向に舵を切ったと言えるでしょう。

このように、まず授業の最終目標を決め、これにもとづいて年間の授業計画を設計しようという考え方を、「逆向き設計」といいます。「逆向き設計」(backward design)論は、「真正の評価論」の提唱者である、ウィギンズがマクタイとともに、カリキュラム編成論として提案するに至ったものとされています<sup>11</sup>。

それでは、「単元指導案様式の書き方」でとり上げた、スペイン語の実践例にもとづいて、逆向き設計の考え方に沿って見ていきましょう。



<sup>11</sup> 西岡加名恵, ウィギンズとマクタイによる「逆向き設計」論の意義と課題, カリキュラム研究, 14, pp.15-29, 2005。

## (1) 年間目標

<p>高校初修外国語の見方・考え方を働かせ、スペイン語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して簡単な情報や考えなどを理解したり状況を判断して的確に表現したり伝え合ったりするコミュニケーション能力を身に付ける。</p> <p>スペイン語圏の国々の文化や特徴などに関する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に楽しみながら スペイン語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。</p>		
<p>実際の社会や生活で生きて働く 知識・技能の習得</p>	<p>未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成</p>	<p>学んだことを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養</p>
<p>スペイン語の発音のしかたや語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付ける。</p> <p>スペイン語圏の各国により、語彙や発音が違うことを知る。</p>	<p>スペイン語によるコミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて、日常的な話題や社会的な話題について、スペイン語を使って簡単な情報や考えなどを理解したり、表現したり伝え合ったりすることができる力を付ける。</p>	<p>スペイン語に結びついた文化とスペイン語圏の国々の特徴に関する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。</p> <p>スペイン語圏の国々の中でも文化や習慣がそれぞれ異なることを意識し、さらに自国の文化と比較対照しつつ考察し理解しようとする態度を養う。</p>

この実践例における年間目標は、全体的には、学習指導要領（中学校・外国語）の記述にもとづいて記述されていますが、「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等の涵養」では、さらに教師自身が授業運営上重要視したいポイントが反映されています。これは、本プロジェクトで独自に考案した高校初修外国語独自の見方・考え方を、学習指導要領の枠組みにおいて実現しようとするものです。

## (2) 単元目標

次に、年間の授業を構成する単元ごとの目標を立てます。この際、年間目標は年間を通して複数の単元での学びをとおして達成されるものと位置づけられますので、育成すべき資質・能力の三つの柱ごとに、年間目標と単元目標の連関性に留意する必要があります。では、実践例における年間目標と単元目標の対応関係を見てみましょう。

	生きて働く知識・技能の習得	未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力の育成	学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性の涵養
年間目標	<u>スペイン語の発音のしかたや語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付ける。</u> スペイン語圏の各国により、語彙や発音が違うことを知る。	<u>スペイン語によるコミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて、日常的な話題や社会的な話題について、スペイン語を使って簡単な情報や考えなどを理解したり、表現したり伝え合ったりすることが出来る力を付ける。</u>	<u>スペイン語に結びついた文化とスペイン語圏の国々の特徴に関する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。</u> <u>スペイン語圏の国々の中でも文化や習慣がそれぞれ異なることを意識し、さらに自国の文化と比較対照しつつ考察し理解しようとする態度を養う。</u>
単元目標	<u>【知識】スペイン語圏の国の正月の過ごし方を紹介する際に必要な語彙、表現、文法、言語の働きを理解する。</u> <u>【技能】番組を作成するのに必要な表現を正しく活用する技能を身に付ける。</u>	<u>テレビ番組（動画）によって視聴者に分かりやすく紹介するために、調査したスペイン語圏の正月の過ごし方の特徴について、考えたことや感じたことを、簡単な語句や文を用いて話す。</u>	<u>紹介の対象となるスペイン語圏の国の正月について粘り強く調べ、それらをわかりやすいスペイン語で表現しようとする。</u> <u>また、正月の過ごし方がスペイン語圏の国々でも異なることを意識した上で、自国の文化とスペイン語圏の国々の文化を尊重する態度を養う。</u>

### (3) 年間目標と単元目標の対応

資質能力の3つの柱それぞれにおいて、下線の種類（    、    ）ごとに、年間目標と単元目標の内容が対応していて、かつ単元目標は年間目標を具体化したものになっていることがわかります。

以上のように、年間の指導計画を、「年間目標→単元目標→各次の授業」の順序で組み立てるのが「逆向き設計」の考え方です。ただし、実際には、年間目標を立ててから単元目標を考えた後、その単元目標にもとづいて再度年間目標を見直すこともありますし、単元目標から授業内容を設定した後、それに合わせて単元目標を修正することもあります。このように、時には年間目標・単元目標・授業の三者を行ったり来たりしながら、年間の指導計画をつくりあげていきます。

## 3.2 パフォーマンス課題

### パフォーマンス課題とは？

このパートでは、この『手引き』でのパフォーマンス課題の考え方について説明します。逆向き設計の考え方に基づきつつ、一年を通した授業計画を通じて、より一貫性があり、生徒に実施意図の伝わりやすいパフォーマンス課題のデザインについて考えていきましょう。

パフォーマンス課題とは、学んだ知識や技能を実際の状況で応用し、総合的に活用することを求める課題で、単なる記憶の再生ではなく、予測不可能な問題に対処する能力を測ることができます。具体的には、高校初修外国語でのやり取り、発表などの形で生徒の学びの状況を確認することが求められます。これにより、学習者の実践的な能力を引き出し、深い学びを促進します。そこで、目標に基づいたパフォーマンス課題を、「逆向き設計」により設定し、それを評価します。

ここで「評価」とは、学習の内容を学習者が覚えたかどうかだけを評価するのではなく、学んだことを自身で使いこなし、運用できているかどうかを見取することを意味します。語彙・文法・表現などについても、パフォーマンス課題の中で使ってみる機会を設けることで、初めて学習内容が定着したかを確認することができます。またそれは、「このパフォーマンス課題を行うためには、これらの語彙・文法・表現の学習が必要である」というように、両者の関係性について従来とは逆のとらえ方をすることでもあります。

### パフォーマンス課題設定で重要なこと

ウィギンズ／マクタイが挙げている、パフォーマンス課題において重要なポイントとして、「現実的な文脈化がなされている場合」、「大人が仕事の間や市民生活、個人的な生活において真に試されるような鍵となる困難な状況を模写する場合」<sup>12</sup>を挙げています。つまり、学習者がこの言語を実際に用いる際にありそうな「やり取り」や「発表」の場面を想定することが重要なのです。

このことを「オーセンティシティ（真正性）」と言います。パフォーマンス課題において設定された場面・状況・目的が、実際に学習者がクラスの間を出て言語を運用する際に、現実的に「ありそうな」「生じそうな」ものであることが望ましいのです。学習者にとっては、パフォーマンス課題の実践は、単なる授業の枠を超え、社会の中でもあり得るような言語運用の一つの経験となります。したがって、パフォーマンス課題の設定においては、「学習」の内容を実際に運用するパフォーマンスを考えます。それと同時に、そこでなされる「やり取り」や「発表」は学習者が教室の外で実際に直面する可能性がより高そうなものとして想定される必要があります。

ここで生徒たちが教室の内外で実際に直面する可能性が高い自己紹介のパフォーマンス

---

<sup>12</sup> G.ウィギンズ, J.マクタイ『理解をもたらすカリキュラム設計』（日本標準、2012）、pp. 184–186。

課題の例を3つ紹介します。目的は自己紹介ですが、それぞれ異なる場面、状況が設定されています。

IIの場面・状況・目的の分解は、生徒に示すパフォーマンス課題のどの部分が目的、場面、状況に該当するかを理解しやすいように分解のうえ図解しました。また、IIIは、教師側どのような意図をもって目場状を設定しているかを記しました。パフォーマンス課題達成に向けて行う学習活動が、生徒が「思考・判断・表現」する過程そのものであること、ここが、重要な着眼点であるからです。

このパフォーマンスの実施可能な時期は、簡単自己紹介ができるようになり、スペイン語の発音や読み方に多少慣れてきた段階を想定しています。

### パフォーマンス課題①

#### I 生徒に示すパフォーマンス課題

あなたの学校にスペインからの留学生がやってきました。今日、その留学生がスペイン語の授業にはじめて参加します。来日してまもない留学生に自己紹介をして下さい。

#### II 場面・状況・目的の分解

場面	状況	目的
あなたの学校にスペインからの留学生がやってきた	来日して間もない留学生が初めてスペイン語の授業に参加する	留学生に自己紹介をする

#### III 予想される生徒の思考 = (教師側の場状目の設定の意図)

- (1) 来日したばかりの留学生なので、日本について詳しく知らないことに配慮して自己紹介をした方がいいのではないかな。
- (2) 名前を言う際、日本語に慣れていないことを配慮した方がいいのではないかな。
- (3) 住んでいる所を言う時、地名を言うだけではわかりにくいので工夫をした方がいいのではないかな。
- (4) 日本の学校に来て間もないため学校のことも内容に入れた方がいいのではないかな。
- (5) 学校生活が楽しくなるような自己紹介にした方がいいのではないかな。

#### IV モデル文

¡Hola!	やあ
Soy Taro Yamada.	山田太郎です
Se escribe T-A-R-O Y-A-M-A-D-A.	T-A-R-O Y-A-M-A-D-A と書きます
Taro Yamada.	山田太郎です
Soy de Chigasaki,cerca de aquí.	この近くの茅ヶ崎出身です
Soy miembro del club de fútbol.	サッカー部の部員です
Mucho gusto.	はじめまして

## パフォーマンス課題②

### I 生徒に示すパフォーマンス課題

あなたはスペインへの交換留学生として現在マラガに滞在しています。ホストファミリーが日本のことをあまり知らない親戚や近所の人たちなどを招いて午後 7 時からホームパーティーを開きます。あなたはパーティーの冒頭で 15 人位の前で自己紹介をすることになりました。スペイン語で自己紹介をして下さい。

### II 場面・状況・目的の分解

場面	状況	目的
あなたはスペインへの交換留学生としてマラガに滞在している	ホストファミリーが日本のことをあまり知らない親戚や近所の人を招いて午後 7 時からホームパーティーを開くことになった	パーティーの冒頭、スペイン語で自己紹介をする

### III 予想される生徒の思考 = (教師側の場状目の設定の意図)

- (1) 自分より年上の人たちに対して行う自己紹介なので、丁寧な表現にした方がいいのではないか。
- (2) 日本について詳しく知らないので、自己紹介の内容をわかりやすくかつ詳しく説明した方がいいのではないか。
- (3) 夜のホームパーティーであることを考えて挨拶などもした方がいいのではないか。

### IV モデル文

Buenas noches a todos.	みなさん、今晚は
Me llamo Taro Yamada.	私の名前は山田太郎です
Soy estudiante.	学生です
Soy de Kanagawa,cerca de Tokio.	私は東京の近く、神奈川出身です
Soy japonés.	日本人です
Tengo dieciocho años.	18 歳です
Encantado.	はじめまして

### パフォーマンス課題③

#### I 生徒に示すパフォーマンス課題

あなたは中南米に関する調べ学習の成果を、学校がある地域で発表することになりました。発表会は午前中に開催され、聴衆は日本在住のスペイン語話者やスペイン語やスペイン語圏の文化に関心のある日本人など約 30 名です。発表の冒頭ではスペイン語で自己紹介をしてください。

#### II 場面・状況・目的の分解

場面	状況	目的
中南米に関する調べ学習の成果を地域で発表することになった	発表会は午前中に開催され、聴衆は日本在住のスペイン語話者やスペイン語やスペイン語圏の文化に関心のある日本人など約 30 名	発表の冒頭で聴衆に向かって自己紹介をする

#### III 予想される生徒の思考 = (教師側の目場状の設定の意図)

- (1) ステージに登壇しての自己紹介なので多くの人に語りかけるような自己紹介にした方がいいのではないか。
- (2) 発表の冒頭での自己紹介なので、丁寧な表現にした方がいいのではないか。
- (3) 学校の代表という立場なので、所属する学校の情報や自分のスペイン語の学習について話した方がいいのではないか。
- (4) 多くの人を目の前にした自己紹介なので、「緊張している」などその時の心境も話した方がいいのではないか。

#### IV モデル文

Buenos días a todos.	みなさんおはようございます
Me llamo Taro Yamada.	私の名前は山田太郎です
Soy de Chigasaki.	茅ヶ崎出身です
Estoy un poco nervioso.	少し緊張しています
Soy estudiante de español del colegio de Fukasawa.	私は深沢高校でスペイン語を学んでいる生徒です
Nuestro colegio está en Kamakura.	私の学校は鎌倉にあります
Encantado.	はじめまして

このように、同じ自己紹介でも目的・場面・状況によって生徒が考えるやりとりの内容が変わってきます。オーセンティシティの高い課題を設定すれば、パフォーマンス課題は学習

者にとって、単なる評価の対象にとどまらず、実際の言語運用との連続性へと開かれたものとなります。パフォーマンス課題をオーセンティシティがあるものとすることによって、授業者は、社会の中で具体的な外国語の使用の可能性を示すことができます。

### 年間指導計画の中でのパフォーマンス評価の位置付け

次は、1年間の授業計画の中で、パフォーマンス課題の位置付けを考えてみましょう。

パフォーマンス課題を年間指導計画のなかに位置づける際には、学校や生徒の学びの実状に合わせて設定するとよいでしょう。ここでは、①「年間総まとめ型」、②「学期まとめ型」、③「学期複数回型」、④「毎単元型」の四つに分類し紹介します。

#### ①年間総まとめ型

学年末に1年間の学習の内容を活かしたパフォーマンス課題を設定しています。例として挙げている年間指導計画（韓国語）では、「スキット（台本）を作成し、『先生の日』について話してみよう」としています。これはダイアログの台本を作成した上で会話を行うパフォーマンス課題です。それまでに勉強した表現や文法項目を用いて、台本を作り発表します。1時間の学習の中で、台本作成、発表の練習、発表、振り返りを行うには時間が足りないでしょう。年間のまとめとして行いますので、たっぷり時間をとって生徒の学びを様々な視点で見ると良いでしょう。

	単元の内容	パフォーマンス課題
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自己紹介しよう</li> <li>◆韓国語、ハングルを知る</li> <li>◇挨拶</li> <li>◇基本母音、合成母音、子音</li> <li>◇名詞文</li> <li>◇名詞文の否定</li> </ul>	
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○韓国文化クイズ</li> </ul>	
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○好きなもの、趣味、住んでいるところについてインタビューしよう</li> <li>◇韓国語のこそあど言葉を使った会話文</li> <li>◇趣味の聞き方</li> </ul>	
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○兄弟、物、予定の有無をインタビューしよう</li> <li>◇固有数詞</li> <li>◇漢数詞</li> <li>◇存在詞</li> </ul>	

5	○予定についてインタビューしよう ◇動詞、形容詞の活用 ◇動詞、形容詞の活用（否定）	「スキット（台本）を作成し、『先生の日』について話してみよう」 （1年間に勉強した表現を使って、会話文の台本を作る）
---	--	---

## ② 学期まとめ型

各学期末にそれまで学習した内容を用いたパフォーマンス課題を設定しています。3学期制の学校なら3回、2期制の学校なら2回行います。「年間総まとめ型」に比べると、パフォーマンス課題として扱う範囲や項目は、その学期で学んだことを中心に設定することができ、各学期において生徒の評定をまとめる際に、評定に関連させてパフォーマンス課題を用いやすいでしょう。例として挙げている年間指導計画（中国語）では、前期には「相手に食べたいものを聞いて一緒に食事にいこう」が設定されています。これは会話のパフォーマンス課題です。最初の授業からそれまでに学んだ内容を用いて、相手を食事に誘い、一緒に食事に行く際に必要となる、相手の食べたいものを聞き出します。それ以外にも、学習した範囲の表現を活かして会話をしたりします。後期では「上海でしたいことを話そう」が設定されています。前期の時と同じく会話のパフォーマンス課題ですが、こちらは姉妹校の生徒に対して自己紹介のプレゼンをしたり、自身のしたいことを伝えたりします。前期と同じく「会話」のパフォーマンス課題ではありますが、学習歴に比例して前期よりも話す内容に深まりがあります。話せる内容も増えており、「年間の総まとめ型」に通じる年間のまとめとしての要素が見られます。このように、学期末に設定するパフォーマンス課題は、学習した内容をまとめて見られるという点において、「年間総まとめ型」に近い構造になります。

	単元の内容	パフォーマンス課題
1	○中国と中国語について知ろう。 ◇中国語の発音 ◇声調の組み合わせ ◇挨拶ことば	
2	○名前の尋ね方と答え方を知ろう ◇動詞“是” ◇“吗”疑問文	
3	○どちらが食べたいか言ってみよう ◇動詞述語文 ◇副詞“也”と“都” ◇選択疑問文	○相手に食べたいものを聞いて一緒に食事にいこう

4	<p>○家族を紹介しよう。</p> <p>◇“呢”疑問文</p> <p>◇指示代名詞</p> <p>◇“的”</p> <p>◆中国語の親族呼称</p>	
5	<p>○買いたいものを伝えよう</p> <p>◇疑問詞疑問文</p> <p>◇助動詞“想”</p>	
6	<p>○今日の予定を聞いてみよう</p> <p>◇時に関する表現①</p> <p>「今日、今年」など</p>	
7	<p>○学校のことや授業について話そう</p> <p>◇形容詞述語文</p> <p>◇反復疑問文</p> <p>◇“吧”</p> <p>◇所有を表す動詞“有”</p> <p>◇量詞</p> <p>◇“几”と“多少”</p>	
8	<p>○今週したことを話してみよう</p> <p>◇文末の“了”</p> <p>◇時に関する表現②</p> <p>時刻</p>	
9	<p>○パフォーマンス課題に向けて既習事項の復習</p> <p>◆横浜市と上海市の交流の歩み</p> <p>◆中国と日本の食文化</p>	
10	<p>○友達と約束をして出かけよう</p> <p>◇連動文</p> <p>◇時間に関する表現③</p> <p>年月日、曜日</p> <p>◇疑問詞“怎么”</p>	○上海でしたいことを話そう

### ③学期複数回型

各学期に複数回パフォーマンス課題を設定しています。学期当たり 2 回ずつ行ったとすれば、3 学期制の学校なら年間 6 回、2 期制の学校なら 4 回行うことができます。学校によっては 3 学期の時間数が少ないため 3 学期については 1 回とし、年間 5 回ということもあ

るでしょう。「学期まとめ型」に比べると、各学期に複数回設定されており、単元の学びの内容に近いパフォーマンス課題を設定できるという特徴があります。例として挙げている年間指導計画（スペイン語）では、「初対面の人同士でやりとりをしよう」「自己紹介してお互いに質問し合おう」「ヒスパニック系有名人にインタビューしよう」「家族や好きな有名人を紹介しよう」という四つの単元が年間で設定されており、基本的には単元で学んだことを中心にしつつ、既習事項をも含めてパフォーマンス課題に取り組めるようになっています。また、この「学期複数回型」でも学年末のパフォーマンス課題では「年間の総まとめ型」と同じく、年間の学習内容に対するまとめの要素が見られます。なお、ここでは例として年間の単元を四つとしていますが、単元数をもっと増やし、パフォーマンス課題を行う単元と行わない単元とを設定し、複数の単元で学んだことを一つのパフォーマンス課題で確認するという方法もあります。

	単元の内容	パフォーマンス課題
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○挨拶をしよう</li> <li>◇スペイン語のアルファベット</li> <li>◇母音と子音の発音、アクセントの位置</li> <li>◇挨拶、教室用語</li> <li>◇数字表現（1-10）</li> <li>◇身の周りの語彙と名詞の性</li> </ul>	「初対面の人同士でやりとりをしよう」
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○友達になろう</li> <li>◇主語代名詞</li> <li>◇SER 動詞</li> <li>◇国名と国籍の性・数</li> <li>◇職業の性・数</li> <li>◇ESTAR 動詞</li> <li>◇肯定文、否定文、疑問文の語順とイントネーション</li> <li>◆世界の国名、都市名（スペイン語圏の国と地域）</li> <li>◆スペイン語圏の人の名前</li> </ul>	「自己紹介してお互いに質問し合おう」
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の生活について話そう</li> <li>◇定冠詞と不定冠詞</li> <li>◇所有形容詞</li> <li>◇名詞の数</li> </ul>	「ヒスパニック系有名人にインタビューしよう」

	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇規則動詞の活用 (-AR、-ER、-IR)</li> <li>◇不規則動詞 VER</li> <li>◇前置詞：con、a、de、en</li> <li>◇疑問詞：Qué、Dónde、Quién</li> <li>◆ラテンアメリカの人種</li> <li>◆アメリカのヒスパニック</li> </ul>	
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○家族の話をしよう</li> <li>◇親族を表す名詞</li> <li>◇性格や容姿を表す形容詞</li> <li>◇数字 (11-100)</li> <li>◇不規則動詞 TENER、IR、HACER</li> <li>◇形容詞の比較級と最上級</li> <li>◆スペイン語圏の人々</li> </ul>	「家族や好きな有名人を紹介しよう」

#### ④毎単元型

単元ごとにパフォーマンス課題を設定しています。各単元では学習の目標がありそれに即したパフォーマンス課題が設定されています。ただ、例として挙げられている年間指導計画（スペイン語）では、各パフォーマンス課題で単元の内容を確認していますが、それだけでなく年間の後半になるにつれて、それ以前の単元で学んだ内容も含めて広く確認できるパフォーマンス課題が設定されています。「外国人にインタビューしてみよう」ではインタビューをする過程で、自己紹介の要素が含まれていますし、「突撃○○（国名）のお正月」という単元は、学年末に設定されており、正月の習慣を紹介するためにそれまでの既習事項を全て用いています。そのため、「年間総まとめ型」のように一つのパフォーマンス課題で、生徒の学びを様々な視点から見取ることができます。また、各単元ごとにパフォーマンス課題を設定しているため、単元とパフォーマンス課題の関係が密接であり、単元ごとに評価しやすくなります。

	単元の内容	パフォーマンス課題
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自己紹介をしてみよう</li> <li>◇スペイン語のアルファベット、発音、アクセントに関する知識</li> <li>◇挨拶表現、自己紹介の表現</li> </ul>	「自己紹介をしてみよう」
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○他の人を紹介してみよう</li> <li>◇主格の代名詞と ser 動詞</li> </ul>	「なりきり自己紹介」

	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆スペイン語圏の国々と文化</li> <li>◆職業に関するスペイン語</li> </ul>	
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○相手に質問してみよう</li> <li>◇数字、時刻の表現</li> <li>◇疑問詞を使った表現</li> <li>◇estar と tener を使った体調の表現</li> </ul>	「お互いにインタビューし合おう」
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○好きなことについて話そう</li> <li>◇¿Cuál es tu ~ favorito(a)?の表現</li> </ul>	「好きなことについて話そう」
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>○外国人にインタビューしてみよう</li> <li>◇¿Cuál es tu ~ favorito(a)?の表現</li> <li>◇基本的な規則動詞(-ar)動詞と用法</li> </ul>	「外国人にインタビューしてみよう」 観光都市鎌倉で外国人観光客にインタビューしてみる。(プロフィール・好きな～)
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自己PRに挑戦しよう</li> <li>◇基本的な規則動詞(-ar -ir -er)動詞の用法</li> </ul>	「自己PRに挑戦しよう」 (推薦入試の面接を前提にしたパフォーマンス)
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>○スペイン語圏の国のお正月を紹介する番組に出演しよう</li> <li>◇既習事項を使って発表する</li> <li>◆スペイン語圏の国の魅力</li> </ul>	「突撃○○(国名)のお正月」

#### コラム 「単元」とは

「単元」とは、「unit」を訳した言葉で、学習におけるまとまりのことを言います。小中高では授業の時間について、1時間(45分、50分等)を基本として考えるのではなく、複数時間のまとまりを、「単元」として考えています。かつては、例えば国語科であれば一つの作品を一つの単元として考えたり、英語科であれば文法の項目や教科書の1課(1レッスン)を一つの単元として考えたりしていたことがありました。そのように単元を設定することもできますが、現在では、この『手引き』で取り上げている考えの通り、単元を設定することが多くなっています。つまり、生徒に身に付けさせたい力を設定し、それを身に付けさせるために教材や活動を選び、それを行うために必要な時間のまとまりを単元としています。

### 〈+1〉でパフォーマンス課題に

1年間の指導計画からパフォーマンス課題を考えると、なかなか取り組むのが大変な、難しい課題のように思えるかもしれません。しかし、普段の授業で使われている教科書の練習問題に少しの工夫、すなわち〈+1〉をするだけで、立派なパフォーマンス課題を設定することができます。また、授業者がこの〈+1〉のパフォーマンス課題を積み重ねていけば、学期や年間学習を総合的に評価するパフォーマンス課題も、生徒が無理なく行うことができるようになるはずです。では、教科書の練習問題に〈+1〉するためには、具体的にどのようなようにすれば良いのでしょうか。

学習言語を問わず、教室で使われている教科書には、生徒が学習した内容を定着させるために、空欄に適切な単語や表現を入れたり、例文の単語を入れ替えたりする練習問題がよく出てきます。例えば、次のような練習問題が代表的な例です。

#### 履修1年目の例（ドイツ語）

**練習問題**

自己紹介をしましょう。

 **G2** Sie sind Herr Neuer. Stellen Sie sich vor. 次のデータを参考に、Neuerさんになって自己紹介しましょう。

	Name (名前) :	Felix Neuer
	Herkunft (出身地) :	Österreich
	Wohnort (居住地) :	Berlin
	Studienfach (専攻) :	Journalistik

Mein Name ist ...

単にデータを使って自己紹介をするだけの置き換え練習ですが、ここに具体的な「場面・状況・目的」を加えることで、生徒の思考・判断・表現する力が身につくような、パフォーマンス課題を設定することができます。この練習問題に〈+1〉、すなわち「場面・状況・目的」を加えたパフォーマンス課題を見てみましょう。

〈練習問題+1〉 パフォーマンス課題

あなたはドイツ語キャンプにきています。キャンプには、世界各国でドイツ語を学習している生徒が参加していて、できるだけドイツ語を使って交流することになっています。同じグループになった人にドイツ語で初対面の自己紹介をしてください。

名前：  
居住地：  
好きなこと：

場面	状況	目的
あなたはドイツ語キャンプにきています。	キャンプには、世界各国でドイツ語を学習している生徒が参加していて、できるだけドイツ語を使って交流することになっています。	同じグループになった人にドイツ語で初対面の自己紹介をしてください。

この場面・状況・目的を設定した教師側の意図としては、以下を考えています。

- (1)これから始まるキャンプを楽しく過ごせるような自己紹介はどのようにすればいいか。
- (2)仲良くなるために自分のことを知ってもらえるような自己紹介はどんなものか。
- (3) (1)、(2)のために、モデル文に何かを付け加えられることはないか。
- (4) ことばだけで伝えられない場合は、その他の材料を使えないか。

モデル文

名前：           Hallo! Mein Name ist Kenji, K-E-N-J-I, Kenji.  
                  こんにちは。ぼくの名前は賢治です。

居住地名：       Ich wohne in Kawasaki. Kawasaki ist zwischen Tokio und Yokohama.  
                  (zwischen = 間)  
                  ぼくは川崎に住んでいます。川崎は東京と横浜の間にあります。

好きなこと：     Ich sehe YouTube gerne.  
                  Youtube を見るのが好きです。(よく見る Youtube の画面を見せながら)

履修2年目の例（韓国語）

練習問題

イベントの情報をみながら友達を誘い、待ち合わせをしましょう。

例) 映画上映会 1月20日～1月21日 新宿シアター 新宿駅 徒歩10分	問題① ミュージカル 5月17日 17時30分～20時 銀座劇場 銀座駅 徒歩5分	問題② 現代美術展 6月1日～7月15日 上野美術館 上野駅 徒歩15分
--	--	---

A: 영화를 보러 갈까요? (映画を見に行きましょうか。)

B: 네, 좋아요. (ええ、いいですよ。)

A: 언제 갈까요? (いつ行きましょうか。)

B: 1월 20일에 가요. (1月20日に行きましょう。)

A: 그럼 몇 시에 어디서 만날까요? (じゃあ、何時にどこで会いましょうか。)

B: 9시 30분에 신주쿠역에서 만나요. (9月30分に新宿駅で会いましょう。)

単に下線部の語を入れ替えるだけで済んでしまう練習問題ですが、ここに具体的な「場面・状況・目的」を加えることで、生徒の、予測不可能な問題や未知の課題に挑戦し対処する能力を測るためのパフォーマンス課題を設定することができます。この練習問題に〈+1〉、すなわち「場面・状況・目的」を加えたパフォーマンス課題を見てみましょう。

〈練習問題+1〉パフォーマンス課題

直近でいくつかのイベントがあります。あなたはそのうち1つのイベントに行きたいと思っています。あなたが行きたいイベントと一緒に行ってくれる友達を探しましょう。

イベント名：

日付：

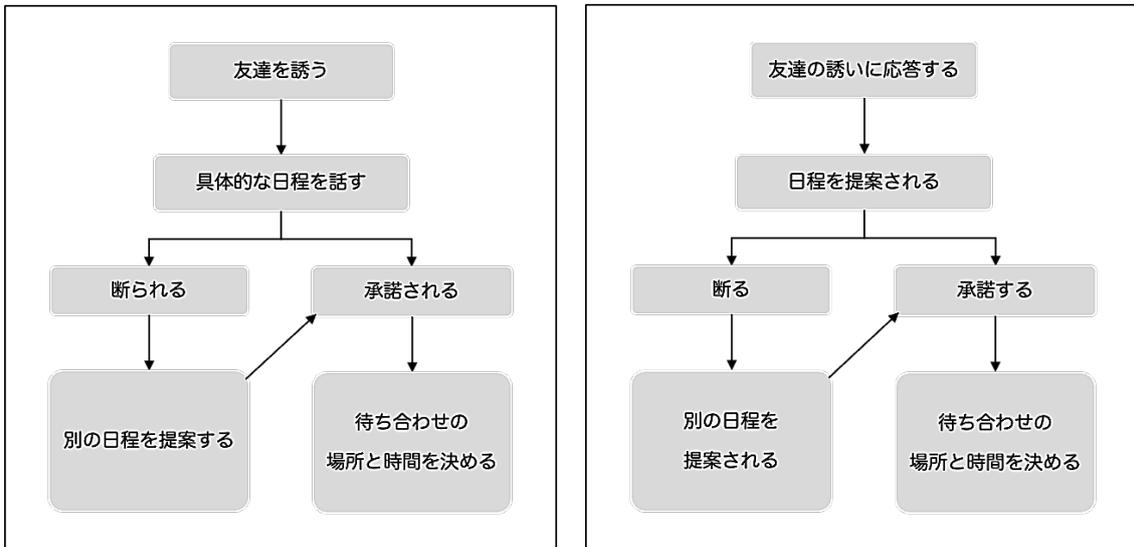
場所：

①手元のカードに「行きたいイベントの日時・場所」、「空いている日」を書いてください

い。

- ② イベントの日に予定が空いている友達を探しましょう。
- ③ 予定が合えば、待ち合わせの時間・場所を決めてください。  
予定が合わなければ、断られるかもしれません。

このパフォーマンス課題に取り組む中で、生徒はどのようなやり取りをすることになるでしょうか。例えば、誘いに対して「承諾される・承諾する」場面と「断られる・断る」場面に分けて、次のような会話の流れを想定することができます。



「誘う」「誘われる」という点では教科書の練習問題と同じですが、この〈+1〉のパフォーマンス課題には、**実際に生徒が行きたいイベントに友達を誘う**という、より具体的な場面と目的に加え、会話相手と日程が合わず、誘いに対して断られたり、断ったりするといった予測不可能な状況が想定されています。そこで生徒は、どうにかして日程を決めようとする中で、「(この日程がダメなら) **じゃあ、〇〇月〇〇日はどうですか。**」のように、接続詞や「どうですか」のようなモデル文にみられない表現を用いて、一連の会話を成り立たせることになるはずです。生徒が、単にモデル文を暗誦し、反復することに留まらず、授業ですでに学んだ内容からやり取りに活用できるものを考えたり、自ら調べたりするようになるのは〈+1〉のパフォーマンス課題においてです。つまり、実生活の中で「ありそうな」場面を想像しながら課題に取り組むことで、生徒は予測不可能な状況に対応するための表現の工夫を、自ら積極的に考えることになるのです。このように、教科書の練習問題に〈+1〉してパフォーマンス課題を設定することは、授業の中で学習した知識・技能を、実際の生き生きとしたコミュニケーションの中で構成する能力を育むことに繋がります。

### コラム パフォーマンス課題のチェックポイント

パフォーマンス課題は授業内で学んだ個々の内容を活用して、生徒が総合的にアウトプットするものとなっていますか？

パフォーマンス課題は、実際に生徒が実生活でこの言語を用いて対処できるような目的・場面・状況が想定されていますか？

パフォーマンス課題課題を行うことで、あなたの授業全体の年間の目標とその単元の目標としてあげられている項目を達成できますか？

パフォーマンス課題の評価項目は、年間の目標と単元の目標を評価するものとなっていますか？

### 3-3 観点別学習状況評価

2022 年より、高等学校でも観点別学習状況評価が導入され、通知表（いわゆる通信簿）、指導要録に観点別の成績が記載されています。ここに述べる「観点」とは、①「知識・技能」（学ぶべき知識や重要な概念の理解、生徒が身に付けるべき技能であり、ペーパーテスト等によって見取る<sup>13</sup>ことが多い）、②「思考力・判断力・表現力」（身に付けた知識や技能を活用する能力であり、言語活動等によって見取ることが多い）、③「主体的に学習に取り組む態度」（学習に関する自己調整力であり、振り返りの状況やパフォーマンス課題等によって見取ることが多い）の、三つの観点です。高校初修外国語は、高等学校の教育課程における教科の一つであるため、当然、観点別学習状況評価によって評定をまとめることになります。それでは、高校初修外国語の授業では、観点別学習状況評価をどのように考え、どのように評価に対して取り組めばよいのでしょうか。

#### 学力の捉え方

他の章でも言及されている通り、そもそも学力の捉え方には様々な考え方があります。世界的に見ても 21 世紀に入って以降、コンテンツ（知識）・ベースからコンピテンシー（資質・能力）・ベースへ、学力観の潮流が変化しました。日本では、学校教育法が改訂された際に、学力の捉え方が、次のように整理されています。

生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない<sup>14</sup>。

ここに挙がる、「基礎的な知識及び技能」「課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力」「主体的に学習に取り組む態度」を「学力の三要素」と呼びます。これまでは「何を学ぶか」という学ぶ内容に重心が置かれることが多かったのですが、それだけでなく、「どのように学ぶか」を意識し、その結果、「何ができるようになるか」を伸ばすのかにも着目することになりました<sup>15</sup>。こうした変化により前指導要領では、「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」<sup>16</sup>の、四つだった観点が、今回の改定で 3

<sup>13</sup> 「見取る」とは、ここでは、学習者の学習状況を把握し判断することを言う。

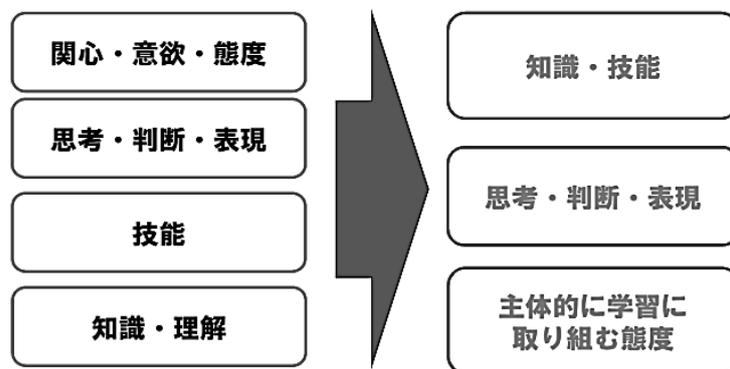
<sup>14</sup> 「学校教育法」第 30 条第 2 項（平成 19 年改正）

<sup>15</sup> 文部科学省教育課程部会資料 4 - 1 「学習指導要領改訂の方向性（案）」（平成 28 年 6 月 3 日）を参照。

<sup>16</sup> 「3. 学習評価の在り方について」文部科学省、初等中等教育局初等中等教育企画課教育制度改革室（平成 27 年 11 月登録）[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryo/attach/1364317.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryo/attach/1364317.htm)（2024 年 5 月 19 日閲覧）

観点となりました。

では、こうした学力観は、学校の授業ではどのように扱われているのでしょうか。小学校、中学校、高等学校では、それぞれの教科ごとに目標や学ぶべきことが学習指導要領によって示されています。学習指導要領では、育成を目指す資質・能力の三つの柱として、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」を挙げ、学習の目標や内容に当てはめて整理しています。さらに、学習の目標の実現状況を分析的に捉えるために、上記の三つを、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」として、学習の状況を評価する観点として整理しています。



「新学習指導要領の全面实施と学習評価の改善について」（文部科学省、2020年2月12日）<sup>17</sup>

このうち、目標と評価規準とにおいて、大きく名称が変わっている「学びに向かう力・人間性等」と「学習に取り組む態度」の関係について説明すると、そもそも「学びに向かう力・人間性等」は、「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養）」のために必要な能力であり、「知識及び技能、思考力、判断力、表現力等をどのような方向性で働かせていくかを決定ける重要な要素」<sup>18</sup>として考えられており、学習の中でも特に重要な要素です。ただ、その内容を考えると、学習状況を分析的に捉えることを通じて見取ることのできる要素もあれば、学習状況を分析的に捉えることのできない、児童生徒のよい点や進歩の状況、個人の思いやりや感性等、「個人内評価」として考えるべき要素もあるため、観点別学習状況の評価としては、「主体的に学習に取り組む態度」という観点となりました<sup>19</sup>。

<sup>17</sup> 画像は、[https://www.mext.go.jp/content/20202012-mxt\\_kyoiku01-100002605\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20202012-mxt_kyoiku01-100002605_1.pdf)（2024年6月1日閲覧）から引用した。

<sup>18</sup> 文部科学省中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」（平成28年12月21日）p.30。

<sup>19</sup> 同上 p.61 参照。

### コラム 「評定」について

通知表に並ぶ成績として思い浮かべることの多い、5段階（または10段階）の数値は、「評定」と言います。現行の指導要領では観点別学習状況評価の結果を総括したものと扱われます。例えば、中学校・高等学校では、観点が「BBB」であれば3ということの基本としつつ、「AAA」であれば5又は4、「CCC」であれば2又は1とします。観点のA、B、Cについて、どのような組み合わせによって評定に総括するかは各学校で決めています<sup>20</sup>。

### 3 観点とは何か

3観点で評価する学習内容とはどのようなものでしょうか。外国語（英語）や他の教科・科目の場合は、観点ごとの目標や内容が各学習指導要領に書かれているため理解しやすいのですが、高校初修外国語にはそれがありません。ですので、ここでは、現行の学習指導要領として整理される前に示されていた、資料<sup>21</sup>を見ていくことで、その具体的な要素について考えたいと思います。

#### 「知識・技能」

各教科で学ぶべき知識や重要な概念の理解の他に、生徒が身に付けるべき技能について評価する観点です。具体的には次のように説明されています。

ペーパーテストにおいて、事実的な知識の習得を問う問題と、知識の概念的な理解を問う問題とのバランスに配慮するなどの工夫改善を図るとともに、例えば、児童生徒が文章による説明をしたり、各教科等の内容の特質に応じて、観察・実験をしたり、式やグラフで表現したりするなど実際に知識や技能を用いる場面を設けるなど、多様な方法を適切に取り入れていくことが考えられる<sup>22</sup>。

ペーパーテストについて言及されている他、「観察・実験」によって知識・技能を用いる活動についても、評価対象としています。決まった手順通りに行えるか確認したり、正しく技能を行えるか確認したりすることは、「知識・技能」の評価対象ということになります。外国語学習の中で言うと、ペーパーテストにおいて、「正しい」とされる発音を選ぶ問題、文法事項に即して語順を並び替える問題、疑問文や否定文に書き換える問題等がこれに該当します。また、パフォーマンス課題において、正確に発音できているか、日時や数字につ

<sup>20</sup> 国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料」高等学校・外国語（令和2年3月）p17参照。

<sup>21</sup> 中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」（平成31年1月21日）

<sup>22</sup> 同上p.8。

いての表現を間違えずに使っているか等を評価する場合は「知識・技能」の観点で評価するということになります。

### 「思考・判断・表現」

身に付けた知識や技能を活用する能力です。

ペーパーテストのみならず、論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作や表現等の多様な活動を取り入れたり、それらを集めたポートフォリオを活用したりするなど評価方法を工夫することが考えられる<sup>23</sup>。

「ペーパーテストのみならず」という表現によって、それ以外の学習活動によっても評価できることが示されています。具体的には、論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い等の言語活動の状況・結果を評価します。他の章にもある通り、学んだ内容を生徒がアウトプットしたり、実生活に関連付けて生徒が実際に対処する場面や状況が用いられたりしているパフォーマンス課題であれば、「思考力・判断力・表現力」を適切に評価できるでしょう。

### 「主体的に学習に取り組む態度」

この観点は自己の感情や行動を統制する能力、自らの思考の過程等を客観的に捉える力（いわゆるメタ認知）など、学習に関する自己調整にかかわる面を見る観点です。ですので、基本的にはペーパーテストによって見取りません。

知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価する<sup>24</sup>。

「学習の進め方について試行錯誤する」については、「粘り強く」という表現をすることもあります。「自らの学習を調整し」とは、学習に対する自己調整を指します。「自己調整」について、次のようにまとめたものがあります。

「自己調整」とは、おおむね次のような内容を含むと考える。①学習の計画段階で、目当てを考えたり、学習の見通し（方略）を考えたりする②学習の進行場面で、自らの学習自体をモニターし調整する③学習の結果としての目標の達成状況を自己評価する——である。これらを、評価活動として具体化するためには、授業の目当てを考えさせる場面の工夫と充実、学習の進行プロセスにおける振り返りと調整、学習の結

---

<sup>23</sup> 同上 pp.8-9。

<sup>24</sup> 文部科学省中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」（平成28年12月21日）p.62。

果の自己評価を行える授業設計が必要である<sup>25</sup>。

①についての学習活動としては、単元の最初に目標を確認したり、単元の学習計画に沿って学びの順番を考えたりすること等が当たります。②についての学習活動としては、パフォーマンス課題等についての感想を書いたり、他の人から評価してもらったことをもとに学習の状況を振り返ったりすること等が当たります。③についての学習活動としては、単元の最後にこれまでの学習活動を振り返ること等が当たります。かつては、「関心・意欲・態度」という観点名であったため、挙手の回数や課題の提出、出席状況等によって見取るものとして考えられていたこともありましたが、そうした形式的な面だけを見るのではなく、学習者が、自らの学習を調整するために、目標を意識して学習の進め方を見直し、どのように知識・技能を獲得したり、思考・判断・表現したりしようとしているのかという面を評価します。「関心・意欲・態度」を「主体的に学習に取り組む態度」に整理する過程では、次のように整理している段階がありました。ここから特徴の一つが分かります。

主体的に学習に取り組む態度は、それをはぐくむことが基礎的・基本的な知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力等の育成につながるとともに、基礎的・基本的な知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力等の育成が当該教科の学習に対する積極的な態度につながっていくなど、他の観点に係る資質や能力の定着に密接に関係する重要な要素でもある<sup>26</sup>。

観点に関わる能力は個別に存在するものではなく、それぞれが相互に影響し合い、密接に関係しています。そのため、実際に評価する場面を設定する時には、「主体的に学習に取り組む態度」を、かつてのように「挙手の回数や課題の提出、出席状況等」のみで見取るような方法では、上記の考え方からは乖離したものになってしまいます。見取りの方法としては、設定されたパフォーマンス課題を実施するとき、児童・生徒が現状を見つめ直して修正したり、周囲の意見をもとに試行錯誤して改善したりする場面を設定する、学習の状況について振り返る様子を評価する等がよいでしょう。仮に、他の観点と切り離して、「挙手の回数や課題の提出、出席状況等」のみによって見取ってしまうと、他の観点との関連性が薄いだけでなく、「粘り強さ」や「自己調整」といった側面を見取れていない上に、目標とそれに対する見取りの方法がずれた評価になってしまいます。そのため、時には「主体的に学習に取り組む態度」の評価が他の2観点と大きく異なる、「CCA」のような結果が出るようになります。あくまで、学習の進め方について、「粘り強く」「自己調整」しながら取り組んでいることが分かるような場面を設定して評価するとよいでしょう。他の2観点の習得や育成

---

<sup>25</sup> 工藤文三『「主体的に学習に取り組む態度」の評価 『自己調整』の共通理解と具体化を』（「教育新聞」(2019年5月8日)

<sup>26</sup> 中央審議会初等中等教育分科会教育課程部会「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」(平成22年3月24日)

と関連させた見取りの場面を設定することで、バランスの取れた資質・能力の育成を図ることができます<sup>27</sup>。

以上、三つの観点の評価しようと考え、学習状況や評価の対象となる能力の分け方に悩むことがあるかもしれません。また、パフォーマンス課題の評価の際に、どの活動をどの観点にすればいいのか、関連し合っているのではないかと思うこともあるでしょう。当然、これらの観点到内包される能力は相互に関連しています。まったく別個に存在している分けではないでしょう。ただ、学習者を中心に考えた時に、学習内容を分析的に見て観点を分けて評価することで学習に取り組みやすくなり、学習者が自身の学習状況を改善するための指針の一つともなりえるのです。

### コラム 「主体的に学習に取り組む態度」と外国語学習

学習指導要領では、英語の特徴に関する事項として、小学校第3学年及び第4学年 外国語活動（つまり、学校における最初の外国語学習の時期）において、「英語の特徴等に関する事項」として、次のように書いています。

実際に英語を用いた言語活動を通して、次の事項を体験的に身に付けることができるよう指導する。

ア 言語を用いて主体的にコミュニケーションを図ることの楽しさや大切さを知ること。

イ 日本と外国の言語や文化について理解すること。

（ア）英語の音声やリズムなどに慣れ親しむとともに、日本語との違いを知り、言葉の面白さや豊かさに気付くこと。

（イ）日本と外国との生活や習慣、行事などの違いを知り、多様な考え方があることに気付くこと。

（ウ）異なる文化をもつ人々との交流などを体験し、文化等に対する理解を深めること。

高校初修外国語のみならず、生徒の「主体的に学習に取り組む態度」を考えるためには、上記のことに立ち返り、目標や評価規準、指導方法を考える必要があるでしょう。

## 単元の評価

一つの単元で評価するときには、ペーパーテストを行ったり、パフォーマンス課題を実施したり、普段の授業の平常点で評価したりするなど、さまざまな評価の方法が考えられます。単元で観点別に学習の状況の評価するというのはどのように考えればよいのでしょうか。

<sup>27</sup> 中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」（平成31年1月21日）pp.12-13。

現行の学習指導要領<sup>28</sup>では、学習の状況を分析的に捉えることにより、学習の改善を要する点がどこにあるのかきめ細かく見られるようにするために、目標に準拠した評価が行われています。観点ごとに目標を設定し、児童生徒の進歩の状況や実現状況を把握することで、学習指導の改善ができるようになっていきます。この趣旨に沿って単元の学習を評価することになります。

観点の評価結果は次のような段階です。

- A 「十分満足できる」状況と判断されるもの
- B 「おおむね満足できる」状況と判断されるもの
- C 「努力を要する」状況と判断されるもの<sup>29</sup>

上記の評価結果で考えた場合は、「おおむね」は大体、おおよそ、という意味であるので、設定した目標を基本的に満たしている状況はB評価ということになります。一方、「十分」とは欠けるところがない、という意味であるので、かなりの高水準のものに対する評価結果です。観点別学習状況評価の本来の考え方では、「B」の範囲が広いものになります。このことに留意して、目標を設定するとよいでしょう。

#### コラム 「相対評価」と「絶対評価」

かつては、学校では生徒の学習状況を「相対評価」で判断していました。これは、ある集団内で、その生徒の学力がどの位置にいるかを評価するという方法でした。例えば、生徒全体の数を100%としたとき、複数回の試験の結果から偏差値を算出し、偏差値の高さによって全体の上位7パーセントの生徒を評定5に、その次の24%を評定4に、その次の38%を評定3に……といった方法によって行われていました。ただ、この評価方法は試験の点数のみで学習状況を見るため、評価の根拠を示しやすい反面、学習者自身が学習状況をどのように改善していけばいいのか理解しづらいという側面がありました。ちなみに、定められた規準をもとに、集団に左右されずに、個人が目標に対してどれぐらい実現しているかを判断する評価を、「絶対評価」と言います。

また、教科としての外国語を考えたときには、観点を横断するものとして「領域」というものがあります。「話す」（発表）、「話す」（やり取り）、「聞く」、「書く」、「読む」の四つの技能<sup>30</sup>、五つの領域があります。従来の外国語の学習のなかでは、ペーパーテストとの親和性が高いという特徴から、授業内で「読む」に力点が置かれていた状況がありました。しか

<sup>28</sup> 「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説」外国語編英語編（平成30年7月）参照。

<sup>29</sup> 国立教育政策研究所「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」高等学校・外国語（令和3年8月）p.18。

<sup>30</sup> ここでの「技能」とは、「知識・技能」のことではなく、「話す」「聞く」「書く」「読む」を言う。

し、言語学習においては、五つの領域をまんべんなく扱うことによって螺旋状に能力を向上させます。それぞれの単元で領域のうち一つ、または複数を取り上げ、適切に評価場面を設定するとよいでしょう。

現行の学習指導要領では、「小学校段階から児童の発達の段階に応じて、『聞くこと』、『読むこと』、『話すこと [やり取り]』、『話すこと [発表]』、『書くこと』の五つの領域ごとに、『知識及び技能』と『思考力、判断力、表現力等』を一体的に育成する目標を設定している<sup>31)</sup>とし、外国語活動（小学校）から高等学校の各科目に至るまで、領域ごとの目標を設定し、指導案作成に当たれるようになっていきます<sup>32)</sup>。「資質・能力の育成」ということを考えると、「語彙」や「文法」についての事項を学年別に段階的に学ぶ、という視点だけではなく、コミュニケーションにおける能力の育成という視点が必要になります。例えば、「聞くこと」「ア」の目標における、学年別の変遷を見ると、

小学校3・4年 (外国語活動)	小学校5・6年 (外国語)	中学校 (外国語)	高等学校 (英語コミュニケーションI)
ゆっくりはっきりと話された際に、自分のことや身の回りの物を表す簡単な語句を聞き取るようにする。	ゆっくりはっきりと話されれば、自分のことや身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を聞き取ることができるようにする。	はっきりと話されれば、日常的な話題について、必要な情報を聞き取ることができるようになる。	日常的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができるようにする。

となっており、指導案作成でもこれらの目標をもとにして、3観点の目標をそれぞれ設定し、単元指導案を作成しています。

ただ、高校初修外国語では、「領域ごとの目標」をそのまま活用して指導案を作成していません。それは、①高校で初めて学習することが多く、発達段階と能力ごとの目標とにミスマッチが起きうる、②p.8「**高校初修外国語の見方・考え方**」を働かせて外国語学習を捉えており、「領域ごとの目標」だけでは（仮に盛り込んだとしても）示し切れないものがある、③「**高校初修外国語の見方・考え方**」の中でも、「**言語・文化の多様性に着目して捉え、目標言語や既習言語・自言語、およびそれとむすびついた文化**」について学習することが重要

<sup>31)</sup> 「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説」外国語編（平成29年7月）p.17。

<sup>32)</sup> 「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説」外国語編英語編（平成30年7月）pp.306-308。

であり、既存の「領域ごとの目標」の形式に収められない顕著な要素がある、という3点の特徴があるからです。それら特徴を踏まえつつ、「領域」を、統一的に観点を横断するものとしては捉えずに、パフォーマンス課題との関連が深いということを重要だと考えて、主に「思考・判断・表現等」の目標（評価規準）において「領域ごとの目標」を示しています。もちろん、高校初修外国語の指導案では学習指導要領の目標に準じて目標を設定しているので、内容としては**中学校の目標**を参考に記述していますが、言語ごとの特徴や学校の状況を踏まえて、まず年間の目標を設定し、次にそこから逆向き設計して、単元等の目標を作り、評価規準を作成しています。

合わせて、高校初修外国語では独自の試みとして、「**高校初修外国語として重視すること**」を評価規準の欄に合わせて設けています。これは、高校初修外国語だけのものではなく中学校学習指導要領（平成29年告示）解説「外国語編」にも、「生涯学習」のこととして、次のようにあります。「学校教育外においても、生涯にわたって継続して外国語習得に取り組もうとする態度」<sup>33</sup>。「高校初修外国語の見方・考え方」にも同様のことを掲げています。「**高校初修外国語として重視すること**」は、授業者・学習者ともに外国語を学習するに当たり、数値として評価することはできませんが、意識することによって学びに対して有効かつ重要な要素だと考え、「主体的に学習に取り組む態度」とは別に欄を設定しています。ただ、成績の一つである観点別学習状況評価の対象とはせず、あくまで「個人内評価」（学習者のよい点や可能性、進歩の状況についての評価）の一つとして位置づけています。

## 見取りの方法

それでは、観点はそれぞれどのように見取ればよいのでしょうか。単元学習の中での見取りの場面に即して考えてみましょう。

単元とは、学習における内容や題材のまとまりのことです。1時間ではなく、複数時間にまたがって設定されることが大半です。一つの単元で、観点それぞれの評価の場面を設定します。

ここでは、p.15にある、「**2.1 単元指導案様式の書き方**」の**スペイン語**の単元を例に、実際に単元に即して評価の場面について見てみましょう。この単元では、スペイン語圏に住む人物になり切って、3分程度の時間で自己紹介しつつ、割り当てられたスペイン語圏の正月のイベントを紹介します。「**5. 各次の指導と評価の具体的な計画**」に従って、「次」ごとの学習活動と評価の関係を見たいと思います。ちなみに、**欄1**の「次」について、「時」としたときには、1時間ごとの時間だということを表し、「次」としたときには、1時間の場合もあれば複数時間の場合もあり、内容によって授業のまとまった時間だということを表します。

---

<sup>33</sup> 「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説」外国語編（平成29年7月）p16。

欄1 次	欄2 学習活動	欄3 評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本単元の目標を確認する。</li> <li>・正月のイベントについて、紹介する国を決定する。</li> <li>・番組の構成を考える。</li> </ul>	(記録に残す評価は行わないが、ねらいに即して生徒の活動を確認する)
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習事項のうち、番組で話す際に用いるスペイン語の表現について考える。</li> <li>・番組で話す際に用いるスペイン語について、インタビューシートを作成しクラスメイトとインタビューの練習をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「番組構成シート」の点検</li> <li>・インタビューの練習の観察</li> <li>→【思考・判断・表現】</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インタビューシートをもとに番組構成を見直し、台本を完成させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「番組構成シート」の点検</li> <li>・取組状況の観察</li> <li>→【知識・技能】</li> <li>→【思考・判断・表現】</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リハーサルを行う。</li> </ul>	(記録に残す評価は行わないが、ねらいに即して生徒の活動を確認する)
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・撮影する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動画の確認(※授業者はループリックで評価)</li> <li>→【知識・技能】</li> <li>→【思考・判断・表現】</li> <li>→【主体的に学習に取り組む態度】</li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスメイトの撮影した動画を視聴し、感想や気付いたことを記述し、動画の内容についてもっと聞きたいことを、作り手に質問する。</li> <li>・単元の振り返りを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「視聴メモ」の確認</li> <li>→【知識・技能】</li> <li>・「振り返りシート」の分析</li> <li>→【主体的に学習に取り組む態度】</li> <li>→【高校初修外国語として重視すること】</li> </ul>

2次では、欄2の「学習活動」にある通り、番組に使えるような表現を探します。その際、既習の言葉から探したり、翻訳アプリを活用したり、授業者に聞いたりします。欄3の「評価方法」には学んだ内容を確認するために「番組構成シート」を点検することによって生徒の状況を把握していることがわかります。「知識・技能」では、生徒の状況を把握するためにペーパーテストを行うこともあります。見取りの場面は、単元中に設定することもできますし、単元後に改めて行うこともできますが、いずれの場合も、この単元で学んだことを評

価します。

**5次**では、**欄2**に「撮影を行う。」とある通り、パフォーマンス課題の一環として、準備した番組構成の意図を踏まえて発表します。ここでは、作成した「**番組構成シート**」にもとづきながら発表しているため、発表を、「知識・技能」はもちろん、「思考・判断・表現」の評価の対象ともしています。つまり、生徒の発表の状況や、発表内容が目標に対してどの程度実現しているかを見取り、評価しています。「**パフォーマンス課題**」を評価するときには、ワークシートを点検・確認するだけでなく、「**ループリック評価**」を活用する場合があります。

**6次**では、パフォーマンス課題についての実現状況を振り返り、自己の課題を明確にしています。これは学びの自己調整を行っているため、「主体的に学習に取り組む態度」の評価対象となります。

また、パフォーマンス課題の全体を見た時には、4次や5次で行った発表やその準備の状況の中でも、撮影の途中で見直したり、他の生徒からもらったアドバイスをもとに内容を考えたり、授業者の指導を受けて直したりすることもあるので、試行錯誤しながら粘り強く課題に対して取り組む様子を見取ることができ、「主体的に学習に取り組む態度」の評価対象ともなります。「**振り返り**」によって評価するときには、ただ単に「感想」を書かせて評価するのではなく、振り返りシートを活用し、生徒の自己調整の状況を見取りやすくした、質問や構成を工夫するとよいでしょう。

留意点として、**4次**の活動を見てみましょう。4次は、5次の発表のための「**リハーサル**」を行います。ですが、この次は評価の対象に含まれていません。なぜなら、4次の活動は5次で撮影（発表）を行うための練習の時間であり、**単元の目的と直接的に結び付いた学習活動ではないから**です。したがって、「評価方法」には「**記録に残す評価は行わないが、ねらいに即して生徒の活動を確認する**」と記述しています。発表のリハーサルや練習を行う次や、復習が中心の次のときには、同様に記述します。4次の例の通り、授業で行う活動のなかには、評価の対象とならないものもあります。一般的に、授業では五つの領域に関する活動は、たいてい1時間のうちに行っています。ですが、活動をしたからといって、それが評価の対象となるかどうかは別の問題です。単元においては、目標を設定し、見取る活動を設定し、評価します。生徒が学習に対して自己調整しやすく、また学習に取り組みやすい環境を作るために、どの力を、どのような場面で、どのように適切に見取るのかを、単元の最初に示すとよいでしょう。

授業では、講義やペアワーク、グループワーク、発表、発表の練習など、バランスよく多くの学習活動が行われます。単元によっては、単元の学習が行われてしばらくしてから定期試験があり、そこで評価することもあれば、評価の場面がその単元中にはない授業もあるかもしれません。また、単元を複数積み重ねたあとにパフォーマンス課題を行うために、多くの観点・領域を見取る場となることもあります。そうしたときには、そのパフォーマンス課題がどんな単元の、どの評価規準であるのかを明確にするとよいでしょう。また、授業者に

よるフィードバックは生徒の学習を改善する大きな指針となります。成績につながる評価の前に、改善が可能な時点で積極的にフィードバックすることは、有効な方法です。

### 観点別評価への総括

各単元において、生徒一人ひとりの、観点ごと（領域ごと）の目標の実現状況を記録します。単元ごとの評価を積み重ね、総括したものが通知表に記載される観点や評定へとつながります。そのとき、年間の単元構成や状況に応じて、特定の単元の評価に対して、重みを付けて、総括することができます。評価から観点、評定へと総括する方法や考え方については、各学校で教務の規定が設けられていることが多いです。

#### コラム 「形成的評価」と「総括的评价」

「評価」には様々な側面があります。ここでいう「形成的評価」とは、単元の途中において、単元の学習目標を、児童・生徒がどの程度実現しているのかを把握するために行う評価です。ペーパーテストはもちろん、発問によって学習の状況を見取ったり、学習の様子を机間指導等によって観察することで把握したりすることもできます。学習状況を把握したのちに、目標を実現するために児童・生徒に対して個別にフィードバックしてフォローすることもありますし、授業者自身の指導方法や単元の学習計画を見直すこともあります。単元の目標を最終的に見取る前にやっているのので、「評価」という名称ではありませんが「成績」には組み込みません。

一方で、「総括的评价」とは、単元の最後において、単元の学習目標を、児童・生徒が最終的にどの程度実現しているのかを把握するために行います。こちらは、「成績」に組み込むため、評価の対象（いわゆる評価物）を記録として残す必要があります。ただし、生徒へのフィードバックは年間を通じていつでも行われますし、児童・生徒の学びは学期や学年での学びを終えてもずっと続いているとも言えるので、大きな視点で見ると「総括的评价」も「形成的評価」の一つだと言うこともできます。ここでは、「成績につながる」、「成績につながるの記録に残す必要がある」ということを「総括的评价」の重要な要素として考えます。

### 評価とアセスメント

単元で学習した内容を観点別に評価することは、抽象的な能力を測るという側面があるため、学習者に評価を説明しづらいという意見を聞くことがあります。確かに、ペーパーテストのみによって評価することは、数値的に評価を示すことができるので、細かい説明を示さなくても、説明がしやすいという利点がありました。しかし、評価とは、評定として数的

に捉え、生徒の能力を「値踏みする」<sup>34</sup>だけのものではなく、アセスメント的機能（「学習過程の中で学び手がどのように向上したかを見取り、支援する」<sup>35</sup>）をもつため、生徒の次の学習の指針となるものでもあります。よって、学習の状況を分析的に示すことで、学習者は自らの学習を分析的に捉えることができますし、授業者は生徒の状況を分析的に見ることで、授業や指導方法の改善に生かすことができます。何より、単元や授業の目標（評価規準）を明確に生徒に示し、指導を一つ一つ積み重ねていくことで、生徒に対して評価について説得力をもって状況を説明することができます。以上のように考えると、観点別学習状況評価は、児童生徒の学びを促進させるだけでなく、授業者の側にも資する要素があることがわかります。

高校初修外国語では、現在行われている観点別学習状況評価に基づきながらも、「教科」の特徴を生かして評価の方法を考えて、評価に取り組んでいます。

---

<sup>34</sup> 石井英真「教育『評価』概念再考—系譜の整理から関係論的拡張へ—」（『教育方法の探究』27号、2024年）pp.8-9 参照。

<sup>35</sup> 高木展郎『評価が変わる、授業を変える——カリキュラム・マネジメントとアセスメントとしての評価』（三省堂、2019年）pp.14-29 参照。

## 4. 単元指導案事例

この章では、令和6年度の文部科学省委託事業「教員養成機関等との連携による専門人材育成・確保事業（グローバル化に対応した外国語教育推進事業）」のメンバーによる単元指導案の事例を紹介します。この章で紹介する単元指導案のリストは以下の通りです。

	学校名	言語	担当者
1	カリタス女子中学高等学校	フランス語	小山美穂
2	東京都立第五商業高等学校	韓国語	遠藤正承・柳虎順
3	横浜市立みなと総合高等学校	中国語	温悠
4		ドイツ語	池谷尚美
5	東京都立青梅総合高等学校	韓国語	石黒みのり
6	神奈川県立藤沢総合高等学校	スペイン語	佐々木亮太
7		中国語	常廣徹
8	東京都立北園高等学校	ドイツ語	能登慶和
9	神奈川県立深沢高等学校	スペイン語	日比野規生
10	埼玉県立坂戸高等学校	スペイン語	廣瀬瞳
11	獨協高等学校	ドイツ語	鈴木冴子
12	岡山商科大学附属高等学校	中国語	水口一久
13	大阪府立門真なみはや高等学校	中国語	柳素子
14	新潟市立石山中学校	英語	武石裕子

## カリタス女子中学高等学校

### ■授業の概要

1. 学校名：カリタス女子中学高等学校
2. 科目名：フランス語
3. 単位数：2単位=45分×週2時間（ネイティブ1時間、日本人1時間、必修科目）
4. 授業者：小山 美穂
5. クラスの構成：中学3年生18名（少人数展開）
6. 生徒の概況：2年間、週2時間フランス語の授業を受けた生徒たちである。 生徒によってかなりレベルの差がある。
7. 使用教科書：Adosphère1(Hachette)タルト・タタン（駿河台出版社）

### ■年間指導案

#### 1. 年間目標

<p>高校（中学校）初修外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、フランス語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を身に付けることを目標とする。フランス語圏の国々の文化や特徴などに関する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に楽しみながらフランス語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。</p>		
<p>実際の社会や生活で生きて働く 知識・技能の習得</p>	<p>未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成</p>	<p>学んだことを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養</p>
<p>フランス語の発音の仕方や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付ける。 フランス語圏(フランコフォニー)の文化を知る。</p>	<p>フランス語によるコミュニケーションを行う目的や場面、状況を的確に判断し、日常的话题や社会的な話題について、フランス語を使って簡単な情報や考えなどを理解したり、表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。</p>	<p>フランス語に結びついた文化とフランス語圏の国々の特徴に関する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 フランス語の学習をきっかけに、英語やフランス語以外の他言語にも目を向けようとする態度を養う。</p>

## 2. 年間の単元構成

	単元の内容	パフォーマンス課題
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○家族を紹介しよう</li> <li>◇命令表現</li> <li>◇家族に関する表現</li> </ul>	なし
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○旅日記を書こう！</li> <li>◇動詞 aller の現在形の活用</li> <li>◇国名、場所を表す表現</li> <li>◇交通手段</li> <li>◇旅行に関する表現</li> <li>◇動詞 aller を用いた近接未来の表現</li> <li>◇夏休みの予定についての表現</li> <li>◆フランス語圏の国々と文化</li> </ul>	「旅の計画を書こう！」
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○過去と未来のことを表現できるようになろう！</li> <li>◇近接未来と近接過去</li> </ul>	なし
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○私の冬休み</li> <li>◇複合過去 助動詞 être</li> <li>◇時間や天気についての表現</li> <li>◇補語人称代名詞</li> <li>◇複合過去 助動詞 avoir</li> <li>◆フランス語圏や他の国の年末年始の過ごし方</li> </ul>	「冬休みにあったことを書こう」

### ■単元指導案

#### 1. 単元名

私の冬休み

#### 2. パフォーマンス課題

(パフォーマンス課題の内容)

あなたは秋にあなたの学校にコリブリで留学に来ていたフランス人からクリスマスにメールをもらいました。彼女は日本に興味があり、あなたの近況とともに日本のことも知りたいようです。彼女に近況（冬休みにあったこと）と日本の年末年始の過ごし方についてフランス語でメールを書きましょう。

(パフォーマンス課題で取り上げる文化・社会事象とその扱い方)

フランス語圏や他の国の年末年始の過ごし方を調べ、日本の文化と比べる。

### 3. 単元目標

実際の社会や生活で生きて働く 知識・技能の習得	未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成	学んだことを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養
<p><b>【知識】</b> 自分の冬休みの出来事や日本の年末年始の過ごし方を紹介するために必要な語彙、表現、文法、言語の働きを理解する。</p> <p><b>【技能】</b> 過去の出来事を紹介するのに、正しく動詞を複合過去形に活用する技能を身に付ける。</p>	<p>メールの相手に分かりやすく、自分の冬休みの出来事日本の年末年始の過ごし方を、紹介するために簡単な語句や文を用いて、書いたり話したりすることができる。</p>	<p>フランス語に結びついた文化とフランス語圏の国々の特徴に関する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。</p> <p>フランス語の学習をきっかけに、英語やフランス語以外の他言語にも目を向けようとする態度を養う。</p>

### 4. 単元指導における評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	高校初修外国語として重視すること
⇒観点別学習状況評価（数値化＝評定化する）			⇒（数値化しない）
<p><b>【知識】</b> 自分の冬休みの出来事や日本の年末年始の過ごし方を紹介するために必要な語彙、表現、文法、言語の働きを理解している。</p> <p><b>【技能】</b> 過去の出来事を紹介するのに、正しく動詞を複合過去形に活用する技能を身に付けている。</p>	<p>メールの相手に分かりやすく、自分の冬休みの出来事日本の年末年始の過ごし方を、紹介するために簡単な語句や文を用いて、書いたり話したりしている。</p>	<p>フランス語に結びついた文化とフランス語圏の国々の特徴に関する理解を深め、わかりやすいフランス語で表現しようとしている。</p>	<p>フランス語圏をはじめとする日本以外の国の冬休みの過ごし方を調べることをきっかけに、英語やフランス語以外の他言語やその文化にも目を向けようとしている。</p>

## 5. 各次の指導と評価の具体的な計画

次	学習活動	評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の冬休みの出来事を紹介するために必要な、複合過去形の作り方を学ぶ。</li> <li>・avoir の活用を復習する。</li> <li>・過去分詞の作り方を学ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期テストで確認</li> <li>→【知識・技能】</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複合過去形を使った会話練習を行う。</li> <li>・助動詞 avoir を用いた複合過去の練習問題を復習する。</li> <li>・教科書の dialogue を用いて会話練習を行う。</li> </ul>	(記録に残す評価は行わないが、ねらいに即して生徒の活動を確認する)
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・être を取る動詞について復習する。</li> <li>・助動詞 être が性数によって異なるということを学ぶ。</li> <li>・練習問題に取り組む。</li> </ul>	(記録に残す評価は行わないが、ねらいに即して生徒の活動を確認する)
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複合過去形を用いて会話する。</li> <li>・教科書の dialogue を用いて会話練習を行う。</li> <li>・練習問題に取り組む。</li> </ul>	(記録に残す評価は行わないが、ねらいに即して生徒の活動を確認する)
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本以外の国の年末年始の過ごし方を調べる。</li> <li>・「私の冬休み」(冬休みにあった出来事)の原稿を書く。</li> <li>・発表のリハーサルを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「私の冬休み」の原稿の確認</li> <li>→【知識・技能】</li> <li>→【思考・判断・表現】</li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「私の冬休み」を発表する。</li> <li>・単元の振り返りを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「私の冬休み」の発表の確認</li> <li>→【知識・技能】</li> <li>→【思考・判断・表現】</li> <li>・「振り返り」の分析</li> <li>→【主体的に学習に取り組む態度】</li> <li>・「振り返り」の点検</li> <li>→【高校初修外国語として重視すること】</li> </ul>

## 東京都立第五商業高等学校

### ■授業の概要

1. 学校名：東京都立第五商業高等学校
2. 科目名：韓国語
3. 単位数：2単位
4. 授業者：遠藤 正承（非常勤講師）、柳 虎順（非常勤講師）
5. クラスの構成：高校3年生53名 2講座同時展開（27名、26名）選択科目
6. 生徒の概況：韓国語初級クラス。韓国語に関心がある生徒、K-POP・韓流ドラマに関心がある生徒ほか
7. 使用教科書：チョン・ヒョンヒ チョ・ヒチョル『おっ、ハングル 韓国語入門テキスト』（駿河台出版社、2020年）

### ■年間指導案

#### 1. 年間目標

高校初修外国語の見方・考え方を働かせ、韓国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る。

韓国語の特性及び言語に結びついた文化や社会、韓国語を使用する人々の考え方や価値観に関心を持ち、韓国と日本の文化や社会を理解し、コミュニケーションの前提となる考える力を身につけるようにする。

実際の社会や生活で生きて働く 知識・技能の習得	未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成	学んだことを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養
韓国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身につける。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、韓国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	韓国語と結びついた文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に韓国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 韓国語の特性や韓国語を使用する人々の考え方、価値観に関心を持ち、日本および韓国に住む人々の文化や社会に目を向け、比較対照しつつ考察し理解しようとする態度を

		養う。 韓国語や既習言語・自言語、およびそれと結びついた文化について、自分で「気づき」を得るとともに、課題を発見する力、他者を尊重する態度、「学び」の学び、メタ認知能力などを養う。
--	--	---

## 2. 年間の単元構成

	単元の内容	パフォーマンス課題
1	○韓国語の特徴を学ぼうI ◇ハングルの成り立ちや構造 ◇基本母音・挨拶、教室で使うことば① ◇基本子音、濃音、激音	
2	○自己紹介しよう ◇挨拶や自己紹介をしよう	「自己紹介しよう」
3	○韓国語の特徴を学ぼうII ◇合成母音 ◇パッチム、連音化、「의」（「の」に相当する助詞）の発音の変化	
4	○他者紹介をしよう ◇人称代名詞 ◇否定形	「隣の人を紹介してみよう」
5	○自修言語を他の言語を学んでいる友達に教えよう ◆言語による自己紹介のあり方の違い ◆言語の面白さや豊かさ	「韓国語、フランス語、中国語で自己紹介をし、またそれを互いに教え合おう」
6	○どこにいますか ◇人や位置をたずねて答える。	
7	○電話番号を教えてください ◇漢字語数詞 ◇電話番号や日にちの言い方	

8	<p>○買い物しよう</p> <p>◇固有語数詞を使い、時間を尋ねたり答えたりする。</p> <p>◇単位名詞と「~주세요 (ください)」の表現を使い、買い物する。</p>	<p>「店員と客になり買い物をしてみよう」</p>
9	<p>○韓服を着て、韓国の伝統的な挨拶、礼節に触れてみよう</p> <p>◇韓国の伝統的な挨拶表現</p> <p>◆韓国の礼節</p>	
10	<p>○週末にあったことを聞いてみよう</p> <p>◇丁寧な「~아요/어요 (です)」表現を学び日常生活について話したり聞いたりする。</p> <p>◇「~았어요/었어요 (しました)」を学び、過去にあったことについて尋ねたり答えたりする。</p>	
11	<p>○家族のことを紹介しよう</p> <p>◇指示語(こそあど言葉)を使い家族や自分の好きな人について紹介する。</p> <p>◆親族呼称</p>	
12	<p>○韓国の若者に日本を代表する食べ物を紹介する動画を制作しよう</p> <p>◇既習表現の復習</p>	<p>「韓国語で日本の食べ物を紹介するコマーシャルを作ってみよう」</p>

## ■ 単元指導案

### 1. 単元名

韓国語、中国語、フランス語で自己紹介ができるように教え合おう。

### 2. パフォーマンス課題

(パフォーマンス課題の内容)

都立第五商業には、第二外国語として、韓国語、フランス語、中国語が実施されています。このたび、自己紹介をテーマに3つの言語の合同授業を行うことになりました。韓国語で自己紹介をし、他の二つの言語の学習者に韓国語の自己紹介を教えてください。他の二つの言語の自己紹介も学んでください。

(パフォーマンス課題で取り上げる文化・社会事象とその扱い方)

韓国語や既習言語、自言語と比較することで、言語による自己紹介のあり方の違いに気づき、言語の面白さや豊かさに興味を持つ。

### 3. 単元目標

実際の社会や生活で生きて働く 知識・技能の習得	未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成	学んだことを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養
<p>【知識】韓国語で自己紹介をするため語彙、表現、文法、言語の働きや発音の仕方などを理解する。</p> <p>【技能】韓国語で自己紹介する技能を身につける。</p> <p>他者が韓国語で自己紹介をできるようにするために教えるための技能を身につける。</p>	<p>※この単元では設定しない</p>	<p>既習事項を用いて、相手の状況に配慮しながら工夫して粘り強く自己紹介しようとする。</p> <p>多言語の音声やリズムなどに慣れ楽しむとともに、日本語との違いを知り、言語の面白さや豊かさに気づく。</p> <p>多言語に接することで既習言語や自言語について、自分で「気づき」を得るとともに、課題を発見する力など「学び」の学び、メタ認知能力などを養う。</p>

#### 4. 単元指導における評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む 態度	高校初修外国語として 重視すること
⇒観点別学習状況評価 (数値化=評定化する)			⇒(数値化しない)
<p>【知識】韓国語で自己紹介をするため語彙、表現、文法、言語の働きや発音の仕方などを理解している。</p> <p>【技能】韓国語で自己紹介する技能を身につけている。</p> <p>他者が韓国語で自己紹介をできるようにするように教えるための技能を身につけている。</p>	<p>※この単元では、目標が設定されていないので、評価規準の設定はなし。</p>	<p>既習事項を用いて、相手の状況に配慮しながら工夫して粘り強く自己紹介しようとしている。</p>	<p>多言語の音声やリズムなどに慣れ楽しむとともに、日本語との違いを知り、言語の面白さや豊かさに気づいている。</p> <p>多言語に接することで既習言語や自言語について、自分で「気づき」を得るとともに、課題を発見する力など「学び」の学び、メタ認知能力などを養っている。</p>

## 5. 各次の指導と評価の具体的な計画

次	学習活動	評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本単元の目標を理解する。</li> <li>・中韓仏学習者全体で 10 グループに分かれる。</li> <li>・各グループで自己紹介に活用できる表現を復習し、それぞれの言語による自己紹介文を完成させる。</li> <li>・他言語学習者に自己紹介の表現を教えるのに、何をどのように教えるか話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「他言語学習者に教えるためのメモ」の点検・確認</li> <li>→【知識・技能】</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前次でまとめた内容をもとに、活動のための役割分担をする。</li> <li>・リハーサルを行う。</li> </ul>	(記録に残す評価は行わないが、ねらいに即して生徒の活動を確認する)
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表の順番を決める。</li> <li>・他言語学習者に自己紹介の表現を教える。</li> <li>・他言語学習者が自己紹介できるよう指導する。</li> <li>・既習言語以外の言語による自己紹介を学ぶ。</li> </ul>	(記録に残す評価は行わないが、ねらいに即して生徒の活動を確認する)
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体に向けて、既習言語以外の言語による自己紹介を発表する。</li> <li>・教えながら気づいたこと、他言語を学びながら感じたことを一人ずつ発表する。</li> <li>・発表した内容をもとに、単元の内容を振り返り、記述する。</li> <li>・既習言語以外の言語による自己紹介を録音し、Teams にアップする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「振り返りシート」の確認</li> <li>→【主体的に学習に取り組む態度】</li> <li>・「振り返りシート」の点検</li> <li>→【高校初修外国語として重視すること】</li> <li>・「既習言語以外の言語による自己紹介」の点検</li> <li>→【高校初修外国語として重視すること】</li> </ul>

## 横浜市立みなと総合高等学校（1）

### 授業の概要

<p>1. 学校名：横浜市立みなと総合高等学校</p> <p>2. 科目名：中国語会話基礎</p> <p>3. 単位数：2単位</p> <p>4. 授業者：温 悠</p> <p>5. クラスの構成：2,3年合同クラス。2年女子5名。3年女子3名の計8名のクラス。</p> <p>6. 生徒の概況：身近に中国語を話す人がたくさんいる環境で生活をしている。そのため、中国語に興味があり、中国語を学ぶことに熱心である。中国人と中国語を実際に話せることを期待して授業を受けている。</p> <p>7. 使用教科書：『改訂版 大学生のための初級中国語 24回』白帝社</p>
--

### ■年間指導案

#### 1. 年間目標

<p>高校初修外国語の見方・考え方を働かせ、中国語による言語活動を通して簡単な情報や考えなどを理解したり状況を判断して的確に表現したり伝え合ったりするコミュニケーション能力を身に付ける。</p> <p>日中の言語間の間隔や価値観の違いに対する理解を促し、中国語を使用する人達の文化に関する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に楽しみながら中国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。</p>		
<p>実際の社会や生活で生きて働く 知識・技能の習得</p>	<p>未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成</p>	<p>学んだことを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養</p>
<p>中国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付ける。</p> <p>世界の中で多くの人口を占める中国語話者や横浜中華街に住む中国人の文化や語彙、発音の違いがあることを知る。</p>	<p>中国語によるコミュニケーションを行う目的や場面、状況を的確に判断し、日常的な話題や社会的な話題について中国語を使って簡単な情報や考えなどを理解したり、表現したり伝えあったりすることができる力をつける。</p>	<p>日中の言語間感覚や価値観の違いへの理解を促し、中国語を使用する人達の文化に関する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に中国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。</p> <p>中国語を話す地域や中華街でも、文化や習慣がそれぞれ異なることを意識し、さらに自国の文化と比較対照しつつ考察し理解しようとする態度を養う。</p>

## 2. 年間の単元構成

	単元の内容	パフォーマンス課題
1	○中国と中国語について知ろう。 ◇中国語の発音 ◇声調の組み合わせ ◇挨拶ことば	
2	○名前の尋ね方と答え方を知ろう ◇動詞“是”“吗”疑問文	
3	○どちらが食べたいか言ってみよう ◇動詞述語文 ◇副詞“也”と“都” ◇選択疑問文	○相手に食べたいものを聞いて一緒に食事 にいこう
4	○家族を紹介しよう。 ◇“呢”疑問文 ◇指示代名詞 ◇“的” ◆中国語の親族呼称	
5	○買いたいものを伝えよう ◇疑問詞疑問文 ◇助動詞“想”	
6	○今日の予定を聞いてみよう ◇時に関する表現① 「今日、今年」など	
7	○学校のことや授業について話そう ◇形容詞述語文 ◇反復疑問文 ◇“吧” ◇所有を表す動詞“有” ◇量詞 ◇“几”と“多少”	
8	○今週したことを話してみよう ◇文末の“了” ◇時に関する表現② 時刻	

9	<p>○パフォーマンス課題に向けて既習事項の復習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆横浜市と上海市の交流の歩み</li> <li>◆中国と日本の食文化</li> </ul>	<p>○上海でしたいことを話そう</p>
10	<p>○友達と約束をして出かけよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇連動文</li> <li>◇時間に関する表現③</li> <li>年月日、曜日</li> <li>◇疑問詞“怎么”</li> </ul>	

## ■ 単元指導案

### 1. 単元名

上海でしたいことを話そう

### 2. パフォーマンス課題

(パフォーマンス課題の内容)

本校は上海に行って、姉妹校の生徒と交流することになりました。姉妹校で交流するのは、日本語を学んでいる生徒です。その生徒たちと一緒に上海市内を散策することになっています。交流時に、自分が上海で何をしたいか、その理由を含めて伝える文章を作成して発表してください。

(パフォーマンス課題で取り上げる文化・社会事象とその扱い方)

中国と日本、中国語と日本語、横浜市姉妹都市上海市について、基礎知識を知り、双方の歴史や世界で社会的位置や立場を理解する。上海の姉妹校との交流の歩みや文化的に違う側面などを多角的に理解し、比較しながら考えられるようにする。

姉妹校の生徒と交流をするために、社会の情勢や歴史の解釈に対する多様性を理解し、得た知識を踏まえ、相手を尊重し敬意をもって姉妹校の生徒と、ともに交流をすることができる。

日常的な話題について、中国と日本それぞれの食文化（食事・料理名）や地理、産業、芸能について学び、互いに聞いたり伝え合ったりすることができるよう授業内または各自で取り組む。

### 3. 単元目標

実際の社会や生活で生きて働く 知識・技能	未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力等	学んだことを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性等
<p>【知識】自己紹介と上海でしたいことを話したり書いたりするために必要な語彙、表現、文法、言語の働きを復習する。</p> <p>言語の共通点や相違点に気付く。相手の文化とその背景を知る。</p> <p>【技能】あいさつなど簡単な定型表現や既習の文法事項を用いて自分についてと上海でしたいことを話したり、書いたりする技能を復習する。</p>	<p>上海の姉妹校の生徒との交流に向けて、上海でしたいことをわかりやすく紹介するために、上海について調べたことをもとに既習事項を含めて簡単な語句や文を用いて書いたり、話したりする。</p>	<p>日中の言語間感覚や価値観の違いへの理解を促し、中国語を使用する人達の文化に関する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に中国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。</p> <p>中国語を話す地域や同じ中華街の中でも、文化や習慣がそれぞれ異なることを意識し、さらに自国の文化と比較対照しつつ考察し理解しようとする態度を養う。</p> <p>相手を尊重しながら自分のことを伝えようとする。</p>

#### 4. 単元指導における評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り 組む態度	高校初修外国語として 重視すること
⇒観点別学習状況評価 (数値化=評定化する)			⇒(数値化しない)
<p>【知識】自己紹介と上海でしたいこと話すために必要な語彙、表現、文法、言語の働きを理解している。</p> <p>言語の共通点や相違点に気付く。相手の文化とその背景を知っている。</p> <p>【技能】既習の文法事項、あいさつや簡単な定型表現を用いて自己紹介と上海でしたいことについて話したり、書いたりする技能を身につけている。</p>	<p>上海の姉妹校の生徒との交流に向けて、上海でしたいことをわかりやすく紹介するために、調査した横浜や上海や中華街についてその特徴について、考えたことや感じたことを語句や文を用いて書いたり、話したりしている。</p>	<p>上海の姉妹校の生徒との交流に向けて、自己紹介と上海でしたいことをわかりやすく紹介するために、調査した横浜や上海や中華街についてその特徴について、考えたことや感じたことを語句や文を用いて書いたり、話したりしようとしている。</p>	<p>日中の言語感覚の違い(時間の長短等)や言語的な価値観の違いへの理解を促し、中国語を話す人達の文化と特徴に関する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に中国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。</p> <p>自国の文化と比較対照しつつ考察し理解しようとしている。</p>

#### 5. 各次の指導と評価の具体的な計画

次	学習活動	評価方法
1 (1時間)	・パフォーマンス課題遂行に必要な既習事項を復習する。	(記録に残す評価は行わないが、ねらいに即して生徒の活動を確認する)
2 (2時間)	・上海でしたいこと(行きたいところ、買いたいものなど)についての文章を作るため、上海について調べ必要な情報を探す。 ・自分のことを話すための言語材料を探す。	(記録に残す評価は行わないが、ねらいに即して生徒の行動を確認する)

3 (2時間)	・交流時に話す内容（文章）とスライドを作成する。	（記録に残す評価は行わないが、ねらいに即して生徒の提出物を確認する）
4 (2時間)	・テーマに沿った文章かチェックし、作文を清書する。 ・わかりやすいスライドかチェックし、スライドに加筆修正をする。	・交流時に話す内容（文章）とスライドの確認 →【知識・技能】 →【思考・判断・表現】
5 (2時間)	・発表練習① （自分で発表を録画し、録画した発表をワークシートを使って点検すると同時に授業者からアドバイスを受け改善点を考える）	（記録に残す評価は行わないが、ねらいに即して生徒の行動（発表）・提出物（ワークシート）を確認する）
6 (2時間)	・ワークシートと授業者のアドバイスをもとに文章を書き直す。 ・発表練習②	・書き直した文章の確認と分析 →【思考・判断・表現】 →【主体的に学習に取り組む態度】
7 (1時間)	・発表する ・発表の感想を話す。 ・振り返りを書く。	・発表の確認（※授業者はルーブリックを使って評価） →【思考・判断・表現】 ・振り返りシートの確認 →【主体的に学習に取り組む態度】

## 横浜市立みなと総合高等学校（2）

### ■授業の概要

1. 学校名：横浜市立みなと総合高等学校
2. 科目名：ドイツ語
3. 単位数：2単位
4. 授業者：池谷 尚美（非常勤講師）ALTなし
5. クラスの構成：3名（女性3名、2年生1名、3年生2名）
6. 生徒の概況：今年度初めてドイツ語を学習する生徒たち。国際交流が盛んな学校なので、外国語学習への興味・関心が高い。
7. 使用教科書：『シュピッツェ！1』（朝日出版社）

### ■年間指導案

#### 1. 年間目標

<p>高校初修外国語の見方・考え方を働かせ、ドイツ語の語法・表現、特徴を学ぶ。 ドイツ語による言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり、状況に応じて適切に表現したり、伝え合ったりするコミュニケーション能力を身に付ける。 ドイツ語の特性、および言語に結びついたドイツ語圏の文化や社会、ドイツ語を使用する人々の考え方や価値観に関心を持ち、自他の文化を理解しようとする態度を養う。</p>		
<p>実際の社会や生活で生きて働く 知識・技能の習得</p>	<p>未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成</p>	<p>学んだことを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養</p>
<p>ドイツ語の発音、語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解する。 これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身につける。 ドイツ語圏の社会・文化と日本社会・文化との違いを知る。</p>	<p>ドイツ語によるコミュニケーションの目的・場面・状況に応じて、日常的な話題や社会的な話題について、ドイツ語で簡単な情報や考えなどを理解したり、お互いに伝え合ったりすることができる力をつける。</p>	<p>ドイツ語圏の社会や文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的にドイツ語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 ドイツ語の特徴やドイツ語を使用する人々の考え方や価値観に関心を持ち、自他の文化や社会に目を向け、比較対象しながら、理解しようとする態度を養う。</p>

## 2. 年間の単元構成

	単元の内容	パフォーマンス課題
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ドイツ語を知ろう</li> <li>◇アルファベット、発音、アクセント</li> <li>◇挨拶表現、</li> <li>◇名前や体調を表す語</li> <li>◇尋ねたり、答える表現</li> </ul>	なし
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自己紹介をしよう</li> <li>◇出身、住んでいる所、専攻を表す語</li> </ul>	「自己紹介してみよう」
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○知り合いになろう</li> <li>◇国籍、言語、職業を表す語</li> <li>◇友人を紹介する表現</li> <li>◆親しさの度合いに応じた親称 (du, ihr) と敬称 (Sie)</li> </ul>	「ドイツ語を使って知り合いになろう！」
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ドイツ語圏の有名人を紹介しよう</li> <li>◇出身や住んでいる場所、職業などを3人称で表す</li> </ul>	「ドイツ語圏の有名人を紹介しよう」
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>○身の回りのものについて話してみよう</li> <li>◇バッグや傘、筆記用具などの語</li> <li>◇「それは素敵だと思う」など評価する表現</li> </ul>	なし
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>○部屋や間取りについて話してみよう</li> <li>◇部屋の名前や家具の単語</li> <li>◇部屋の特徴や広さをあらわす表現</li> <li>◆ドイツ語圏の大学生の住まい (ルームシェアなど)</li> </ul>	「留学先の住まいについて紹介しよう」
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>○家族について話してみよう</li> <li>◇家族を表す単語</li> <li>◇家族写真について説明する表現</li> </ul>	「家族について話そう」

## ■ 単元指導案

### 1. 単元名

留学先の住まいについて紹介しよう

### 2. パフォーマンス課題

(パフォーマンス課題の内容)

あなたはドイツの大学に留学していて、ルームシェアをしています。日本の大学のドイツ留学説明会で、自分のドイツでの住まいを紹介することになりました。ドイツ留学希望者は、今後ドイツの大学の留学生担当者とドイツ語で情報のやりとりをすることになります。あなたの専攻、住んでいる町、部屋の間取り、部屋の広さ、家賃、家具、ルームメイトの情報をドイツ語で説明してください。

(パフォーマンス課題で取り上げる文化・社会事象とその扱い方)

ドイツ語圏では、大学に進学して18歳になったら、家を出て生活することが一般的で、その際、ルームシェア(WG)で生活することが良くある。

### 3. 単元目標

実際の社会や生活で生きて働く 知識・技能の習得	未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成	学んだことを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養
<p>【知識】ドイツ語圏の住まいを紹介する際に必要な語彙(部屋の広さ、間取り、家具、形容詞など)、表現、文法、言語の働きを理解する。</p> <p>【技能】留学先の住まいを口頭で表現するために、必要な表現を正しく活用する技能を身につける。</p>	<p>留学先の家(部屋)を口頭発表するために、部屋の広さ、家賃、家具、同居人などについて、考えたことや感じたことを、簡単な語句や文を用いて話すことができる。</p>	<p>ドイツ語に結び付いた社会や文化に対する関心を持ち、ドイツ語で自分のドイツでの住環境について積極的に話そうとする態度を養う。</p> <p>ドイツと日本の大学生の住まい方を比較したうえで、日本とドイツ語圏の文化を尊重する態度を養う。</p>

#### 4. 単元指導における評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	高校初修外国語として重視すること
⇒観点別学習状況評価（数値化＝評定化する）			⇒（数値化しない）
<p>【知識】ドイツ語圏の住まいを紹介する際に必要な語彙（部屋の広さ、間取り、家具、形容詞など）、表現、文法、言語の働きを理解している。</p> <p>【技能】留学先の住まいを口頭で表現するために、必要な表現を正しく活用する技能を身につけている。</p>	<p>留学先の家（部屋）を口頭発表するために、部屋の広さ、家賃、家具、同居人などの情報を、簡単な語句や文を用いて話している。</p>	<p>ドイツ語に結び付いた社会や文化に対する関心を持ち、ドイツ語で自分のドイツでの住環境について積極的に話そうとしている。</p>	<p>ドイツと日本の大学生の住まい方を比較したうえで、日本とドイツ語圏の文化を尊重しようと努めている。</p>

## 5. 各次の指導と評価の具体的な計画

次	学習活動	評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本単元の説明</li> <li>・ 部屋の名前を学ぶ</li> <li>・ 住まいの印象を話す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3次で小テストによる確認</li> <li>→ 【知識・技能】</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家具の名前を知る</li> <li>・ 家具の値段を話す</li> <li>・ 必要としている家具を話す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3次で小テストによる確認</li> <li>→ 【知識・技能】</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家具の印象を話す</li> <li>・ 家具を買うためのやり取りを練習する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1次、2次の内容もあわせて、小テストによる確認</li> <li>→ 【知識・技能】</li> <li>・ ロールプレイの確認</li> <li>→ 【思考・判断・表現】</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の部屋について話す練習をする</li> </ul>	<p>(記録に残す評価は行わないが、ねらいに即して生徒の活動を確認する。)</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ドイツ語圏のルームシェア (WG) を調べる</li> <li>・ パフォーマンス課題の原稿を作成する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 取組状況の観察</li> <li>→ 【主体的に学びに取り組む態度】</li> <li>・ 原稿の確認</li> <li>→ 【思考・判断・表現】</li> </ul>
6	<p>パフォーマンス課題</p> <p>自分が住みたいと思う部屋の条件・特徴・理由などについて、聴き手に対して分かりやすく話す</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ パフォーマンス課題の発表を確認 (※授業者はルーブリックで評価)</li> <li>→ 【思考・判断・表現】</li> </ul>
7	<p>振り返り</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 振り返りシートの分析</li> <li>→ 【主体的に学習に取り組む態度】</li> <li>・ 振り返りシートの点検</li> <li>→ 【高校初修外国語として重視すること】</li> </ul>

## 都立青梅総合高等学校

### ■授業の概要

1. 学校名： 都立青梅総合高等学校
2. 科目名： ハングル発展
3. 単位数： 2単位
4. 授業者： 石黒 みのり
5. クラスの構成： 11人
6. 生徒の概況： 2年次に「ハングル」を受講した生徒がほとんど。Kカルチャーに関心の多い生徒が多い。釜山外国語大学夏季語学研修に参加した生徒もいる。
7. 使用教科書： 『できる韓国語 中高校生の基本編』

### ■年間指導案

#### 1. 年間目標

高校初習外国語の見方・考え方を働かせ、韓国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーション能力を身に付ける。その際、韓国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを日本語（母語）との共通点や違いに関心を向けられるようにする。

また、韓国語の特性および言語に結びついた文化や社会、韓国語を使用する人々の考え方や価値観に関心をもち、韓国語圏や日本語圏などの文化や社会を理解する。

<p>実際の社会や生活で生きて働く</p> <p>知識・技能の習得</p>	<p>未知の状況にも対応できる</p> <p>思考力・判断力・表現力の育成</p>	<p>学んだことを人生や社会に生かそうとする</p> <p>学びに向かう力・人間性の涵養</p>
<p>韓国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを、日本語（母語）との共通点や違いに目を向けながら理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる能力を身に付ける。</p>	<p>コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、韓国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを積極的に活用して表現したり、やりとりをすることのできる力を養う。</p>	<p>韓国語と結びついた文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、学習した韓国語を用いて主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。</p> <p>韓国語の特性および言語に結びついた文化や社会、韓国語を使用する人々の考え方や価値観に関心をもち、日本語圏、韓国語圏などの文化や社会を理解する。</p>

## 2. 年間の単元構成

	単元の内容	パフォーマンス課題
1	○自己紹介 ◇名詞文、합니다体 (かしこまりました・ます体)	
2	○習慣、経験、予定を話す ◇해요体① (うちとけたです・ます体) ◇해요体② (うちとけたです・ます体の過去形) ◇過去を表す時間表現 (先週、去年など)	
3	○韓国旅行でしたいことについて話す ◇-고 싶어요 (~したいです)	
4	○モーニング・ナイトルーティンについて話す ◇1 学期の復習 ◇-고 (~して...) ◇接続詞	
5	○先週末の出来事を話す ◇不規則活用 (1) ㅈ, ㅊ 不規則 ◇不規則活用 (2) ㅅ, ㅆ 不規則	
6	○日韓の文化の違いについて話す ◇-지만 (~だけど) ◆日韓の文化の違い	
7	○韓国旅行の計画を作る ◇動詞・形容詞の連体形	
8	○日本文化について紹介しよう ◇既習表現の復習 ◆お正月、クリスマス、学校生活などを日韓で比較	日本文化について紹介しよう

## ■ 単元指導案

### 1. 単元名

日本文化について紹介しよう

### 2. パフォーマンス課題

(パフォーマンス課題の内容)

青梅総合高校は韓国に交流校があります。このたび、オンライン交流で、お互いの国の文化紹介をすることになりました。自己紹介を含めて日本文化を紹介してください。

(パフォーマンス課題で取り上げる文化・社会事象とその扱い方)

日本のお正月、クリスマス、学校生活などを韓国と比較する。それらと文化の連関について考察する。

### 3. 単元目標

実際の社会や生活で生きて働く 知識・技能の習得	未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成	学んだことを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養
<p>【知識】日本文化を説明するために、必要な語彙表現を復習して理解する。</p> <p>【技能】日本文化を説明するのに必要な語彙表現を正しく活用する技能を身に付ける。</p>	<p>日本文化を説明するために、簡単な語彙表現を用いて話す。</p>	<p>聞き手に配慮しながら、日本文化について、わかりやすい韓国語で表現しようとする態度を養う。</p> <p>自国の文化と韓国の文化を比較することを通して、自文化を見直そうとする態度を養う。</p>

### 4. 単元指導における評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	高校初修外国語として重視すること
⇒観点別学習状況評価 (数値化＝評定化する)			⇒(数値化しない)
<p>【知識】日本文化を説明するために、必要な語彙表現を復習して理解している。</p> <p>【技能】日本文化を説明するのに必要な語彙表現を正しく活用する技能を身に付けている。</p>	<p>日本文化を説明するために、簡単な語彙表現を用いて話している。</p>	<p>聞き手に配慮しながら、日本文化について、わかりやすい韓国語で表現しようとしている。</p>	<p>自国の文化と韓国の文化を比較することを通して、自文化を見直そうとしている。</p>

## 5. 各次の指導と評価の具体的な計画

次	学習活動	評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習事項を総復習する。</li> <li>・授業レポートを提出する（以下毎次）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆記とリスニングテスト →【知識・技能】</li> <li>→【思考・判断・表現】</li> <li>・授業レポートの確認 →【主体的に学習に取り組む態度】</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何について紹介をするかテーマを決める。</li> <li>・日本文化の紹介に必要な言語材料を探す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業レポートの確認 →【主体的に学習に取り組む態度】</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本文化の紹介文を書く。</li> <li>・教師よりフィードバックを受けて修正する。</li> <li>・PPTを作成し、発表練習をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紹介文の確認 →【知識・技能】</li> <li>→【思考・判断・表現】</li> <li>・授業レポートの確認 →【主体的に学習に取り組む態度】</li> <li>・授業レポートの点検 →【高校初修外国語として重視すること】</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンライン交流にて発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業レポートの確認 →【主体的に学習に取り組む態度】</li> <li>・授業レポートの点検 →【高校初修外国語として重視すること】</li> </ul>

## 神奈川県立藤沢総合高等学校（1）

### ■授業の概要

1. 学校名： 神奈川県立藤沢総合高等学校
2. 科目名： スペイン語入門
3. 単位数： 2単位（前期週4時間）
4. 授業者： 奥村 サラ、佐々木 亮太
5. クラスの構成： 男子3名、女子17名 合計20名
6. 生徒の概況： 在県生徒が3名おり、外国語に興味を持つ生徒が多い。活動など盛り上がる雰囲気がある。
7. 使用教科書： 『-文法中心スペイン語総合学習教本- Gramaño』朝日出版

### ■年間指導案

#### 1. 年間目標

<p>高校初修外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、スペイン語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を身に付けることを目標とする。また、スペイン語を学習することで触れる文化やスペイン語圏の人々の暮らしについて気づき、日本及び英語圏の国の文化や社会について言語と関連した経験、比較、考察をする。</p>		
<p>実際の社会や生活で生きて働く 知識・技能の習得</p>	<p>未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成</p>	<p>学んだことを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養</p>
<p>・スペイン語の語彙、発音、符号、動詞の活用などの知識を身に付けるとともにその知識をもとにした内容で話す、書く、聞く、読むための技能を身に付ける。 ・スペイン語が話される国での言語特性の違いや地域性の違い、生活様式、思考の違いなどを知る。</p>	<p>・スペイン語によるコミュニケーションを行う目的や場面、状況を的確に判断し、日常的な話題や社会的な話題について、スペイン語を使って簡単な情報や考えなど聞いたり、読んだり、話したり、書くことで表現し伝え合うことができる力を身に付ける。</p>	<p>・スペイン語によるコミュニケーションを行う目的や場面、状況を的確に判断し、日常的な話題や社会的な話題について、スペイン語を使って簡単な情報や考えなど伝えあうことでコミュニケーションを取ろうとする態度を身に付ける。またそのコミュニケーションを通して日本語や英語との違いに気づき、異文化を受け入れる素地を身に付ける。</p>

## 2. 年間の単元構成

	単元の内容	パフォーマンス課題
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○スペイン語について知ろう！</li> <li>◇あいさつ、アルファベット、符号</li> <li>◆スペイン語圏の国調べ</li> </ul>	
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自己紹介をしよう！</li> <li>◇名詞の規則、冠詞の規則、形容詞の規則、ser 動詞</li> <li>◆スペイン語圏の国々における自己紹介のマナー</li> </ul>	自己紹介をしよう！
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○いままでの知識や技能を定着しよう！</li> <li>既習項目の復習、中テスト（授業内）</li> </ul>	
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○初対面の方と名刺交換しよう</li> <li>◆丁寧表現</li> </ul>	初対面の方と名刺交換しよう！
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>（夏季休業明けの為ほとんど授業なし）</li> <li>○スペイン語でいろいろなことを表現してみよう</li> </ul>	

### ■単元指導案

#### 1. 単元名

上司からの依頼「名刺交換をしよう」

#### 2. パフォーマンス課題

（パフォーマンス課題の内容）

あなたは社会人1年目の社員です。上司からペルーの館の取引でペルーの人と面談することになりました。上司はスペイン語が話せるので面談であなたが話すことはないのですが、上司の会議の都合の関係でペルーの方のお出迎えだけ一人でやってくれとお願いされました。上司からの依頼は以下の手順になります。

- ①あいさつして自己紹介して
- ②私と君の名刺のデータのQRコードを読み取ってもらってあげて
- ③会議室に案内してあげて

（パフォーマンス課題で取り上げる文化・社会事象とその扱い方）

いままで学んできたあいさつで相手への丁寧さや尊敬を含む時の表現を選ぶ思考（Holaはフォーマルな時には使わない。por favorを付け足した方が良いかどうかなど）。日本語の丁寧語との違いや英語と比較して同じ特徴があるかなどの気づきを狙いとしている。

### 3. 単元目標

実際の社会や生活で生きて働く 知識・技能の習得	未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成	学んだことを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養
<p><b>【知識】</b></p> <p>・初対面の取引相手に対するあいさつと名刺交換のやりとりをするための語彙とフレーズを理解する。</p> <p><b>【技能】</b></p> <p>・初対面の取引相手に対するあいさつを名刺交換のやりとりをするための表現を話して使う技能を身に付ける。</p>	<p>初対面の取引相手と名刺交換をするために、スペイン語を用いてあいさつと名刺交換を行い、所定の場所に案内するために話（やりとり）をする。</p>	<p>初対面の取引相手と名刺交換をするために、スペイン語を用いてあいさつと名刺交換を行い、所定の場所に案内するための話（やりとり）をしようとする。</p> <p>また、この課題を通して自己を振り返り次回への工夫や言語能力の運用について思考している。</p> <p>スペイン語における丁寧な表現について思考し、スペイン語により親しむ。</p>

### 4. 単元指導における評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	高校初修外国語として重視すること
⇒観点別学習状況評価（数値化＝評定化する）			⇒（数値化しない）
<p><b>【知識】</b></p> <p>・初対面の人と丁寧なあいさつと名刺交換のやりとりをするための語彙とフレーズを理解している。</p> <p><b>【技能】</b></p> <p>・初対面の人と丁寧なあいさつを名刺交換のやりとりをするための表現を話して使う技能を身に付けている。</p>	<p>初対面の人と名刺交換をするために、スペイン語を用いてあいさつと名刺交換を行い、所定の場所に案内するやりとり（話す）をしている。</p>	<p>初対面の人と名刺交換をするために、スペイン語を用いて交換を行い、所定の場所に連れていくやりとり（話す）をしようとしている。</p>	<p>この課題を通して自己を振り返り次回への工夫や言語能力の運用について考えようとしている。</p> <p>スペイン語における丁寧な表現について思考し、スペイン語により親しもうとしている。</p>

## 5. 各次の指導と評価の具体的な計画

次	学習活動	評価方法
1 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パフォーマンス課題の説明。</li> <li>・使用できる表現の振り返り。</li> </ul>	記録に残す評価は行わないが、ねらいに即して生徒の活動を確認する。
2 (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しいフレーズの練習をする。</li> <li>・実際の場面で困らないようにメモを作る。</li> </ul>	記録に残す評価は行わないが、ねらいに即して生徒の活動を確認する。
3 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パフォーマンス課題「名詞交換をしよう」</li> <li>・振り返りシートを記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パフォーマンス課題（ループリックにより評価） <ul style="list-style-type: none"> <li>→【知識・技能】</li> <li>→【思考・判断・表現】</li> <li>→【主体的に学習に取り組む態度】</li> </ul> </li> <li>・振り返りシートの記述の確認。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→【主体的に学習に取り組む態度】</li> <li>→【高校初修外国語として重視すること】</li> </ul> </li> </ul>

## 神奈川県立藤沢総合高等学校（2）

### ■授業の概要

1. 学校名：神奈川県立藤沢総合高等学校
2. 科目名：中国語入門
3. 単位数：2単位（前期週4時間）
4. 授業者：常廣 徹、高 華
5. クラスの構成：男子4名、女子21名 合計25名
6. 生徒の概況：発音練習等、非常に真面目にしっかりと取り組むことができる生徒が多い。
7. 使用教科書：『中国語で伝えよう！コミュニケーション・チャイニーズ』朝日出版社

### ■年間指導案

#### 1. 年間目標

<p>高校初修外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、中国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を身に付けることを目標とする。また、中国語を学習することで触れる文化や中国語圏の人々の暮らしについて気づき、日本及び英語圏の国の文化や社会について言語と関連した経験、比較、考察をする。</p>		
<p>実際の社会や生活で生きて働く 知識・技能の習得</p>	<p>未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成</p>	<p>学んだことを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養</p>
<p>・中国語の語彙、発音、符号、動詞の活用などの知識を身に付けるとともにその知識をもとにした内容で話す、書く、聞く、読むための技能を身に付ける。 ・中国語が話される国での言語特性の違いや地域性の違い、生活様式、思考の違いなどを知る。</p>	<p>・中国語によるコミュニケーションを行う目的や場面、状況を的確に判断し、日常的な話題や社会的な話題について、中国語を使って簡単な情報や考えなど聞いたり、読んだり、話したり、書くことで表現し伝え合うことができる力を身に付ける。</p>	<p>・中国語によるコミュニケーションを行う目的や場面、状況を的確に判断し、日常的な話題や社会的な話題について、中国語を使って簡単な情報や考えなど伝えあうことでコミュニケーションを取ろうとする態度を身に付ける。またそのコミュニケーションを通して日本語や英語との違いに気づき、異文化を受け入れる素地を身に付ける。</p>

## 2. 年間の単元構成

	単元の内容	パフォーマンス課題
1	○中国語を知ろう！ ◆中国を知る ◇中国語の特徴 ◇発音の基礎 ◇挨拶	
2	○自己紹介をしよう！ ◇初対面の挨拶 ◇名前の言い方 ◇好きなものの言い方 ◆接遇表現	自分の好きなものを含めて自己紹介しよう
3	○他者紹介をしよう！ ◇人称代名詞 ◇“是”の用法 ◇名刺交換 ◆丁寧表現	初対面の方と名刺交換しよう
4	○家族紹介をしよう！ ◆家族に関する言葉の特徴 ◇職業に関する言葉 ◇疑問詞の用法	家族紹介をしよう

## ■ 単元指導案

### 1. 単元名

上司からの依頼「名刺交換をしよう」	「上司に代わって、名刺交換する」
-------------------	------------------

### 2. パフォーマンス課題

<p>(パフォーマンス課題の内容)</p> <p>あなたは社会人1年目の社員です。上司から中国のお茶の取引で中国の人と面談することになりました。上司は中国語が話せるので面談であなたが話すことはないのですが、上司の会議の都合の関係で中国の方のお出迎えだけ一人でやってくれとお願いされました。上司からの依頼は以下の手順になります。</p> <p>①あいさつして自己紹介して</p> <p>②私と君の名刺のデータのQRコードを読み取ってもらってあげて</p> <p>③会議室に案内してあげて</p>
<p>(パフォーマンス課題で取り上げる文化・社会事象とその扱い方)</p> <p>いままで学んできたあいさつで相手への丁寧さや尊敬を含む時の表現を選ぶ思考（拜拝はフォーマルな時には使わない。目上の人には您を使うなど）。日本語の丁寧語との違いや英語と比較して同じ特徴があるかなどに気づけるようにする。</p>

### 3. 単元目標

実際の社会や生活で生きて働く 知識・技能の習得	未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成	学んだことを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養
<p><b>【知識】</b></p> <p>・初対面の人と丁寧なあいさつと名刺交換のやりとりをするための語彙とフレーズを理解する。</p> <p><b>【技能】</b></p> <p>・初対面の人と丁寧なあいさつを名刺交換のやりとりをするための表現を話して使う技能を身に付ける。</p>	<p>初対面の人と名刺交換をするために、簡単な語句や文を用いてやり取りすることができる。</p>	<p>初対面の人と名刺交換をするために、中国語を用いてあいさつと名刺交換を行い、所定の場所に案内するやりとり（話す）をする。</p> <p>また、この課題を通して自己を振り返り次回への工夫や言語能力の運用について思考する。中国語における丁寧な言い方の表現を知り、中国語に親しむ。</p>

#### 4. 単元指導における評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	高校初修外国語として重視すること
⇒観点別学習状況評価（数値化＝評定化する）			⇒（数値化しない）
<b>【知識】</b> ・初対面の人と丁寧なあいさつと名刺交換のやりとりをするための語彙とフレーズを理解している。 <b>【技能】</b> ・初対面の人と丁寧なあいさつを名刺交換のやりとりをするための表現を話して使う技能を身に付けている。	初対面の人と名刺交換をするために、簡単な語句や文を用いてやり取りしている。	初対面の人と名刺交換をするために、中国語を用いて交換を行い、所定の場所に連れていくやりとり（話す）をしようとしている。	この課題を通して自己を振り返り次回への工夫や言語能力の運用について思考している。中国語における丁寧な言い方の表現を知り、中国語に親しんでいる。

#### 5. 各次の指導と評価の具体的な計画

次	学習活動	評価方法
1	・人称代名詞の用法を学ぶ ・“是”の用法を学ぶ ・中国語における接遇表現について学ぶ。	・ペーパーテストによる確認 →【知識・技能】
2	・名刺交換をするために必要な語彙を学ぶ。 ・教科書の表現をもとに名刺交換の練習を行う。	（記録に残す評価は行わないが、ねらいに即して生徒の活動を確認する。）
3	・実際の場面を想定した表現を学ぶ。 ・実際の場面を想定し、名刺交換に必要なメモを作る。	・「名刺交換メモ」の点検 →【知識・技能】
4	・実際の場面を想定した名刺交換の練習を行う。	（記録に残す評価は行わないが、ねらいに即して生徒の活動を確認する。）

5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・名刺交換を行う。</li> <li>・終了後、単元の振り返りを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ALT とのやり取りの確認(※授業者はルーブリックで評価) <ul style="list-style-type: none"> <li>→【知識・技能】</li> <li>→【思考・判断・表現】</li> <li>→【主体的に学習に取り組む態度】</li> </ul> </li> <li>・「振り返りシート」の分析 <ul style="list-style-type: none"> <li>→【主体的に学習に取り組む態度】</li> </ul> </li> </ul>
---	---	--

## 東京都立北園高等学校

### ■授業の概要

1. 学校名：東京都立北園高等学校
2. 科目名：ドイツ語発展2
3. 単位数：2単位（週1回：50分授業×2コマ連続）
4. 授業者：能登 慶和（非常勤） *ドイツ人ALTとのTT有り
5. クラスの構成：高校2年生28名（男10名・女18名）*男子1名が2学期から留学中
6. 生徒の概況：ドイツ語を学習し始めて2年目の生徒たちである。北園高校では2010年よりドイツ外務省ドイツ語推進プロジェクト「PASCH」に参画しており、ドイツ語の履修者は多い。その中でも発展クラスはとりわけこの「PASCH」の様々な活動に参加する生徒が集まっており、ドイツ語およびドイツ文化への興味が比較的高い。
7. 使用教科書： Hueber社「Beste Freunde PLUS A1.1 Kursbuch – Interaktive Version」 + 「Beste Freunde PLUS A1.2 Kursbuch – Interaktive Version」

### ■年間指導案

#### 1. 年間目標

<p>高校初修外国語の見方・考え方を働かせ、ドイツ語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーション能力を身につける。</p> <p>1年生の基礎に基づき、ドイツ語の特性および言語に結びついた社会や文化への関心と理解をさらに深め、日本語・ドイツ語・英語およびそれらの社会・文化と比較しながら複眼的な視野の獲得を目指す。</p>		
<p>実際の社会や生活で生きて働く 知識・技能の習得</p>	<p>未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成</p>	<p>学んだことを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養</p>
<p>ドイツ語の音声や語彙、文法、表現、言語の働きなどを理解し、これらの知識を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて応用できる技能を身につける。 ドイツ語圏における多様</p>	<p>ドイツ語によるコミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的な話題について、ドイツ語で情報や考えなどを理解したり、これらを活用して自ら積極的に表現したり伝えあったりする力を養う。</p>	<p>ドイツ語と結びついた社会や文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的にドイツ語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 ドイツ語の特性やドイツ語を使用する人々の考え方や</p>

な社会や文化について知る。		価値観に関心を持ち、日本、ドイツ語圏に住む人々の文化や社会に目を向け、比較対照しつつ考察し理解しようとする態度を養う。
---------------	--	---

## 2. 年間の単元構成

月	単元の内容	パフォーマンス課題
1	1年目の振り返り、復習	
2	○買い物をしてみよう (Modul 8) ◇動詞 mögen の活用 ◇敬称の Sie ◇所有冠詞 mein, dein ◆2人称 (親称、敬称) の区別	
3	○食べ物について話そう (Modul 9) ◇動詞 essen の活用 ◇名詞の複数形 ◇所有冠詞 sein, ihr ◆ドイツの食文化	
4	○1日の流れについて話そう (Modul 9) ◇動詞 schlafen の活用 ◇分離動詞◇所有冠詞 sein/ihr ◇前置詞 von-bis	
5	○ドイツ語でレシピを作成して発表しよう ◇レシピに必要な単語 ◇不定詞句構造 ◆日独の食文化の比較	ドイツ語でレシピを作成して発表しよう
6	○趣味について話そう (Lektion 10) ◇不規則動詞の活用 ◇gern の用法 ◇命令形	
7	○旅行について話そう (Lektion 13) ◇前置詞 zu/nach/in の使い分け ◇所有冠詞 Ihr ◆ドイツの観光名所	

8	○世界旅行のプレゼンをしよう ◇前置詞の用法 ◇不定代名詞 man と助動詞 können ◆世界の観光名所	世界旅行のプレゼンをしよう
---	---	---------------

## ■ 単元指導案

### 1. 単元名

「ドイツ語でレシピを作成し発表しよう」

### 2. パフォーマンス課題

(パフォーマンス課題)

北園高校は PASCH のパートナー校です。この度、皆さんは PASCH 新聞で日本の料理についてドイツ語で紹介することになりました。各グループでレシピを作成して発表してください。

(パフォーマンス課題で取り上げる文化・社会事象とその扱い方)

ドイツと日本の料理を比較しながら、その特徴や地域性などに着目し、食文化の相違点や共通点について考える。

### 3. 単元目標

実際の社会や生活で生きて働く 知識・技能の習得	未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成	学んだことを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養
<p>【知識】ドイツ語で料理に必要な食材、調味料、動詞などの語彙や表現を理解する。</p> <p>【技能】レシピに特有の不定詞句を用いて書いたり話したりする技能を身に付ける。</p>	<p>ドイツ語圏の人たちに日本の料理を紹介するために、調べた情報をスライドに整理し、写真も効果的に使用しながら、適切な語彙や表現を用いてレシピを紹介できる。</p>	<p>ドイツ語のレシピの例を基に、自分たちが紹介したい料理について、必要な単語を調べてドイツ語で表現しようとする。</p> <p>ドイツ語やドイツ文化の特性に関心を持ち、日本、ドイツ語圏に住む人々の文化や社会に目を向け、比較対照しつつ考察し理解しようとする態度を養う。</p>

#### 4. 単元指導における評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	高校初修外国語として重視すること
⇒観点別学習状況評価（数値化＝評定化する）			⇒（数値化しない）
<p>【知識】ドイツ語で料理に必要な食材、調味料、動詞などの語彙や表現を理解している。</p> <p>【技能】レシピに特有の不定詞句を用いて書いたり話したりする技能を身に付けている。</p>	ドイツ語圏の人たちに日本の料理を紹介するために、調べた情報をスライドに整理し、写真も効果的に使用しながら、適切な語彙や表現を用いてレシピを紹介している。	ドイツ語のレシピの例を基に、自分たちが紹介したい料理について、必要な単語を調べてドイツ語で表現しようとしている。	ドイツ語やドイツ文化の特性について、日本語や日本文化と比較対照しながら、それらの違いや共通点について気づきを得ている。

#### 5. 各次の指導と評価の具体的な計画

次	学習活動	評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>ドイツの料理に関するレシピの解釈</li> <li>主要な単語を抽出して単語シートを作成する</li> <li>不定詞句用法の確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単語シートの点検 →【知識・技能】</li> <li>単語シートの確認</li> <li>小テスト（2次で実施）で確認 →【知識・技能】</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループごとに担当料理を決定</li> <li>各グループで必要な単語の整理</li> <li>レシピ文章の作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>レシピ文書の確認 →【知識・技能】</li> <li>Peer 評価の確認 →【主体的に学習に取り組む態度】</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>スライドの作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スライドの点検 →【思考・判断・表現】</li> <li>Peer 評価の確認 →【主体的に学習に取り組む態度】</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>パフォーマンス課題実施</li> <li>振り返りシート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>レシピの確認（ループリック評価） →【知識・技能】</li> <li>→【思考・判断・表現】</li> <li>レシピの発表の確認（ループリック評価） →【知識・技能】</li> <li>振り返りシートの確認</li> </ul>

		<p>→【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>→【高校初修外国語として重視すること】</p>
5	・レシピ本の作成（発表内容を Word でまとめる）	（記録に残す評価は行わないが、狙いに即して生徒の活動を確認する。）

## 神奈川県立深沢高等学校

### ■授業の概要

1. 学校名：神奈川県立深沢高等学校
2. 科目名：スペイン語
3. 単位数：2単位（3年自由選択科目）
4. 授業者：日比野 規生（専任 外国語科）TTなし
5. クラスの構成：男子7名 女子15名
6. 生徒の概況：ほぼ全員が国際系の大学専門学校への進学を希望している 自由選択科目選択者のため学習意欲が高く、外国語への興味・関心が高い
7. 使用教科書：自主作成教材

### ■年間指導案

#### 1. 年間目標

<p>高校初修外国語の見方・考え方を働かせ、スペイン語の語法・表現、特徴を学び、スペイン語による言語活動を通して簡単な情報や考えなどを理解したり状況を判断して的確に表現したり伝え合ったりするコミュニケーション能力を身に付ける。</p> <p>スペイン語圏の国々の文化や特徴などに関する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に楽しみながら スペイン語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。</p>		
<p>実際の社会や生活で生きて働く</p> <p>知識・技能の習得</p>	<p>未知の状況にも対応できる</p> <p>思考力・判断力・表現力の育成</p>	<p>学んだことを人生や社会に生かそうとする</p> <p>学びに向かう力・人間性の涵養</p>
<p>スペイン語の発音のしかたや語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。</p> <p>スペイン語圏の各国により、語彙や発音が違うことを知る。</p>	<p>スペイン語によるコミュニケーションを行う目的や場面、状況を的確に判断し、日常的な話題や社会的な話題について、スペイン語を使って簡単な情報や考えなどを理解したり、表現したり伝え合ったりすることができる力を身に付ける。</p>	<p>スペイン語に結びついた文化とスペイン語圏の国々の特徴に関する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。スペイン語圏の国々の中でも文化や習慣がそれぞれ異なることを意識し、さらに自国の文化と比較対照しつつ考察し理解しようとする態度を養う。</p>

## 2. 年間の単元構成

	単元の内容	パフォーマンス課題
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○スペイン語でのコミュニケーションの第一歩</li> <li>◇アルファベット・発音・アクセントに関する知識</li> <li>◇自己紹介の表現</li> <li>◆挨拶表現とマナー</li> </ul>	自己紹介をしてみよう
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○スペイン語圏の文化に親しもう</li> <li>◇職業に関するスペイン語</li> <li>◇数字の表現</li> <li>◇体調の表現、動詞 tener</li> <li>◆スペイン語圏の国々と文化</li> </ul>	なりきり自己紹介
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○情報を集めて人や物の様子を表現してみよう</li> <li>◇主格の代名詞と ser 動詞</li> <li>◇形容詞の用法</li> <li>◇疑問詞を使っての簡単な質問</li> <li>◇食材・調理方法の表現</li> <li>◆チュロスの作り方（調理体験）</li> </ul>	インタビューをして友人を紹介しよう
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分のことについて詳しく表現してみよう</li> <li>◇estar 動詞の用法</li> <li>◇¿Cuál es tu ~ favorito(a)? Mi ~ favorito(a) es ~ . の表現</li> </ul>	好きなことについて話そう
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>○インタビューとともに日本の文化を紹介しよう</li> <li>◇疑問詞を使った表現</li> <li>◇動詞(-ar)の用法</li> <li>◇動詞(-ir -er)の用法</li> <li>◆インタビュー実習を通して文化の違いを考える</li> </ul>	外国人にインタビューしよう
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分ができること、したいこと、しようと思っていることを表現しよう</li> <li>◇-ar,-er,-ir 動詞の復習</li> <li>◇desear, poder, ir a の用法</li> <li>◇接続詞の用法</li> </ul>	自己PRに挑戦しよう
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>○祭を紹介するビデオレターを作ろう</li> <li>◇論理的な文章の書き方</li> <li>◆スペイン語圏の代表的な祭の特徴を知る</li> </ul>	私の国の祭を紹介しよう

## ■単元指導案

### 1. 単元名

『私の国のお祭り』

～スペイン語圏の国のお祭りをビデオレターにして日本の友達に紹介しよう～

### 2. パフォーマンス課題

(パフォーマンス課題)

あなたはスペイン語圏の国に住む人物です。以前、日本を訪れた際に知り合った日本人のスペイン語教師から、あなたの国の代表的な祭を紹介するビデオレターの作成を依頼されました。そのビデオレターを高校のスペイン語の授業で使いたいそうです。祭の会場に行って祭の特徴を紹介するビデオレターを作成してください。

(パフォーマンス課題で取り上げる文化・社会事象とその扱い方)

- ・その国の祭りの特徴を理解するとともに、日本の伝統的な祭りと比較する。
- ・スペイン語圏の祭りという文化的要素を紹介するビデオレターを作成する際に必要な語彙、表現などを1年間の学習内容から探し活用するとともに、新たな表現を学ぶ。
- ・スペイン語圏の国々の祭りを調べその特徴を知るとともに様々な国の祭りの異同を考察する。
- ・日本の祭りの特徴と比較し日本の祭りと自国の文化の連関を発見する。

### 3. 単元目標

実際の社会や生活で生きて働く 知識・技能の習得	未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成	学んだことを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養
<p>【知識】スペイン語圏の祭をビデオレターで紹介する際に必要な語彙、表現、文法、言語の働きを理解する。</p> <p>【技能】ビデオレターを作成するのに必要な表現を正しく活用する技能を身に付ける。</p>	<p>ビデオレター（動画）によって視聴者に分かりやすく紹介するために調査した祭の特徴や起源について簡単なスペイン語を用いて、表現する。</p>	<p>紹介の対象となるスペイン語圏の国の祭について粘り強く調べ、それらをわかりやすいスペイン語で表現しようとする。</p> <p>また、祭がスペイン語圏の国々でも異なることを意識した上で、自国の文化とスペイン語圏の国々の文化を尊重する態度を養う。</p>

### 4. 単元指導における評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	高校初修外国語として重視すること
⇒観点別学習状況評価（数値化＝評定化する）			⇒（数値化しない）
<p>【知識】スペイン語圏の祭をビデオレターで紹介する際に必要な語彙、表現、文法、言語の働きを理解している。</p> <p>【技能】ビデオレターを作成するのに必要な表現を正しく活用する技能を身に付けている。</p>	ビデオレター（動画）によって視聴者に分かりやすく紹介するために調査した祭の特徴や起源について簡単なスペイン語を用いて、表現している。	紹介の対象となるスペイン語圏の祭について粘り強く調べ、それらをわかりやすいスペイン語で表現しようとしている。	スペイン語を自発的に楽しみながら学習しようとしている。 スペイン語を積極的に活用しようとしている。

### 5. 各次の指導と評価の具体的な計画

次	学習活動	評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本単元の目標説明</li> <li>・紹介する国の祭りを決定する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・番組構成シートの点検 →【思考・判断・表現】</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビデオレターに使えるような表現を探す。</li> <li>・インタビューシートを作成しクラスメイトからのインタビューに答える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・番組構成シートの確認 →【知識・技能】</li> <li>・インタビューシートの確認 →【知識・技能】</li> <li>・取り組み状況の観察 →【思考・判断・表現】</li> </ul>
3 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・番組構成シートとインタビューシートをもとに台本を完成させる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・台本の分析・取り組み状況の観察 →【知識・技能】</li> <li>→【思考・判断・表現】</li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リハーサル</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リハーサルの取り組み状況の観察 →【高校初修外国語として重視すること】</li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビデオレターの作成（撮影）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビデオレターの確認（ループリックで評価） →【知識・技能】</li> <li>→【思考・判断・表現】</li> <li>→【主体的に学習に取り組む態度】</li> </ul>
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視聴と質疑</li> <li>・視聴メモと振り返りシートの作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視聴メモと振り返りシートの分析 →【主体的に学習に取り組む態度】</li> </ul>

## 埼玉県立坂戸高等学校

### ■授業の概要

<p>1. 学校名：埼玉県立坂戸高等学校</p> <p>2. 科目名：スペイン語コミュニケーション</p> <p>3. 単位数：2単位（週1回：45分授業×2コマ連続）</p> <p>4. 授業者：廣瀬 瞳（非常勤講師・他教科担当なし）メキシコ出身の多言語支援員とTT有り</p> <p>5. クラスの構成：外国語科 高校2年生10名（男子5名・女子5名）</p> <p>6. 生徒の概況：今年度初めてスペイン語を学習し始めた生徒たちである。 外国語科の生徒であるため、比較的外国語への興味・関心が高い。</p> <p>7. 使用教科書：朝日出版社『イラストで楽しもう、スペイン語！改訂版』</p>
---

### ■年間指導案

#### 1. 年間目標

<p>高校初修外国語の見方・考え方ははたらかせ、スペイン語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーション能力を身につける。</p> <p>また、スペイン語がどこの国や地域で使用されているかを理解し、それらの国や地域の社会文化に目を向ける態度を養う。</p>		
<p>実際の社会や生活で生きて働く</p> <p>知識・技能の習得</p>	<p>未知の状況にも対応できる</p> <p>思考力・判断力・表現力の育成</p>	<p>学んだことを人生や社会に生かそうとする</p> <p>学びに向かう力・人間性の涵養</p>
<p>スペイン語の音声や語彙、表現、文法、言語のはたらきを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身につける。</p> <p>スペイン語が使用されている国や地域、及びその地域の社会文化を知る。</p>	<p>スペイン語によるコミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、日常的な話題についてスペイン語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。</p>	<p>スペイン語と結びついた社会や文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的にスペイン語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。</p> <p>日本及びスペイン語圏に住む人々の社会や文化に目を向け、比較対照しつつ考察し理解しようとする態度を養う。</p>

## 2. 年間の単元構成

	単元の内容	パフォーマンス課題
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○スペイン語で挨拶をしよう</li> <li>◇アルファベット、発音、綴り</li> <li>◇挨拶表現</li> <li>◆スペイン語が話されている国・地域</li> </ul>	
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自己紹介をしよう</li> <li>◇名詞の性数、数字 (0-10)、国籍・職業を表す語</li> <li>◇主格の人称代名詞</li> <li>◇ser 動詞と estar 動詞</li> </ul>	
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自己紹介をして質問し合おう</li> <li>◇疑問文、肯定文、否定文</li> <li>◆スペイン語圏の人の名前</li> </ul>	自己紹介をして質問し合おう
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆多言語支援員によるメキシコの文化紹介</li> </ul>	
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>○スペイン語圏の国の位置を説明しよう</li> <li>◇場所を表す表現：estar 動詞と位置を表す副詞や前置詞</li> <li>◇存在を表す表現：Hay～</li> </ul>	
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>○スペイン語圏の食材と産地の国の特徴を紹介しよう</li> <li>◇天気を表す表現：動詞 (hacer,llover,nevar)</li> <li>◇接続詞 (por eso, porque, pero)</li> <li>◆日本のスーパーにあるスペイン語圏の食材</li> </ul>	スペイン語圏の食材と産地を紹介しよう
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の部屋や家にあるものを紹介しよう</li> <li>◇形容詞、色の表現</li> <li>◇家や室内にあるもの</li> <li>◇(前置詞+) 疑問詞のある疑問文</li> </ul>	
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基本的な動詞を使って自分の生活を伝えよう</li> <li>◇規則動詞 (-ar 動詞,-er 動詞,-ir 動詞)</li> <li>◇家族を表す語彙</li> <li>◇数字 (11～100)</li> </ul>	
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の家族や好きな人物のこと (名前、年齢、性格、容姿) を紹介しよう</li> <li>◇性格・容姿を表す形容詞</li> <li>◇形容詞の比較級と最上級</li> <li>◆スペイン語圏の人々</li> </ul>	家族や好きな人物を紹介しよう

## ■ 単元指導案

### 1. 単元名

スペイン語圏の食材と産地の国の特徴を紹介しよう

### 2. パフォーマンス課題

(パフォーマンス課題の内容)

坂戸スーパーは、「スペイン・ラテンアメリカフェスティバル」において、スペイン語圏の食品を紹介・販売するブースを出すことにしました。このイベントには、スペイン語圏の方もたくさん来場するため、皆さんは案内係をお願いされました。

来場者の皆さんにスペイン語圏の国が産地となっている食品、国の名前と位置、地理的特徴や気候の特徴（国の位置、山/海/農園がある、気候）などをスペイン語で簡単に紹介してください。

【生徒が担当予定の食材と産地の国】

オリーブ／スペイン

生ハム（豚肉）／スペイン

にんにく／スペイン

アボカド／メキシコ

ライム／メキシコ

コーヒー／グアテマラ

バナナ／エクアドル

ワイン（ぶどう）／チリ

サーモン／チリ

えび／アルゼンチン



(パフォーマンス課題で取り上げる文化・社会事象とその扱い方)

スペイン語圏の地理と特産物：

日本と遠いスペイン語圏の国や地域を、スーパーの食材から見つけることで日常生活にもスペイン語圏との関わりがあることに気づく。また、その食材を通してスペイン語圏の国の地理的特徴を考え、それぞれの国の位置を知るとともに、なぜその国で生産量が多いかを考える。

### 3. 単元目標

実際の社会や生活で生きて働く 知識・技能の習得	未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成	学んだことを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養
<p>【知識】 スペイン語圏の食材を紹介するために必要な音声や語彙、表現、文法、言語のはたらきを理解する。</p> <p>スペイン語圏の食材及びその産地の国の地理や気候の特徴を理解する。</p> <p>【技能】 食材を紹介するのに必要な表現を正しく活用して話す技能を身につける。</p>	<p>食材と産地紹介において、スペイン語圏の国の地理や気候の特徴を紹介するために、調査した国の情報について、位置・存在、及び気候の表現を使いながら、わかりやすい構成で話して〔発表して〕紹介する。</p>	<p>スペイン語と結びついた社会や文化に対する理解を深め、聞き手に配慮しながら、主体的にスペイン語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。</p> <p>日本及びスペイン語圏に住む人々の社会や文化に目を向け、比較対照しつつ考察し理解しようとする態度を養う。</p>

### 4. 単元指導における評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	高校初修外国語として重視すること
⇒観点別学習状況評価（数値化＝評定化する）			⇒（数値化しない）
<p>【知識】 スペイン語圏の食材を紹介するために必要な音声や語彙、表現、文法、言語のはたらきを理解している。</p> <p>スペイン語圏の食材及びその産地の国の地理や気候の特徴を理解している。</p> <p>【技能】 食材を紹介するのに必要な表現を正しく活用して話すことができる。</p>	<p>食材と産地紹介において、スペイン語圏の国の地理や気候の特徴を紹介するために、調査した国の情報について、位置・存在、及び気候の表現を使いながら、わかりやすい構成で話して紹介できる。</p>	<p>地理に関する表現（位置、存在）や天気などの文法表現を学ぶ際に、紹介の対象となるスペイン語圏であればどのように紹介できるかを考えながら、粘り強く学習に取り組んでいる。</p>	<p>スペイン語圏の社会や文化に目を向け、日本社会との関わりに気づき、スペイン語圏の国や地域に親しんでいる。</p> <p>また、それぞれの地域の地理的特徴からそれぞれの国の産業や生産品の関係を考察し、理解している。</p>

## 5. 各次の指導と評価の具体的な計画

次	学習活動	評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スーパーにあるスペイン語圏の食材の情報共有、及び課題の説明と国・食材の担当決定</li> <li>・ ser 動詞の復習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スペイン語圏が産地の食品の写真&amp;課題シート点検</li> <li>→【主体的に学習に取り組む態度】</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場所の表現：</li> <li>・ estar 動詞と位置を表す副詞や前置詞</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小テスト①（3次で実施）による確認</li> <li>→【知識・技能】</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・存在を表す Hay～</li> <li>・ estar 動詞と hay の違い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小テスト②（4次で実施）による確認</li> <li>→【知識・技能】</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天気を表す表現</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小テスト③（5次で実施）による確認</li> <li>→【知識・技能】</li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習した表現の復習</li> <li>・食品紹介の台本作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・台本作成シートの点検</li> <li>→【思考・判断・表現】</li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発音確認、リハーサル</li> </ul>	<p>（記録に残す評価は行わないが、ねらいに即して生徒の活動を確認する。）</p>
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パフォーマンス課題実施</li> <li>・スペイン語圏の国の位置と食品について考察</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の発表を確認（ループリック評価）</li> <li>→【知識・技能】</li> <li>→【思考・判断・表現】</li> <li>→【主体的に学習に取り組む態度】</li> <li>・視聴メモと、振り返りシートの確認</li> <li>→【主体的に学習に取り組む態度】</li> <li>→【高校初修外国語として重視すること】</li> </ul>

<参考 1> 評価用ルーブリック

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
a	単元で学習した文法項目をミスなく用いて、正しい発音で流暢にスペイン語圏の食材や産地を紹介できている。	調査した食材や国の情報を、接続詞を適切に用いながら、相手にわかりやすい構成で紹介している。	調査した食材や国の紹介の際に、必要最低限の情報に加えて2文以上話そうとしている。スペイン語を話すときには間違いを恐れず、聞こえる声で、原稿を見ずに相手に伝えようとしている。
b	一部に誤りがあるが単元で学習した文法項目を用いており、理解に困難な発音でスペイン語圏の食材や産地を紹介できている。	調査した食材や国の情報を、相手にわかりやすい構成で紹介している。	調査した食材や国の紹介の際に、必要最低限の情報に加えて1文以上話そうとしている。スペイン語を話すときには間違いを恐れず、聞こえる声で、一部原稿を見ながらであるが相手に伝えようとしている。
c	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。

<参考 2> 発表視聴用ワークシート（クイズは発表前に生徒が作成）

スペイン語圏の食材と産地をまとめよう

【                   】

世界で \_\_\_\_\_ 番目の生産国  
たかさんの \_\_\_\_\_ がある

---

世界で \_\_\_\_\_ 番目の生産国  
一年中 \_\_\_\_\_



【                   】

\_\_\_\_\_ に採れる  
世界で \_\_\_\_\_ 番目の生産量

---

\_\_\_\_\_ で採れる  
世界で \_\_\_\_\_ 番目の輸出国

---

\_\_\_\_\_ 種類のハムがある  
ハモン・セラノとハモン・  
\_\_\_\_\_ が美味しい

【                   】

\_\_\_\_\_ 中央アメリカの \_\_\_\_\_ にある  
\_\_\_\_\_ で人気

【                   】

\_\_\_\_\_ 気候は \_\_\_\_\_  
イースター島の \_\_\_\_\_ がある国

【                   】

\_\_\_\_\_ 南アメリカの \_\_\_\_\_ にある  
冷たい \_\_\_\_\_ がある

【                   】

\_\_\_\_\_ 南部の気候は \_\_\_\_\_  
冬に \_\_\_\_\_ で魚が獲れる

## 獨協高等学校

### ■授業の概要

1. 学校名：獨協高等学校
2. 科目名：ドイツ語I
3. 単位数：4単位（週2時間日本人、1時間ドイツ人ネイティブ、補講等）、（選択科目）
4. 授業者：鈴木 冴子
5. クラスの構成：高校1年生男子 12名
6. 生徒の概況：ドイツへの滞在経験がある生徒や、中学校在籍時よりドイツやドイツ語圏の文化への興味関心が高い生徒が多い。じっくり学ぶというよりは、学んだことをすぐ活用しようとしている。コツコツを学んだりすることが苦手で、すぐに答えが欲しい生徒もいたり、2学期に入りやる気が低下した生徒もいる。
7. 使用教科書：『Start frei！1』（三修社）

### ■年間指導案

#### 1. 年間目標

<p>「高校初修外国語の見方・考え方」を働かせ、ドイツ語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり、状況を判断して表現したり伝え合ったりするコミュニケーション能力を身に付け、自分がドイツ語を使用する場面で、自信をもって対応できるようになる。</p> <p>ドイツ語の特性及び言語に結びついて文化や社会、ドイツ語を使用する人々の考え方や価値観に関心を持ち、自他の文化や社会を理解する。</p> <p>自分や他者に対して受け入れることのできる寛容さを身につけ、世界へ目を向けることができるようになる。</p>		
<p>実際の社会や生活で生きて働く 知識・技能の習得</p>	<p>未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成</p>	<p>学んだことを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養</p>
<p>ドイツ語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにといて活用できる技術を身に付ける。</p>	<p>コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、ドイツ語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。</p>	<p>ドイツ語と結びついた文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら主体的にドイツ語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。</p> <p>ドイツ語の特性やドイツ語を使用する人々の考え方、価値観に関心を持ち、自己及び他者の文化や社会に目を向け、比較対照しつつ考察し理解しようとする態度を養う。</p>

## 2. 年間の単元構成

	単元の内容	パフォーマンス課題
1	○人と知り合う (Lektion 1 Kennenlernen) ◇人称代名詞、動詞の変化、疑問文の作り方	自己紹介をしよう
2	○自由時間の過ごし方について (Lektion 2 Freizeit) ◇動詞の不規則変化、男性形と女性形 ◆住所表記、部活動	有名人を紹介しよう
3	○1日の行動について (Lektion 3 Tagesablauf) ◇分離動詞、語順、話法の助動詞 ◇時計表現、約束を取り付ける、日常生活 (学校) ◆ドイツの学校生活	学校の1日について紹介しよう
4	○物の表現と住まいについて (Lektion 4 Wohnen) ◇名詞の性と格 (主格・目的格)、否定冠詞、所有冠詞 ◆住まいについて	
5	○食事について (Lektion 5 Essen und Trinken) ◇mögen、目的格、3人称人称代名詞 ◆注文方法の違い、食生活	注文と会計を済ませよう 日本のお菓子を紹介しよう
6	○買い物について (Lektion 6 Einkaufen) ◇場所を表す前置詞、与格、指示代名詞 ◆買い物の場所、時間について	買い物スポットについて紹介しよう

## ■ 単元指導案

### 1. 単元名

「1日の行動について」 Lektion 3

### 2. パフォーマンス課題

(パフォーマンス課題の内容)

獨協高校のドイツ語講座では、交流校とやりとりをしています。今回、交流校の生徒が学校での生活について紹介してくれたので、それに返事を出すことになりました。自分の1日について文章にまとめ、それを象徴するような写真を付けて、相手校へメールを送ってください。

(パフォーマンス課題で取り上げる文化・社会事象とその扱い方)

ドイツの学校生活(1日の過ごし方)について学び、獨協高校での過ごし方と比較し、学校生活について考察する。

### 3. 単元目標

実際の社会や生活で生きて働く 知識・技能の習得	未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成	学んだことを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養
<p>【知識】1日の過ごし方を表すのに必要な語彙、表現、文法、言語の働きについて理解する。</p> <p>【技能】1日の過ごし方を表すのに必要な表現を正しく活用する技能を身に付ける。</p>	<p>自分の1日の過ごし方について、相手校の生徒に伝わるように簡単な語句や文を用い、書いて説明する。</p> <p>ドイツの生徒の1日について理解し、重要なところを要約して話す。</p>	<p>ドイツの高校生の生活と自分たちの生活を比べ、自分たちの生活をドイツ語で粘りづく表現しようとする。</p> <p>日本とドイツの学校のある1日の生活の違いに気づくとともに、学校の社会的位置づけについて比較することを通して、ドイツをより身近なものとして考えようとする。</p>

#### 4. 単元指導における評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	高校初修外国語として重視すること
⇒観点別学習状況評価（数値化＝評定化する）			⇒（数値化しない）
<p>【知識】1日の過ごし方を表すのに必要な語彙、表現、文法、言語の働きについて理解している。</p> <p>【技能】1日の過ごし方を表すのに必要な表現を正しく活用する技能を身に付けている。</p>	<p>自分の1日の過ごし方について、相手校の生徒に伝わるように簡単な語句や文を用い、書いて説明している。</p> <p>ドイツの生徒の1日について理解し、重要なところを要約して話している。</p>	<p>ドイツの高校生の生活と自分たちの生活を比べ、自分たちの生活をドイツ語で粘りづく表現しようとしている。</p>	<p>日本とドイツの学校のある1日の生活の違いに気づくとともに、学校の社会的位置づけについて比較することを通して、ドイツをより身近なものとして考えようとしている。</p>

#### 5. 各次の指導と評価の具体的な計画

次	学習活動	評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元の説明</li> <li>24時間の時計表現を学ぶ</li> </ul>	<p>（記録に残す評価は行わないが、ねらいに即して生徒の発言を確認する）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学期末のテスト（筆記・口頭）</li> </ul> <p>→【知識・技能】</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>時計のカジュアル表現を学ぶ</li> </ul>	<p>（記録に残す評価は行わないが、ねらいに即して生徒の発言を確認する）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学期末のテスト（筆記・口頭）</li> </ul> <p>→【知識・技能】</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学生の1日について読み取る</li> </ul>	<p>（記録に残す評価は行わないが、ねらいに即して生徒の発言を確認する）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学期末のテスト（筆記・口頭）</li> </ul> <p>→【知識・技能】</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>1週間の予定についてやりとりをする</li> </ul>	<p>（記録に残す評価は行わないが、ねらいに即して生徒の発言を確認する）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学期末のテスト（筆記・口頭）</li> </ul> <p>→【知識・技能】</p> <p>→【思考・判断・表現】</p>

5	・約束をとりつける	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プチパフォーマンスの実施（授業中の課題）</li> <li>・学期末のテスト（筆記・口頭） <ul style="list-style-type: none"> <li>→【知識・技能】</li> <li>→【思考・判断・表現】</li> <li>→【主体的に取り組む態度】</li> </ul> </li> </ul>
6	・自分のできること、できないことを表現する	<p>（記録に残す評価は行わないが、ねらいに即して生徒の発言を確認する）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学期末のテスト（筆記・口頭） <ul style="list-style-type: none"> <li>→【知識・技能】</li> <li>→【思考・判断・表現】</li> </ul> </li> </ul>
7	・ドイツの生徒の1日について読んで理解する	<p>（記録に残す評価は行わないが、ねらいに即して生徒の発表を確認する）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学期末のテスト（筆記・口頭） <ul style="list-style-type: none"> <li>→【思考・判断・表現】</li> <li>→【主体的に取り組む態度】</li> <li>→【高校初修外国語として重視すること】</li> </ul> </li> </ul>
8	・自分の学校生活について書いてまとめ、ドイツへ送る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が書いたものの確認（ループリック評価） <ul style="list-style-type: none"> <li>→【思考・判断・表現】</li> </ul> </li> </ul>

## 岡山商科大学附属高等学校

### ■授業の概要

1. 学校名：岡山商科大学附属高等学校
2. 科目名：中国語会話I
3. 単位数：2 単位（50 分 × 週 2 時間【連続授業】）
4. 授業者：水口 一久
5. クラスの構成：高校 2 年次生
6. 生徒の概況：中国語初習クラス 英語に苦手意識があり選択で履修している生徒。 本来の学習意欲は低くないが、学力は低い生徒である。
7. 使用教科書：『実学実用 初級中国語』陳淑梅 古屋順子 朝日出版

### ■年間指導案

#### 1. 年間目標

<p>高校初修中国語の見方・考え方を働かせ、中国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり、状況を判断して的確に表現したり伝えあったりするコミュニケーション能力を身に付ける。</p> <p>中国語圏の国々の文化や特徴などに関する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に楽しみながら中国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。</p>		
<p>実際の社会や生活で生きて働く</p> <p>知識・技能の習得</p>	<p>未知の状況にも対応できる</p> <p>思考力・判断力・表現力の育成</p>	<p>学んだことを人生や社会に生かそうとする</p> <p>学びに向かう力・人間性の涵養</p>
<p><b>【知識】</b> 中国語の発音のしかたや語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解する。</p> <p><b>【技能】</b> これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書く（打つ）ことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる。</p>	<p>中国語でコミュニケーションを行う目的や場面、状況を的確に判断し、日常的な話題や、社会的な話題について、中国語を使って簡単な情報や考えなどをまとめ、これらを活用して表現したり、伝えあったりすることができる。</p>	<p>中国語に結びついた文化と中国語圏の国々の特徴に関する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に様々な人とコミュニケーションを図る態度を養う。</p> <p>多様な文化的背景や価値観を持つ人々との円滑な交流を図り、相手の意図を理解しながら自分の考えを適切に伝える力を身につけることができるようなコミュニケーションストラテジーを養う。</p>

## 2. 年間の単元構成

	単元の内容	パフォーマンス課題
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基本文法と音をモノにしよう 1               <ul style="list-style-type: none"> <li>◇音に慣れよう（食べる、飲む）</li> <li>◇早口言葉（肯定・否定・疑問文・疑問詞疑問文）</li> <li>◇反応トレーニング「高い!低い!」（声調）</li> <li>◇とことん使おう 1・2・3（数字・月日・曜日）</li> <li>◇名前と挨拶（“姓”“叫”・省略疑問文）</li> </ul> </li> </ul>	
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自己紹介をしよう               <ul style="list-style-type: none"> <li>◇学年（“是”“也”“很”）</li> <li>◇出身（連体修飾語）</li> <li>◇家族構成（“有”“都”）（量詞）</li> </ul> </li> </ul>	自己紹介をしよう
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○電話でテイクアウトに挑戦               <ul style="list-style-type: none"> <li>◇注文（助動詞“想”“要”“点”）</li> <li>◇色々な料理名                   <ul style="list-style-type: none"> <li>◆料理名付けのパターン</li> <li>◆電話の掛け方・敬語表現</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>	電話でテイクアウトに挑戦
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○食事について話そう               <ul style="list-style-type: none"> <li>◇味覚（“甜”“咸”“辣”“酸”“苦”）</li> <li>◇少し（“有点儿”“一点儿”）</li> <li>◆食習慣（朝食や各地の味付けなど）</li> </ul> </li> </ul>	食事について話そう
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>○朗読大会に参加しよう—美丽的公鸡               <ul style="list-style-type: none"> <li>◇形容詞及び形容詞の否定</li> <li>◇前置詞・接続詞・量詞</li> <li>◇“地”“得”補語</li> </ul> </li> </ul>	
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>○迷子の人を助けよう               <ul style="list-style-type: none"> <li>◇道案内（“往”“到”“在”“拐”）</li> <li>◇方向・位置（“旁边”“对面”“左边”“右边”）</li> <li>◆道案内の方法（ジェスチャー等）</li> </ul> </li> </ul>	迷子の人を助けよう
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>○料理を注文しよう               <ul style="list-style-type: none"> <li>◇注文（既習）</li> <li>◇数量や好みを伝える（“一点儿”“多”“少”“不要”“别的”）</li> <li>◆中国語圏でのメニューの選び方やマナー</li> </ul> </li> </ul>	料理を注文しよう

## ■単元指導案

### 1. 単元名

料理を注文しよう ～食文化に関する理解から注文まで～

### 2. パフォーマンス課題

(パフォーマンス課題の内容)

中国の交流校の高校生が、私たちの学校にきて、数日滞在することになりました。滞在中に1回、地元の中華料理店でもてなす夕食会を開催します。彼らに喜んでもらえるメニューを考え、注文してください。

(パフォーマンス課題で取り上げる文化・社会事象とその扱い方)

料理の注文方法：中国語圏におけるホストの料理の注文方法や礼儀作法を通じて、背後にある文化的価値観や人間関係の在り方を考察する。さらに、日本との比較を通じて、食事の場が果たす社会的・文化的役割について深く探求する。

### 3. 単元目標

実際の社会や生活で生きて働く 知識・技能の習得	未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成	学んだことを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養
<p><b>【知識】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中国語圏の食文化に対して理解を深めており、その文化に応じた語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解する。</li> </ul> <p><b>【技能】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>入店から注文、退店まで一連の会話を口頭で表現を正しく活用する技術を身に付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中華料理店で食事を注文するために、ホストとゲストが各自の役割を把握し、調査した中国の食事文化に則して、簡単な語句や文を用いて、互いに協力して注文をすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中国語圏の食文化について粘り強く調べると共に、自分が表現したい内容を自発的に調べ、表現しようとする。</li> <li>聞き手に配慮しながら、コミュニケーションを図ることで、食の文化的背景や、人々の価値観に触れ、主体的に中国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。</li> </ul>

#### 4. 単元指導における評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	高校初修外国語として重視すること
⇒観点別学習状況評価（数値化＝評定化する）			⇒（数値化しない）
<p><b>【知識】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中国語圏の食文化に対して理解を深めており、その文化に応じた語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解している。</li> </ul> <p><b>【技能】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>入店から注文、退店まで一連の会話を口頭で表現を正しく活用する技術を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中華料理店で食事を注文（やりとり）するために、ホストとゲストが各自の役割を把握し、調査した中国の食事文化に則して、簡単な語句や文を用いて、互いに協力して注文をしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中国語圏の食文化について粘り強く調べると共に、自分が表現したい内容を自発的に調べ、表現しようとしている。</li> <li>相手の意図を正確に理解し、自分の考えを適切に伝えるために、言い換えや質問、非言語的手段を積極的に活用している。</li> <li>既習の内容を積極的に活用している。</li> <li>生徒が協働的に学び合っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中国語圏の食文化やマナーに親しみ、その背景にある価値観に気づきながら、料理の注文を通じて異文化理解を深めようとしている。</li> <li>相手に配慮した言葉遣いや態度を工夫し、円滑なコミュニケーションを図ろうとしている。</li> </ul>

#### 5. 各次の指導と評価の具体的な計画

次	学習活動	評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>本単元の目標の確認</li> <li>4グループに分かれて、それぞれが追加で場面設定を行う。</li> <li>それぞれの場面に応じたもてなし方の設定。</li> <li>日中の食文化の違いや、レストランでのマナーや注文の仕方について調べ、Goodnotesにまとめる。</li> <li>まとめた内容に沿って、入店からフレーズ(日本語)をGoodnotesにまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Goodnotesの記述の点検 →【知識・技能】</li> <li>→【思考・判断・表現】</li> <li>グループでの調べ学習の観察 →【思考・判断・表現】</li> <li>Goodnotesの記述の確認 →【主体的に学習に取り組む態度】</li> </ul>

2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各グループ、前次に考えたフレーズに対して、未習の単語を提示し、入店から注文、退店までの一連の流れ、ホスト、ゲスト、店員の言葉を想像して台本を作成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・台本作成と発表準備の点検 <ul style="list-style-type: none"> <li>→【知識・技能】</li> <li>→【思考・判断・表現】</li> </ul> </li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上記の台本を元に、役割分担し各グループで暗誦練習をする。</li> <li>・グループで台本をもとに、シミュレーション練習を行う。</li> <li>・グループでリハーサルを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ活動の観察 <ul style="list-style-type: none"> <li>→【思考・判断・表現】</li> </ul> </li> <li>・シミュレーション練習の観察 <ul style="list-style-type: none"> <li>→【主体的に学習に取り組む態度】</li> </ul> </li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表（撮影をする）。</li> <li>・生徒は、Google Formsに感想や気付いたことを記述し、作り手に質問し、互いに評価を行う。</li> <li>・単元の振り返りを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表の確認（ループリックで評価） <ul style="list-style-type: none"> <li>→【知識・技能】</li> <li>→【思考・判断・表現】</li> </ul> </li> <li>・相互評価の点検（Google Forms） <ul style="list-style-type: none"> <li>→【知識・技能】</li> </ul> </li> <li>・振り返りの分析 <ul style="list-style-type: none"> <li>→【主体的に学習に取り組む態度】</li> <li>→【高校初修外国語として重視したい点】</li> </ul> </li> </ul>

## 大阪府立門真なみはや高等学校

### ■授業の概要

1. 学校名：大阪府立門真なみはや高等学校
2. 科目名：「中国語演習」
3. 単位数：2 単位（50 分×週 2 時間）連続授業
4. 授業者：柳 素子、NCT（外国語（中国語）指導員）
5. クラスの構成：2 年生 25 名
6. 生徒の概況：本クラスは 25 名から成り、4 月から週 2 コマのペースで初級レベルの授業を受けている。中国語に対する興味関心は多少あるものの、発言は少なく、発音練習の時の声も小さい。同クラスには中国ルーツの生徒が 5 名在籍しており、他教室において NCT の指導のもと問題演習を行っている。ただし、パフォーマンス課題には日本語母語話者生徒とともに取り組む。
7. 使用教科書：『できる・つたわる・コミュニケーション中国語』（白水社）

### ■年間指導案

#### 1. 年間目標

<p>高校初修外国語の見方・考え方を働かせ、聞くこと、読むこと、話すこと[やりとり・発表]、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーション能力を身につける。また、中国語とむすびついた文化・習慣についても理解を深め、多文化共生の考え方にも着目してとらえる。</p>		
<p>実際の社会や生活で生きて働く 知識・技能の習得</p>	<p>未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成</p>	<p>学んだことを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養</p>
<p>中国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと[やりとり・発表]、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身につけるようにする。</p>	<p>コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題について、中国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる能力を養う。</p>	<p>中国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、話し手など他者に配慮して、主体的、自律的に中国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。</p> <p>来るべき多文化共生社会において、中国語圏にルーツのある人々と積極的に関わり共生していこうとする態度を育成する。</p>

## 2. 年間の単元構成

	単元の内容	パフォーマンス課題
1	<p>○<u>自己紹介をしよう!</u></p> <p>◇発音 (ピンイン、覚えておきたい表現、数字)</p> <p>◇あいさつする【第1課】 (人称代名詞、“是(だれ)”、“吗(～か)”疑問文)</p> <p>◇名前を尋ねる【第2課】 (疑問詞“谁(だれ)”、疑問詞“什么(何、何の)”、“的(～の)”)</p> <p>◇交流に使える表現 (自作プリント)</p> <p>◆中国の概況 (中国の地理、少数民族)</p> <p>◆あいさつ (声掛けの仕方、謝罪の表現のニュアンス)</p> <p>◆数字 (指数字、縁起のいい数字)</p>	「校内の中国ルーツの生徒と交流しよう!」(やりとり)
2	<p>○<u>近況や予定、場所を尋ねよう!</u></p> <p>◇食べたいものを尋ねる【第3課】 (動詞述語文、副詞“也(～も)”、省略疑問文“呢(～は?)”)</p> <p>◇近況を尋ねる【第4課】 (形容詞述語文、曜日の言い方・尋ね方)</p> <p>◇予定を尋ねる【第5課】(疑問詞“哪儿”「どこ」、時刻の言い方と数詞、前置詞“和”「～と」)</p> <p>◇場所を尋ねる【第6課】 (指示代名詞(1)、存在を表す“在”)</p> <p>◆中国の伝統行事① (“端午节”、日本の端午の節句との比較)</p>	
3	<p>○<u>買い物をしよう!</u></p> <p>◇注文する【第7課】 (所有と存在を表す“有”、数量の言い方)</p> <p>◇値段の交渉をする【第8課】 (指示代名詞(2)、いろいろな量詞、値段の言い方・尋ね方)</p> <p>◆中国の貨幣と紙幣</p> <p>◆中国の伝統行事② (“中秋节”、日本のお月見との比較)</p>	中国食材店で買い物をしてみよう!
4	<p>○<u>冬休みにあったことを伝えよう!</u></p> <p>◇出来事を尋ねる①【第9課】 (動作が発生したことを表す“了”、連動文(1))</p> <p>◇出来事を尋ねる②【第10課】 (様態補語、“是～的(～なのです)”)</p> <p>◆色が表すニュアンス</p> <p>◆中国の世界遺産</p> <p>◆中国の伝統行事③ (“春节”、日本の正月との比較)</p>	日本の正月と中国の旧正月を比較してみよう!

## ■ 単元指導案

### 1. 単元名

『自己紹介をしよう!』

### 2. パフォーマンス課題

(パフォーマンス課題の内容)

本校には中国ルーツの生徒が多く在籍しています。今回、1年生『母語中国語』クラスのルーツ生と交流授業をすることになりました。自己紹介をして、「中国で流行しているもの」を聞きましょう。

(パフォーマンス課題で取り上げる文化・社会事象とその扱い方)

- ・中国で流行しているものについて、中国の伝統文化、習慣と関連がないか考えさせる。  
(色、縁起のいい数字など)
- ・中国ルーツの生徒との会話から、あいさつ表現等のさまざまな用法について理解する。  
(例：“谢谢”は感謝の意を表すほか、「よろしくお願いします。」という意味でも使われていることに気づかせる。)
- ・初級レベルの学習者が中国語母語話者と中国語でコミュニケーションを取るのは難しく、これまでの実践でも沈黙が生じたり、途中で会話をあきらめたりする状況が見られた。そこで、コミュニケーションストラテジー（繰り返し要求（ゆっくり言ってもらおう、紙に書いてもらうよう依頼する）、あいづち、ジェスチャーなど）や気持ちを伝える表現（共感する、褒める、感謝する、驚くなど）を学習し、円滑に会話を継続していくための足場掛けを行う。

### 3. 単元目標

<p>実際の社会や生活で生きて働く 知識・技能の習得</p>	<p>未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力 の育成</p>	<p>学んだことを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養</p>
<p>【知識】中国ルーツの生徒と交流をする際に必要な語彙、表現、文法、言語の働き（<u>コミュニケーションを円滑にする</u>：相づちを打つ、聞き直す、繰り返すなど、<u>気持ちを伝える</u>：礼感謝する、ほめる、謝る、共感する、驚くなど（ジェスチャーなどの非言語的要素も含む））を理解する。</p> <p>【技能】中国ルーツの生徒と交流する際に必要な表現を正しく活用する技能を身に付ける。</p>	<p>中国ルーツの生徒との交流場面において、必要な基本的な語句や文を用いて適切に話したり、聞いたりすることができる（コミュニケーションを円滑にする表現、気持ちを伝える表現を状況に合わせて用いることができる）。</p>	<p>中国ルーツの生徒との交流を通して、その背景にある文化・習慣に対する理解を深める。</p> <p>また、中国ルーツの生徒との会話を円滑に継続させるために、主体的、自律的に中国語を用いてコミュニケーションを図ることができる。</p>

#### 4. 単元指導における評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	高校初修外国語として重視すること
⇒観点別学習状況評価（数値化＝評定化する）			⇒（数値化しない）
<p>【知識】中国ルーツの生徒と交流をする際に必要な語彙、表現、文法、言語の働き（<u>コミュニケーションを円滑にする：相づちを打つ、聞き直す、繰り返すなど、気持ちを伝える：感謝する、ほめる、謝る、共感する、驚くなど（ジェスチャーなどの非言語的要素も含む）</u>）を理解している。</p> <p>【技能】中国のルーツ生と交流する際に必要な表現を正しく活用する技能を身に付けている。</p>	<p>中国ルーツの生徒との交流場面において、必要な基本的な語句や文を用いて適切に話したり、聞いたりしている（コミュニケーションを円滑にする表現、気持ちを伝える表現を状況に合わせて用いている）。</p>	<p>中国ルーツの生徒との交流を通して、会話の内容の背景にある中国の文化・習慣に対する理解を深めている。</p> <p>相手との会話を円滑に継続させるために、会話の状況を客観的に把握し（メタ認知）、コミュニケーションストラテジーなども活用して、粘り強く学習活動に取り組もうとしている（自己調整）。</p>	<p>単元の学習後も、中国語圏にルーツのある人々が多く居住する地域において、自らとは異なる文化、価値観について理解し、中国語を使って積極的に関わり、共生しようとする意欲が見られる。</p>

## 5. 各次の指導と評価の具体的な計画

次	学習活動	評価方法
1	・発音（ピンイン、覚えておきたい表現、数字）を学習する。	・1学期期末試験（筆記） →【知識・技能】
2	【第1課】あいさつする（1） ・新出単語、本文の発音練習、 ・「文法のポイント」の学習（人称代名詞、“是（だれ）”、“吗（～か）”疑問文）	・1学期期末試験（筆記） →【知識・技能】
3	【第1課】あいさつする（2） ・前時の復習を行い、練習A、練習Bに取り組む。	・1学期期末試験（筆記） →【知識・技能】 →【思考・判断・表現】 ・本文の暗唱テスト →【知識・技能】
4	【第2課】名前を尋ねる（1） ・新出単語、本文の発音練習 ・「文法のポイント」の学習（疑問詞“誰（だれ）” ・疑問詞“什么（何、何の）”、“的（～の）”の学習	・1学期末の筆記テスト →【知識・技能】
5	【第2課】名前を尋ねる（2） ・前時の復習を行い、練習A、練習Bに取り組む。	・1学期末の筆記テスト →【知識・技能】 →【思考・判断・表現】 ・本文の暗唱テスト →【知識・技能】
6	・パフォーマンス課題を理解する。 ・交流の準備（自己紹介文の作成を含む。）	（記録に残す評価は行わないが、ねらいに即して生徒の活動を確認する）
7	・中国ルーツの1年生（『中国語演習』に在籍している2年生も含む）との交流	（記録に残す評価は行わないが、ねらいに即して生徒の活動を確認する）
8	・リフレクションシートを使って、交流の振り返りを行う。	・リフレクションシートおよび交流中に使ったメモ（6次で作成したシート）の確認・分析・点検 →【知識・理解】 →【思考・判断・表現】 →【主体的に学習に取り組む態度】 →【高校初修外国語として重視すること】

## 新潟市立石山中学校

### ■授業の概要

<p>1. 学校名：新潟市立石山中学校</p> <p>2. 科目名：英語</p> <p>3. 単位数：4（週4時間）</p> <p>4. 授業者：武石 裕子</p> <p>5. クラスの構成：男子16人、女子16人</p> <p>6. 生徒の概況：明るく元気で、男女問わず誰とでも仲良く学習に取り組んでいるが、NRT（標準学力検査）の偏差値平均は全国平均を下回る。授業では反応も良く積極的に取り組むが、家庭学習時間が少ないせいか学習が積み重ならず、授業で学んだことが一人一人の学力に結びついていない。</p> <p>7. 使用教科書：NEW CROWN 三省堂</p>
--

### ■年間指導案

#### 1. 年間目標

<p>外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成する。</p>		
<p>実際の社会や生活で生きて働く 知識・技能の習得</p>	<p>未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成</p>	<p>学んだことを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養</p>
<p>外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付ける。</p>	<p>コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。</p>	<p>外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。</p>

## 2. 年間の単元構成

	単元の内容	パフォーマンス課題
4	Starter Classroom English、英語の文字と音、コミュニケーションを楽しもう	
5	Lesson1 About Me be 動詞の am, are と一般動詞、自己紹介の記事や会話を読む、What~do you...?	「プロフィールカードを使って自己紹介しよう」 (発表)
6	Lesson2 English Camp can、自己紹介ややり取りを読む、How many~ do you...?数字	「友達のことをもっと知ろう」(やり取り)
7,8,9	Lesson3 Our New Friend be 動詞の is、 what、 who、 目的格の代名詞 him、 her 人や物を紹介する文を聞いたり読んだり書いたりする、リスニング練習 (商品の説明)、スキット練習 (会話の始め方とあいづち)	Project1 理想のロボットを発表しよう (発表)
9,10	Lesson4 My Family, My Hometown 三単現、長文読解 (説明文)、リスニング練習 (競技会場のアナウンス)、スキット練習 (会話の終え方とあいづち) Which do you ~A or B?	身近な人や好きなキャラクターを紹介しよう (やり取り)
10,11	Lesson5 School Life in the U.S.A. 現在進行形、長文読解 (説明文)、リスニング練習 (映画の紹介)、スキット練習 (提案、好みを伝える)	学校生活や行事を紹介するメールを書こう (発表)
11,12	Lesson6 Discover Japan 過去形、長文読解 (物語文)、リスニング練習 (ボイスメッセージ)、スキット練習 (道順)	冬休みの思い出を絵日記に書こう (冬休みの課題、最初の授業で発表)
12,1	Lesson7 Wheelchair basketball be 動詞の過去形、長文読解 (物語文)、リスニング練習 (インタビュー)、スキット練習 (質問する、情報を付け加える)	あこがれ人について話そう (やり取り)
2,3	Lesson8 Green Festival 未来 (will, be going to)、長文読解 (説明文)、リスニング練習 (天気予報)、スキット練習 (描写、聞き直し)	Project3 大切なものを紹介しよう (発表)

## ■ 単元指導案

### 1. 単元名

My Family, My Hometown (Lesson4)

### 2. パフォーマンス課題

(パフォーマンス課題の内容)

ALT の先生は 1 週間に 5 つの学校を回っているので、〇〇中学校には週に 1 回だけ来てくれます。なかなか全員と話をする機会がないので、みんなからこの学校の先生のことや中学生に人気のある有名人やキャラクターについて聞きたいそうです。ALT の先生からも聞き返しや質問もあるので、写真を見せながら楽しくやり取りしよう。

(パフォーマンス課題で取り上げる文化・社会事象とその扱い方)

教科書では「サイコロトークをしよう」ということで、サイコロを用いて学校の先生やクラスメイト、家族や近所の人、有名人を紹介する「話すこと」の活動が設定されている。例えば年齢のように、日本では当然のことながら嫌悪感を感じる人がいても話題になるトピックでも、国によっては失礼になる場合もある。そのような国による違いにも気づかせ、コミュニケーションをとるときには常に相手の文化的背景に配慮する必要があることを伝える。この中では「家族」については、日本でも相手への配慮が必要なトピックである。相手に悲しい思いをさせることなく、もっとよくお互いに知るためにはどのような配慮が必要なのかも中学 1 年生のうちから考えさせていく。

### 3. 単元目標

実際の社会や生活で生きて働く 知識・技能の習得	未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成	学んだことを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養
<p>【知識】 三人称単数現在形を用いた文の特徴やきまりに関する事項を理解する。</p> <p>【技能】 三人称単数現在形を用いた文を正確に伝えたり、相手からの質問に答えたりする技能を身に付ける。</p>	<p>ALT に身近や人や好きなキャラクターを紹介するために、相手からの質問に答えたりしながら分かりやすくやり取りする。</p>	<p>ALT に身近や人や好きなキャラクターを紹介するために、相手からの質問に答えたりしながら分かりやすくやり取りしようとする。</p>

#### 4. 単元指導における評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	高校初修外国語として重視すること
⇒観点別学習状況評価（数値化＝評定化する）			⇒（数値化しない）
<p>【知識】 三人称単数現在形を用いた文の特徴やきまりに関する事項を理解している。</p> <p>【技能】 三人称単数現在形を用いた文を正確に伝えたり、相手からの質問に答えたりする技能を身に付けている。</p>	<p>ALT に身近や人や好きなキャラクターを紹介するために、相手からの質問に答えたりしながら分かりやすくやり取りしている。</p>	<p>ALT に身近や人や好きなキャラクターを紹介するために、相手からの質問に答えたりしながら分かりやすくやり取りしようとしている。</p>	<p>相手の文化的背景を踏まえてトピックや話す内容を考えている。</p>

## 5. 各次の指導と評価の具体的な計画

次	学習活動	評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三人称単数現在形の肯定文を理解する。</li> <li>・三人称単数現在形の肯定文を用いた英文の内容を理解する。</li> </ul>	<p>(記録に残す評価は行わないが、ねらいに即して生徒の活動ワークシートや振り返りを点検しコメントを返す)</p> <p>※単元末に成績に残す評価の材料とする</p> <p>→【知識・技能】</p> <p>→【主体的に学びに取り組む態度】</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三人称単数現在形の疑問文と否定文を用いた疑問文を理解する。</li> <li>・三人称単数現在形の疑問文と否定文を用いた英文の内容を理解する。</li> </ul>	<p>(記録に残す評価は行わないが、ねらいに即して生徒の活動ワークシートや振り返りを点検しコメントを返す)</p> <p>※単元末に成績に残す評価の材料とする</p> <p>→【知識・技能】</p> <p>→【主体的に学びに取り組む態度】</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イギリスの2つの都市の紹介について書かれた記事を読んで内容を理解する。</li> </ul>	<p>(記録に残す評価は行わないが、ねらいに即して生徒の活動ワークシートや振り返りを点検しコメントを返す)</p> <p>※単元末に成績に残す評価の材料とする</p> <p>→【知識・技能】</p> <p>→【主体的に学びに取り組む態度】</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パフォーマンスへの意欲づけ、目的、場面設定の理解 (Developing the context)、モデル文分析 (Modeling)</li> <li>・モデル文とメモを用いてペアで練習する。</li> <li>(Joint / Independent construction)</li> <li>・発表練習 (抑揚・ジェスチャーなど)</li> <li>・発表練習の動画を提出する</li> <li>・評価シートを提出する</li> <li>・発表する</li> <li>・自己評価シートを提出する</li> </ul>	<p>(記録に残す評価は行わないが、ねらいに即して生徒の振り返りシートと評価シートを点検しコメントを返す)</p> <p>→【思考・判断・表現】</p> <p>→【主体的に学びに取り組む態度】</p> <p>※単元末に成績に残す評価の材料とする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価シートの確認</li> </ul> <p>→【知識・技能】</p> <p>→【思考・判断・表現】</p> <p>→【主体的に学びに取り組む態度】</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・競技会場のアナウンスを聞いて、必要な情報を聞き取る</li> <li>・あいづちを打ちながら即興で会話をしている。</li> </ul>	<p>(記録に残す評価は行わないが、ねらいに即して生徒の振り返りシートを点検しコメントを返す)</p> <p>→【思考・判断・表現】</p>

# メンバー一覧

令和6年度「教員養成機関等との連携による専門人材育成・確保事業（グローバル化に対応した多様な外国語教育推進事業）」慶應義塾大学プロジェクト

## 研究拠点校

カリタス女子中学高等学校  
東京都立第五商業高等学校  
横浜市立みなと総合高等学校  
東京都立青梅総合高等学校  
神奈川県立藤沢総合高等学校  
東京都立北園高等学校  
神奈川県立深沢高等学校  
埼玉県立坂戸高等学校  
獨協中学・高等学校  
岡山商科大学附属高等学校

## 研究担当者

山下一夫	慶應義塾大学	中国語 ※研究主任
吉川龍生	慶應義塾大学	中国語
金景彩	慶應義塾大学	韓国語
小山美穂	カリタス女子中学高等学校	フランス語
柳虎順	東京都立第五商業高等学校	韓国語
遠藤正承	東京都立第五商業高等学校	韓国語
池谷尚美	横浜市立みなと総合高等学校	ドイツ語
温悠	横浜市立みなと総合高等学校	中国語
石黒みのり	東京都立青梅総合高等学校	韓国語
佐々木亮太	神奈川県立藤沢総合高等学校	スペイン語、英語
常廣徹	神奈川県立藤沢総合高等学校	中国語、国語
能登慶和	東京都立北園高等学校	ドイツ語
日比野規生	神奈川県立深沢高等学校	スペイン語、英語
廣瀬瞳	埼玉県立坂戸高等学校	スペイン語
鈴木冴子	獨協中学・高等学校	ドイツ語
水口一久	岡山商科大学附属高等学校	中国語

## 運営指導委員会

縣由衣子	慶應義塾大学	フランス語教育、英語教育
潮田央	神奈川県総合教育センター	中国語教育、国語教育
境一三	慶應義塾大学	ドイツ語、ドイツ語教育
水口景子	(公財)国際文化フォーラム	外国語教育、国際交流
山下誠	神奈川県立麻生総合高等学校 高等学校韓国朝鮮語教育ネットワーク	韓国語教育、社会科教育

## 拡大プロジェクトメンバー

Aqil Cheddadi	慶應義塾大学	フランス語
高島理恵	慶應義塾大学	スペイン語
武石裕子	新潟市立石山中学校	英語
鄭賢熙	青山学院高等部	韓国語
辻祐哉	神奈川県立平塚江南高等学校	英語
朴珉貞	日本外国語専門学校	韓国語
原田智津子	秋田県立能代松陽高等学校	韓国語・英語
藤岡安紀子	立命館宇治高等学校	中国語
松木瑤子	桐蔭横浜大学	フランス語
柳素子	大阪府立門真なみはや高等学校	中国語

## 臨時職員

仲眞優子

## 協力

(公財) 国際文化フォーラム

(一社) 日本外国語教育推進機構